

台南師範學校
創立拾周年紀念誌

274
26

274-26
1200501357947

〇
複写



始



創立拾周年



記念誌

臺南師範學校

口 繪

創立十周年記念式ヲ舉行スルニ當リテ

本校の光榮

1、皇太子殿下行啓

2、朝香宮殿下御成

臺南師範學校沿革の概要

1、第一臺灣總督府國語學校分校時代

2、第二臺灣總督府臺南師範學校時代

3、附屬公學校沿革略史

臺南師範學校現狀

感想

1、創立關係者

一頁

目 次

台南師範學校寄贈本

2、舊職員

3、現在職員

4、卒業生修了生

5、在校生

記念品贈呈者の略歴

名 簿

1、現在職員

2、舊職員

3、卒業及修了生

現在職員勤續年數表

四

五

六

七

八

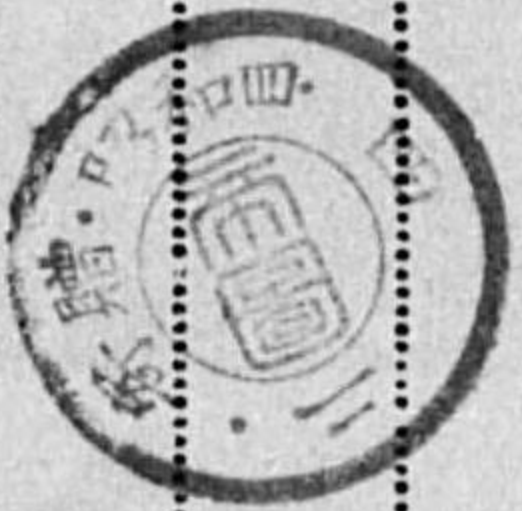
九

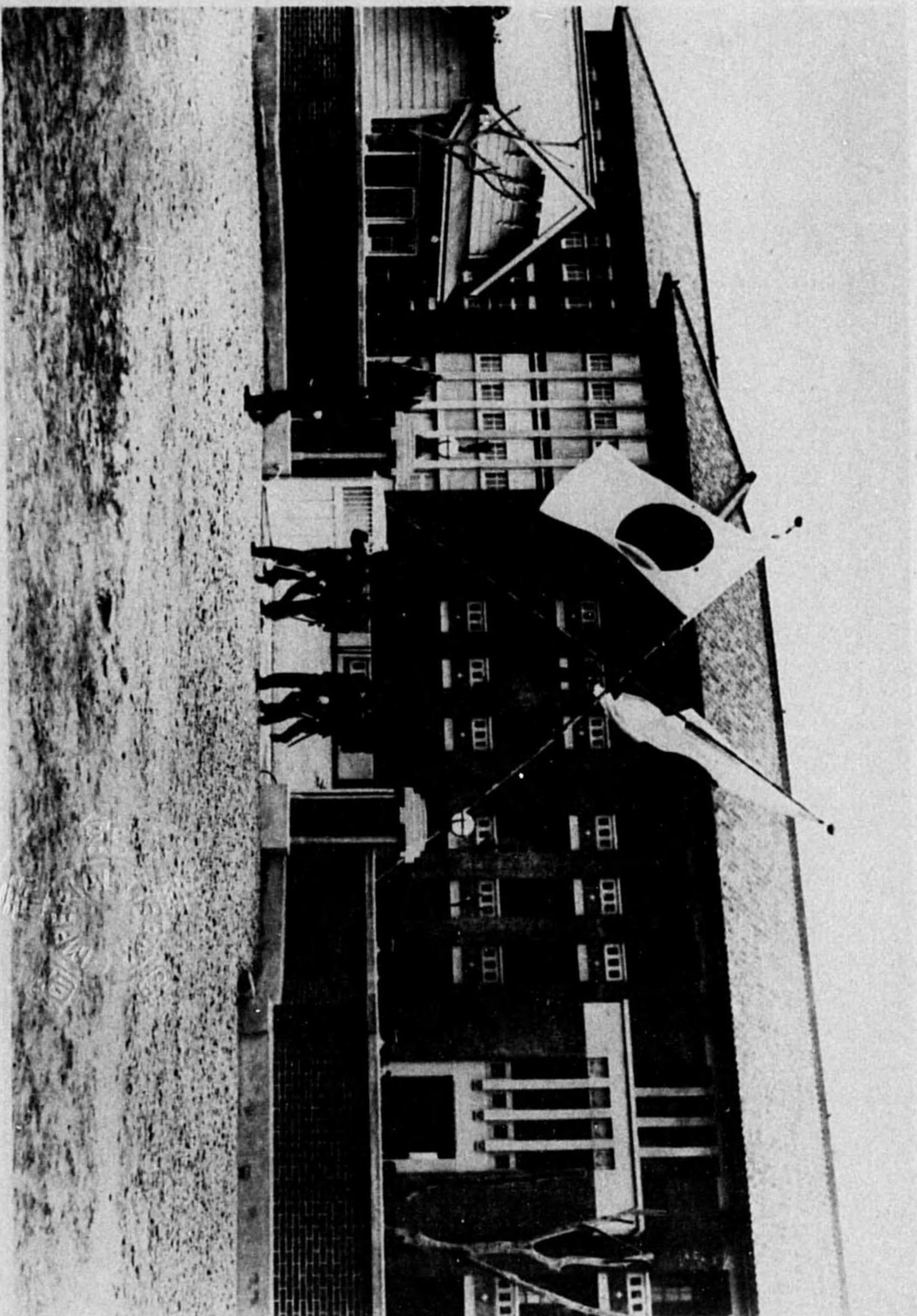
一〇

一一

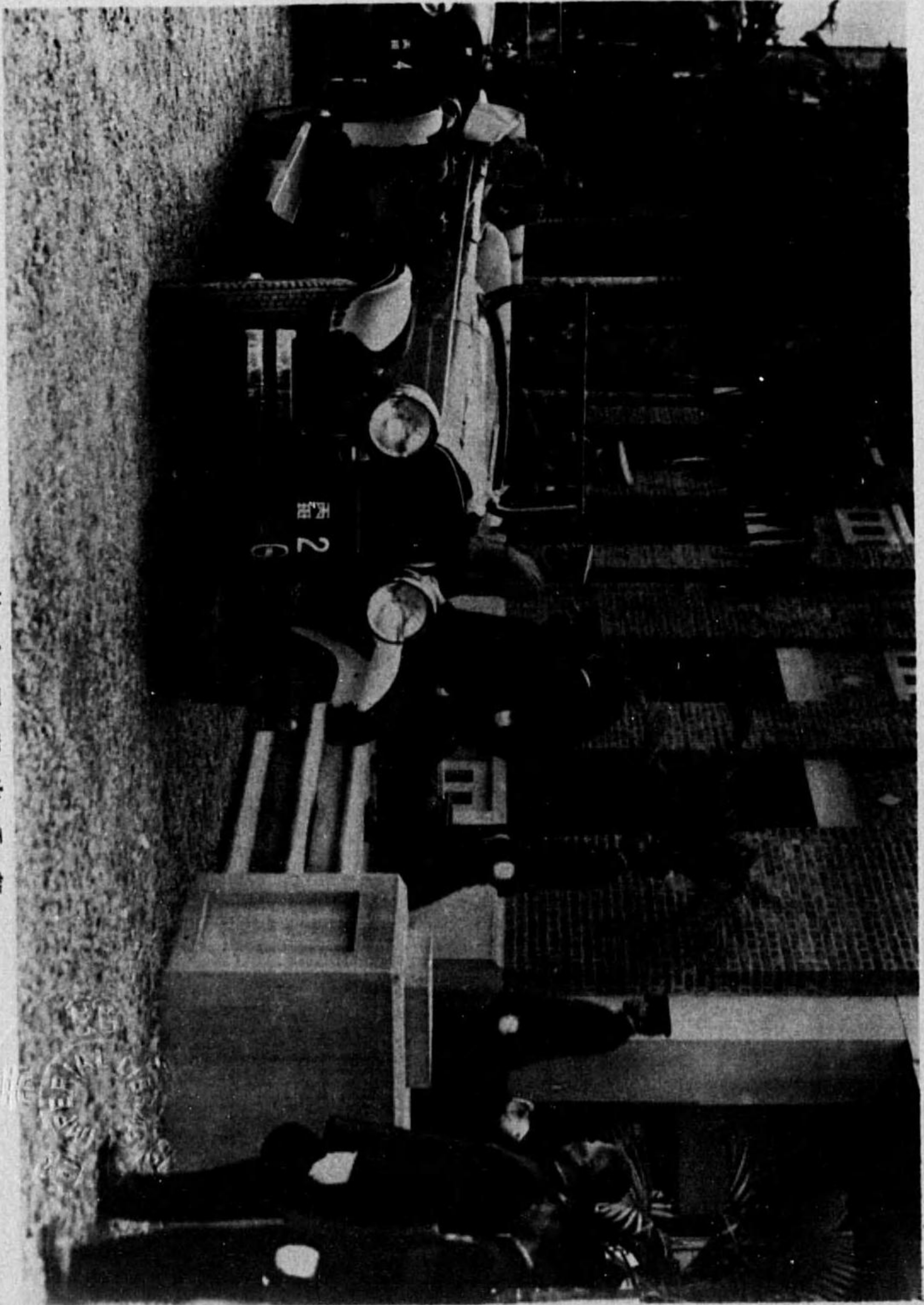
一二

一三

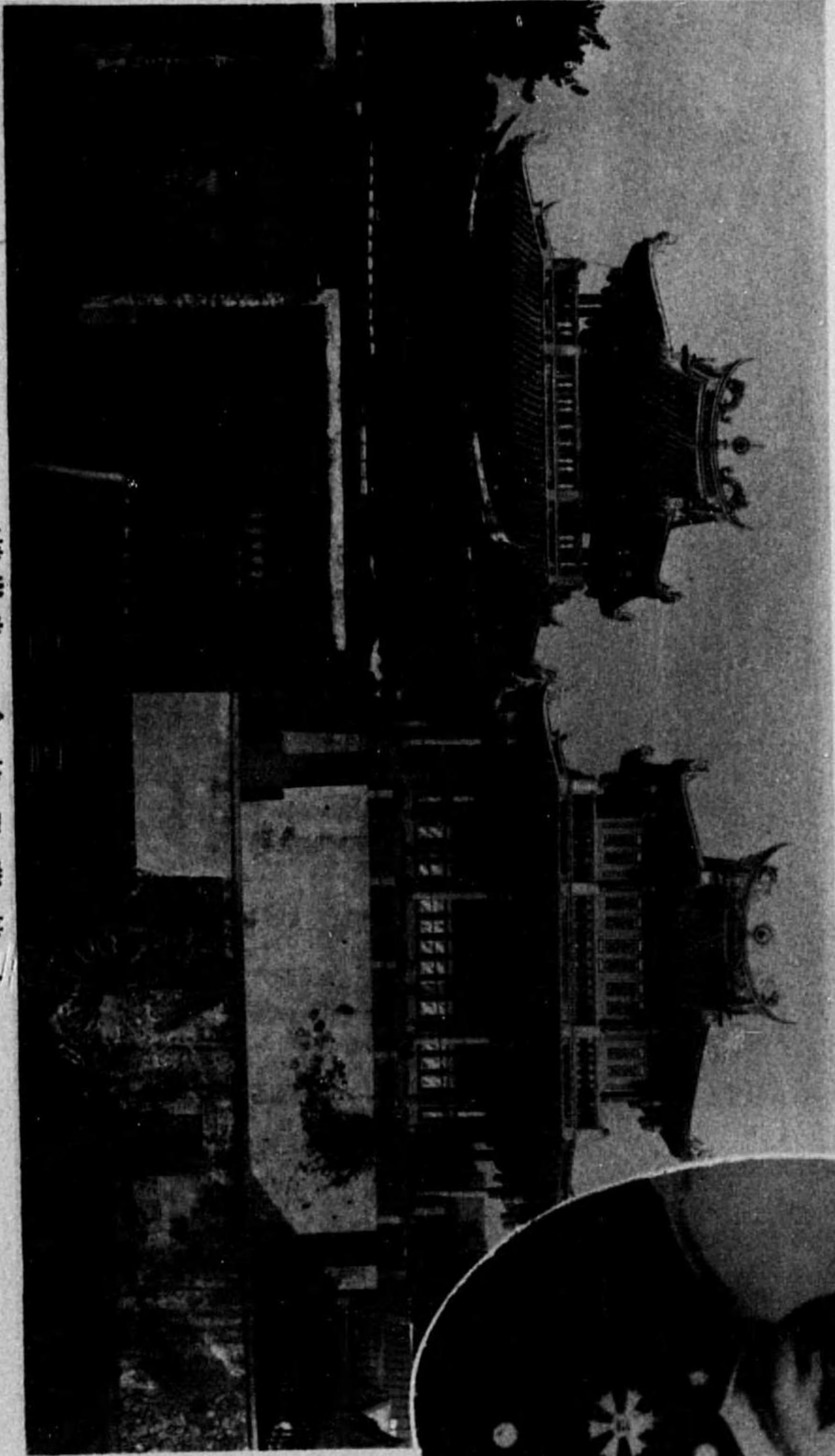




啓行校本下殿于太皇



成御校本下殿宮香朝



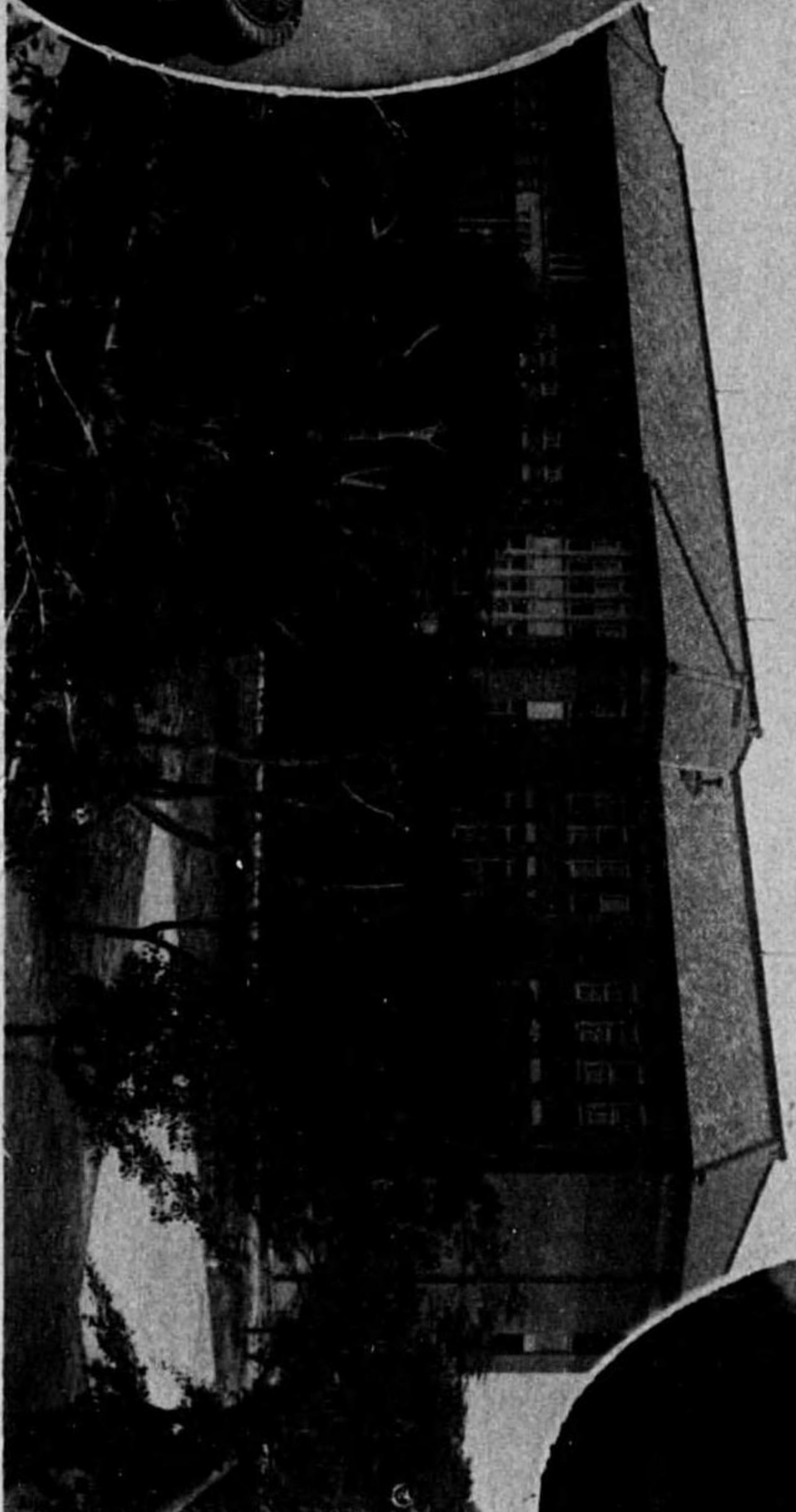
本校舊假校舎(赤城樓)



分館時代に於ける
本校々長隈本繁吉氏



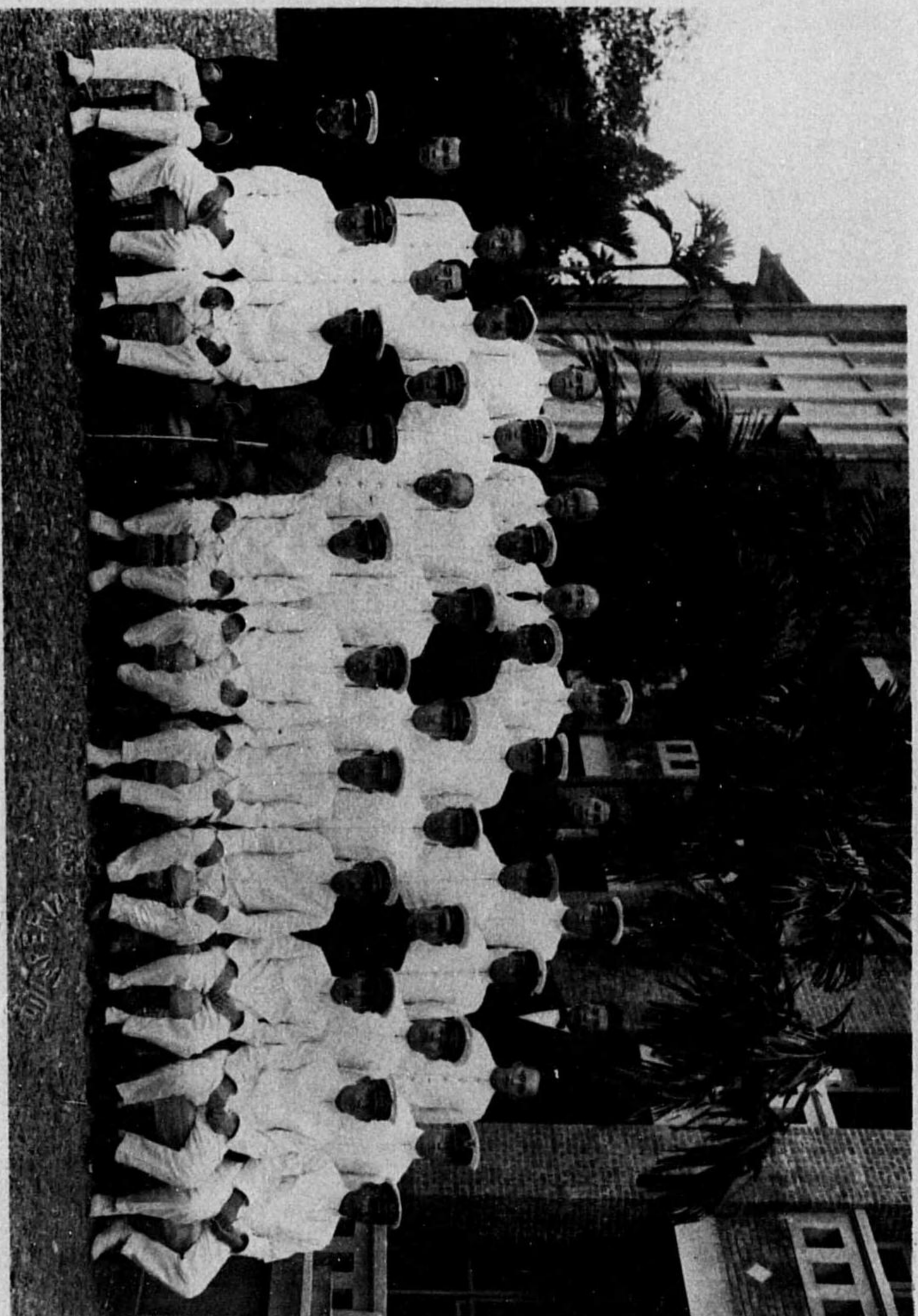
前校長 志保田 健吉氏



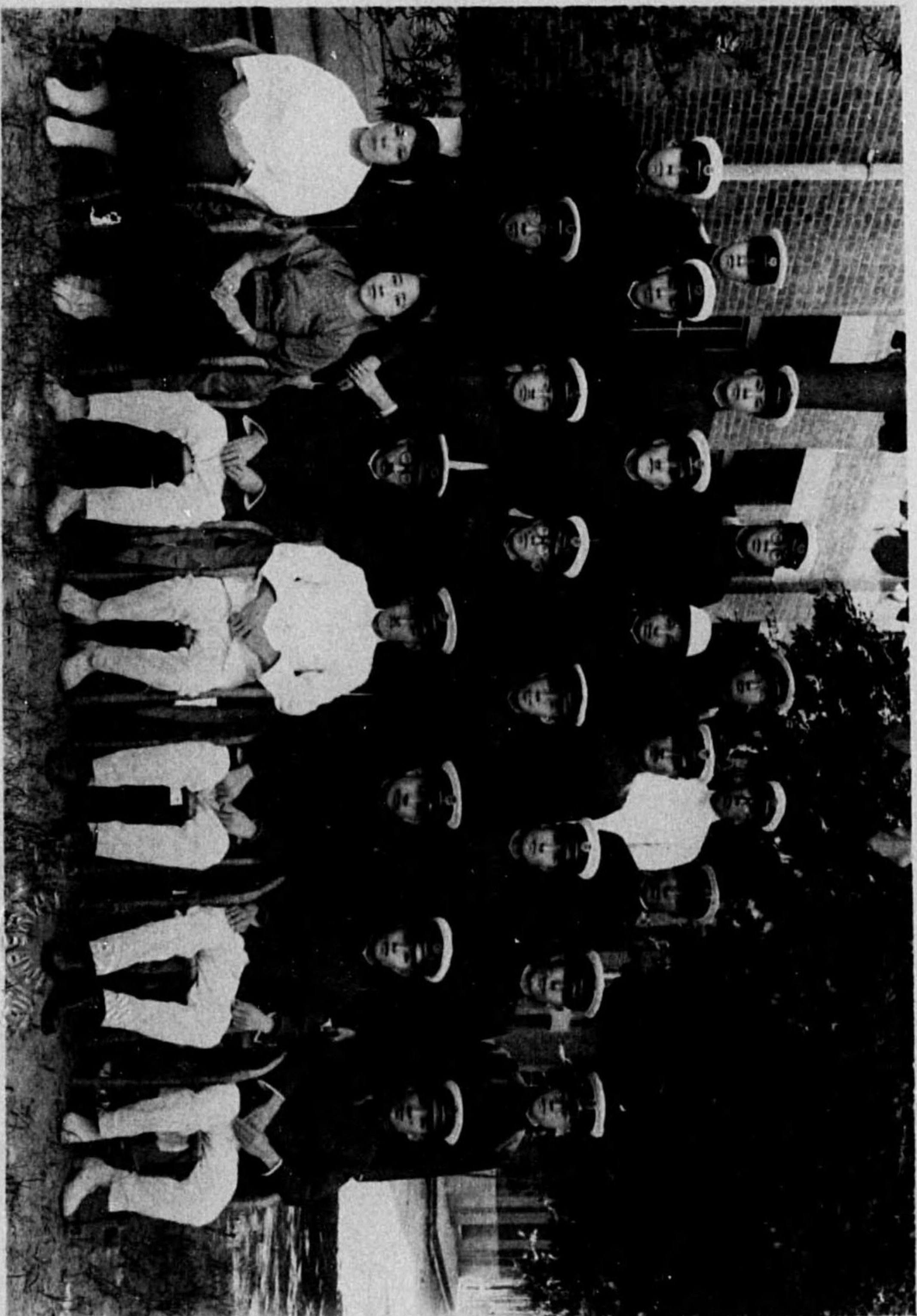
本校在現校舍



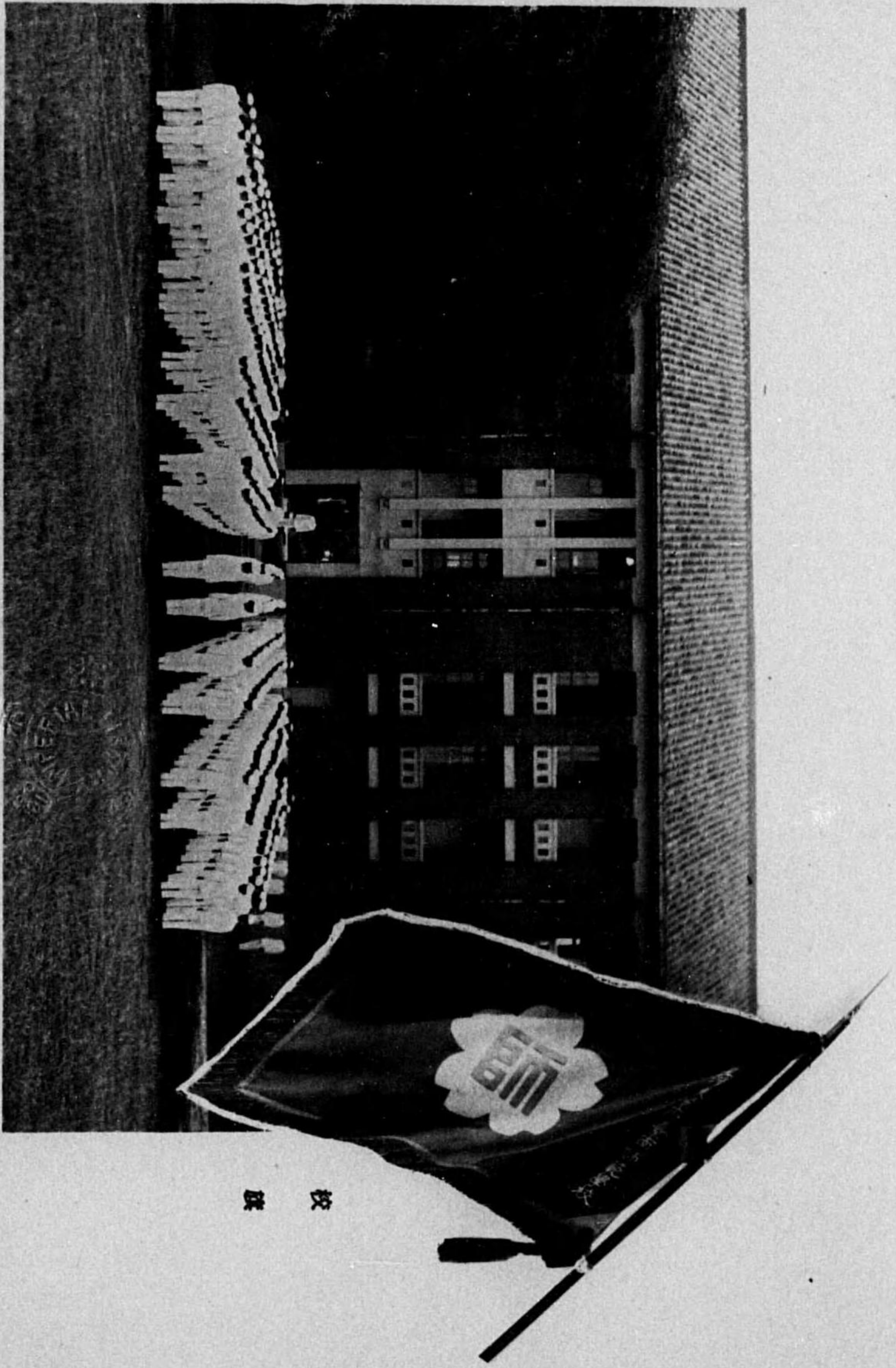
現校長 中田 健二氏



員 職 在 現 校 本

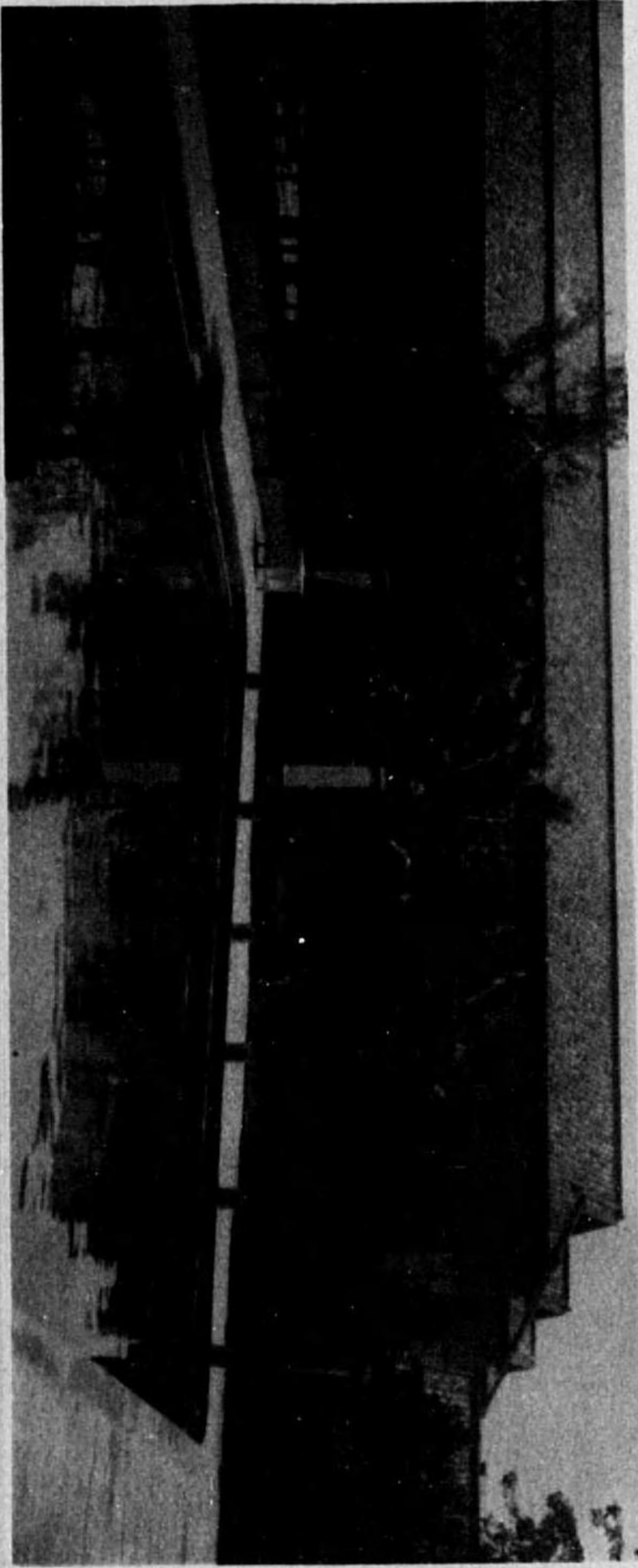


員職在現校學公屬附



校旗

禮朝徒生在現



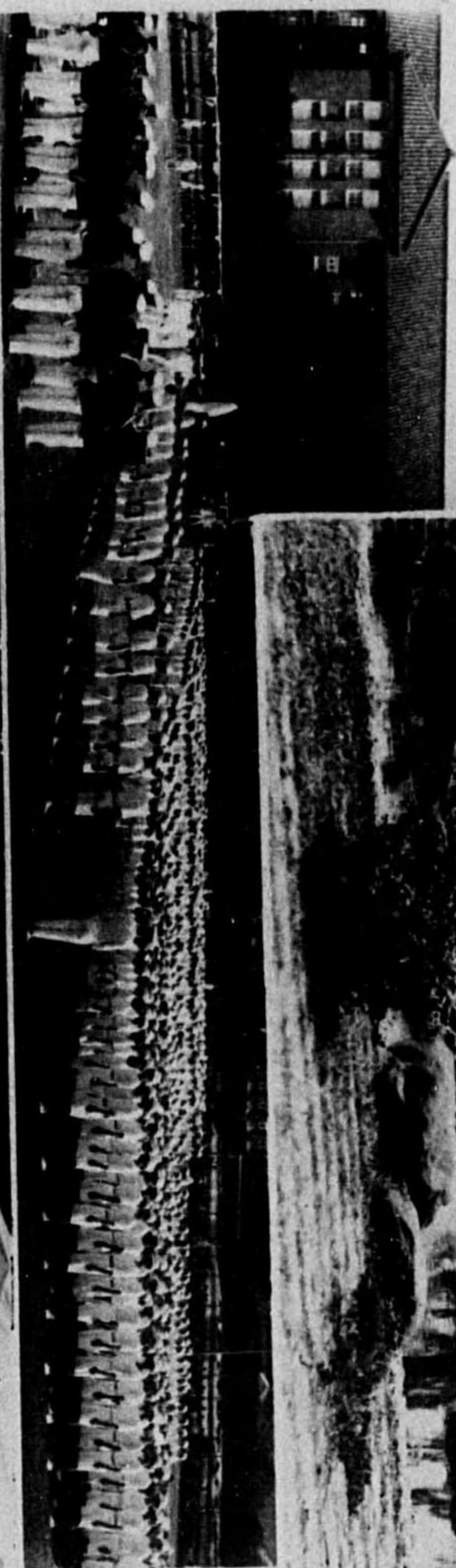
本校寄宿舍



附屬公學校



十周年紀念庭園

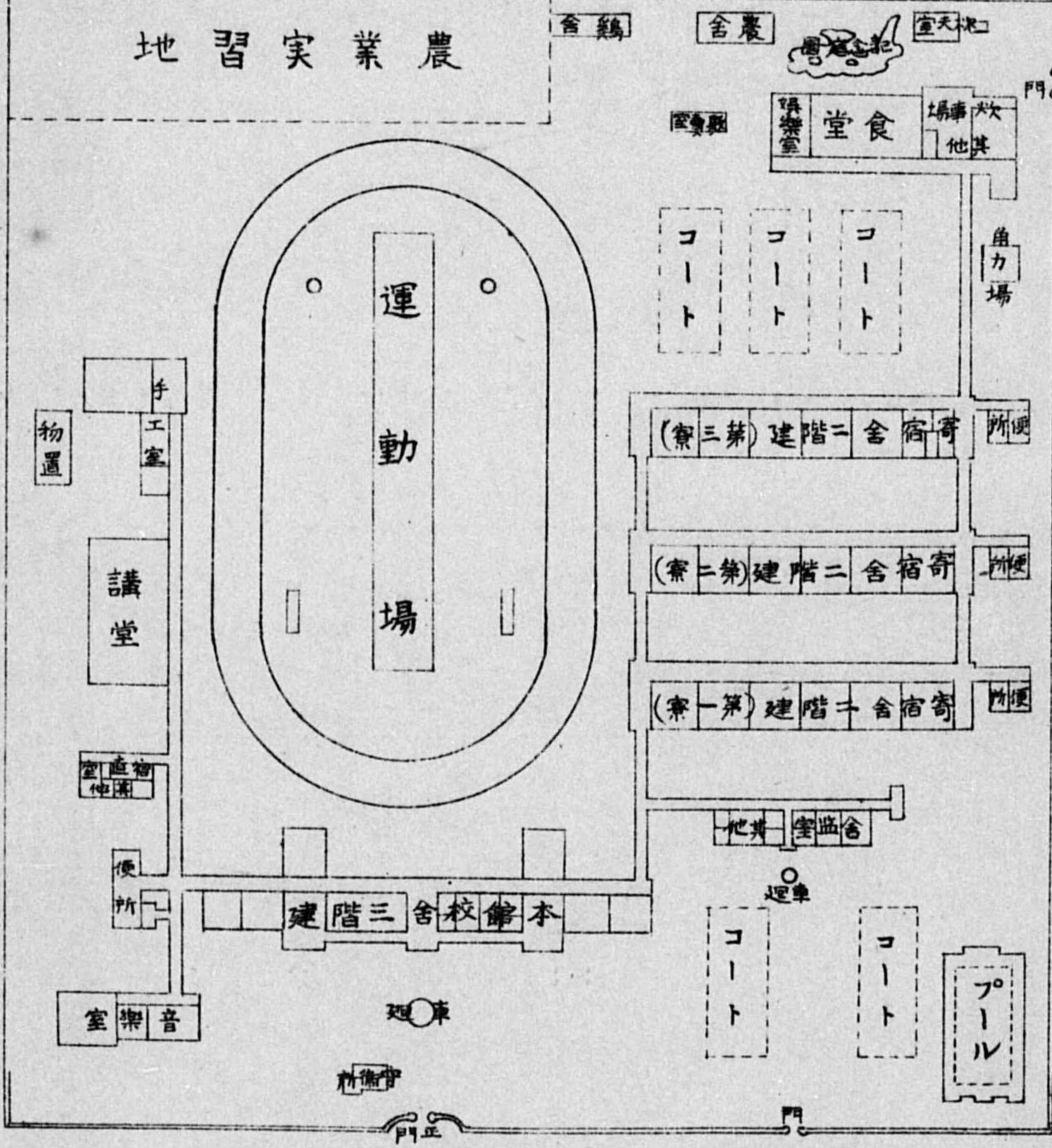


陸上運動會



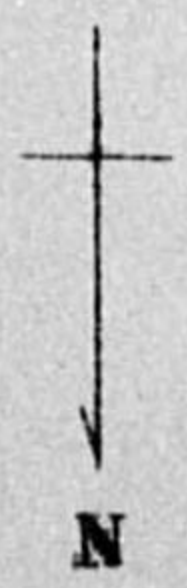
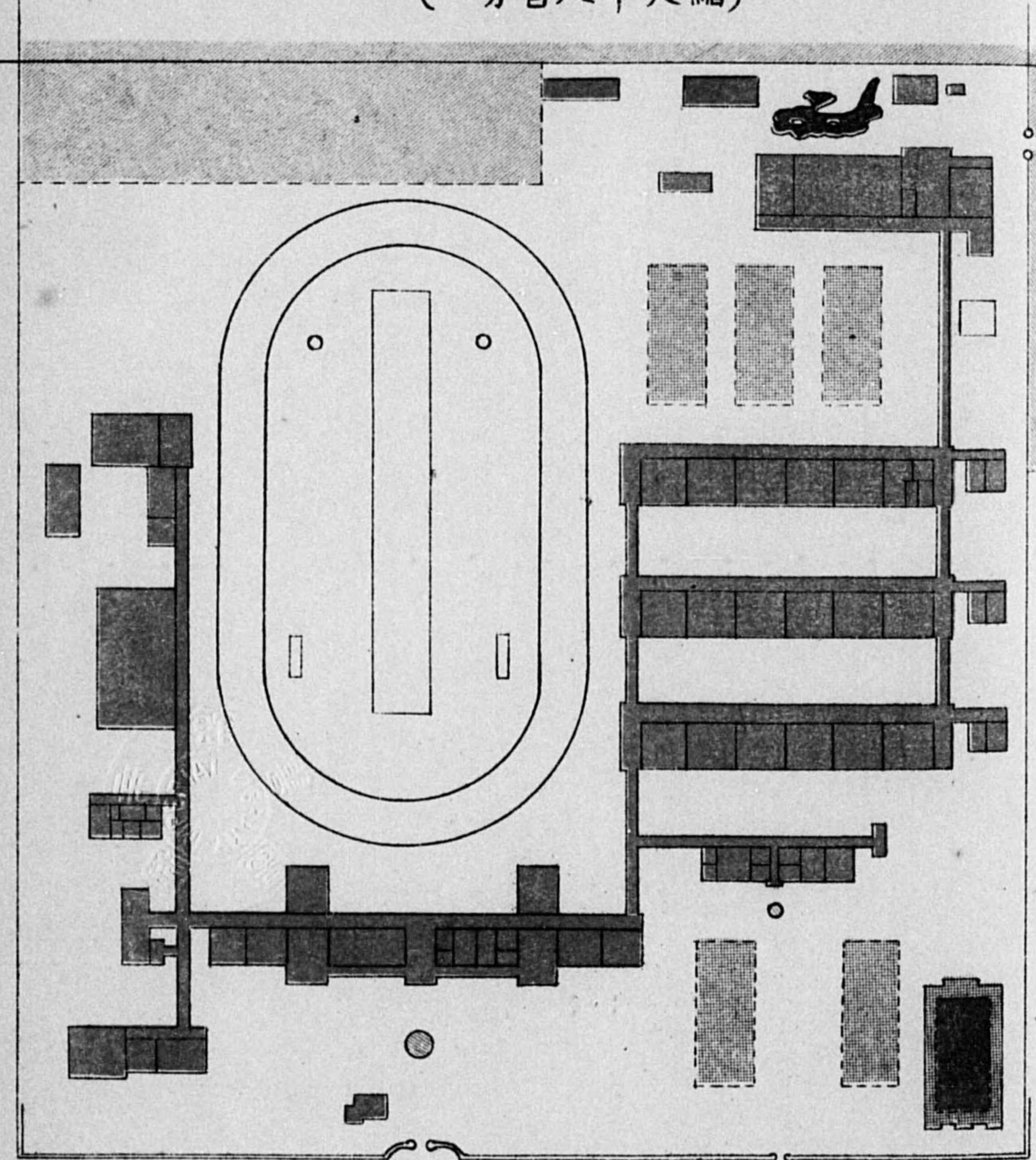
水上競技會

地習実業農

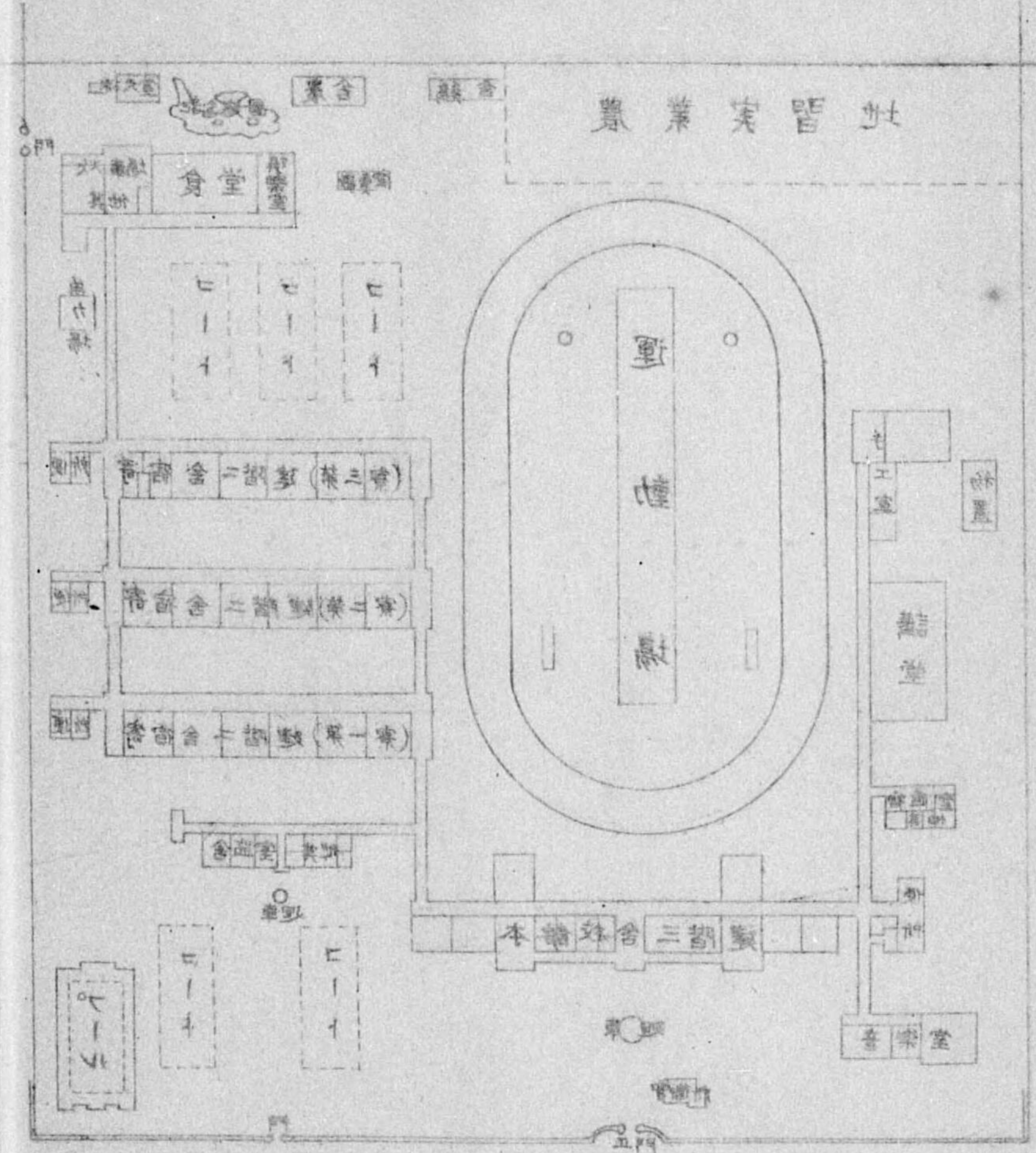


臺南師範學校平面圖

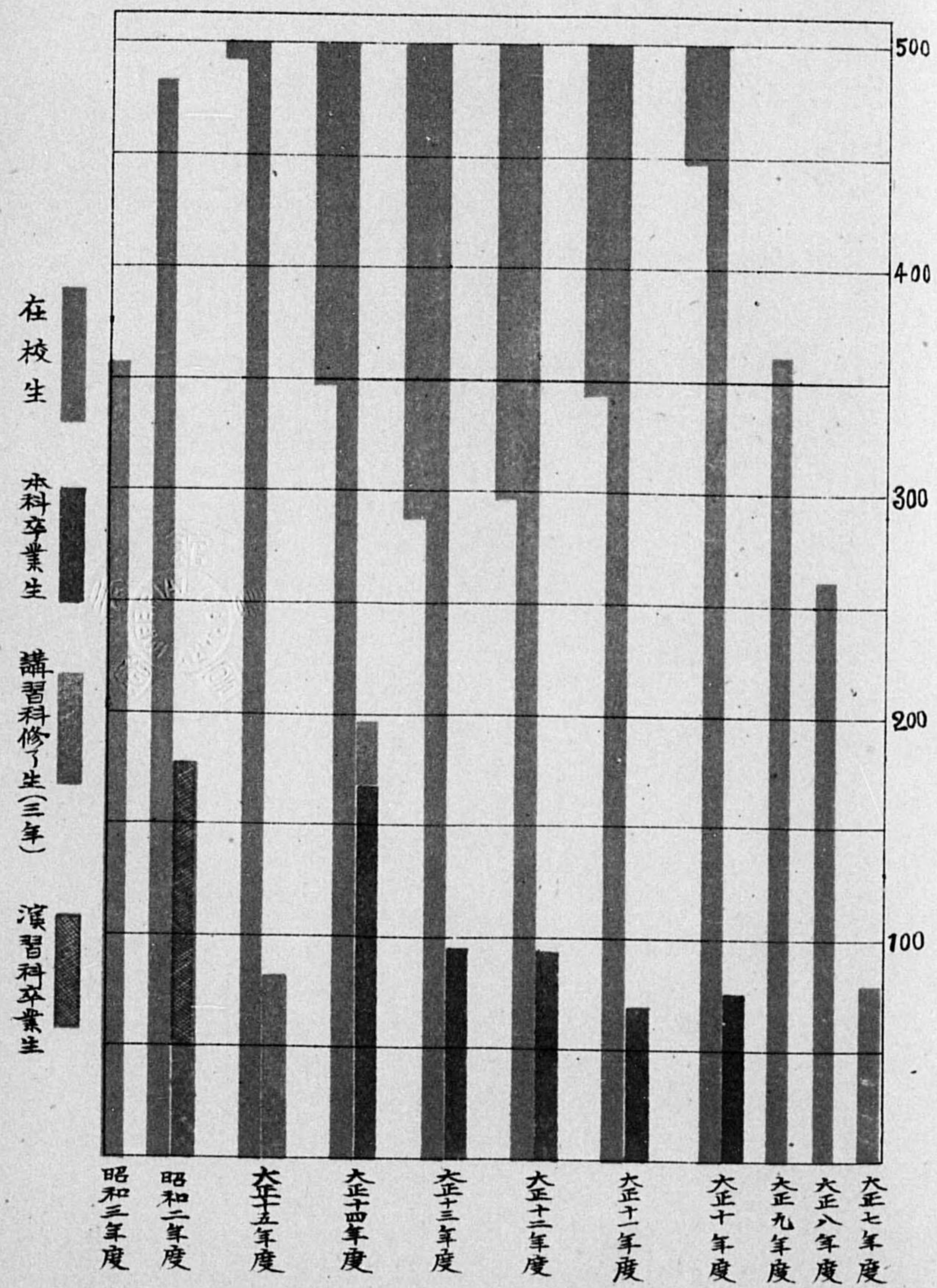
(縮尺八千分之一)



校舎	寄宿舎	農業実習地	泉水	プール	コト

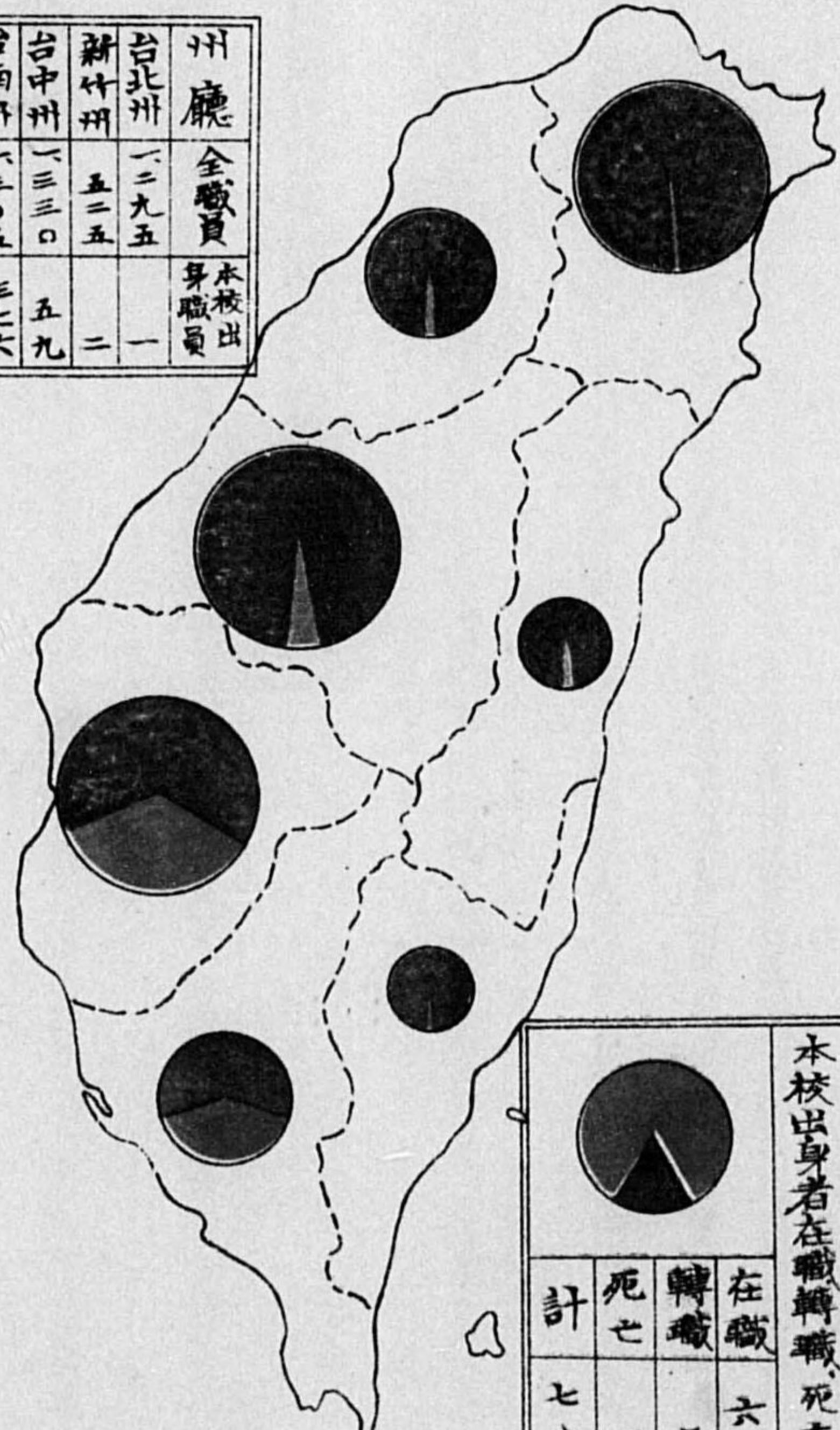


表覽一數徒生別度年



本校出身者現奉職者狀況

計	澎湖	台東	基隆	高雄	台南	台中	新竹	台北	州廳
五四一	九七	一四八	一九二	五一九	三三〇	三三〇	五二五	二九五	全職員
六七八	二二	一	二	二五	三六	五九	二	一一	本校出身職員



本校出身者在職轉職死亡別			
計	死亡	轉職	在職
七八三	一二	九三	六七八

創立十周年記念式を舉行するに當りて

田中友二郎

本校は大正七年七月十九日臺灣總督府國語學校分校として創立せられ、臺南市の名蹟たる赤埃樓及びその内にあつた元陸軍衛戍病院の建物を假校舍として教室及び寄宿舎に使用し、生徒八十名を入學せしめて八月廿六日開校式を擧げたのでありまして爾來正に十星霜を経ました。

創立の翌年即ち大正八年四月一日には臺灣教育令が施行せられ之に據つて本校は臺南師範學校となりましたが、其年舊南部三廳下の人々の協力もあつて先づ現在の校地が設定せられ、續いて校舍寄宿舎の建築に着手し其竣功に従つて漸次之に引き移り、同十四年に至つて全く移轉を了した次第でありまして、今日に於ては將來尙二三の増設を要するものがないではありませんが建築は略々出來上つたと申しても宜しい状態になつたのであります。

其間分校主任より引續き臺南師範學校長に任ぜられた志保田前校長を始め、創立以來盡力せられた多數の職員諸君の勞苦は誠に容易ならざるものであつたことと思ひます。何となれば假令最初より校舍其他の設備が整つて居ても創設の事業は容易でないのに、全く學校と縁遠き建物を手入して茲に生徒を收容し授業を開始せられたる勞苦、廢墓地に設定せられたる新校地の整理、假校舍と新校舍に數年間生徒を分割宿泊せしめたる管理上經營上の困難等を想像すれば、所謂目に見えない幾多の苦勞があつたことは疑のないことであるからであります。又生徒側に於てもかゝる間に業を受けたものは常に學習上の不便のみならず、諸先生と共に本校創設の勞務に参加協力したることは申迄もないことで、之を今日の生徒に比すれば一層の勞苦があつたに相違ありません。而して此職員諸君の御盡力に當時の生徒諸子の勤勞があつたればこそ校舍の建築も次第に完成し、荒涼たる校地も次第に整理美化せられ、本校の校風も樹立せられたのであると信じます。本校は曩に 皇太子殿下行啓の光榮に浴し、近くは 朝香宮殿下の御成を仰ぎ

まして特に皇室の恩寵を蒙ること甚だ大なるものがありますることは、學校の榮譽在校者の幸福此上なき次第であります。

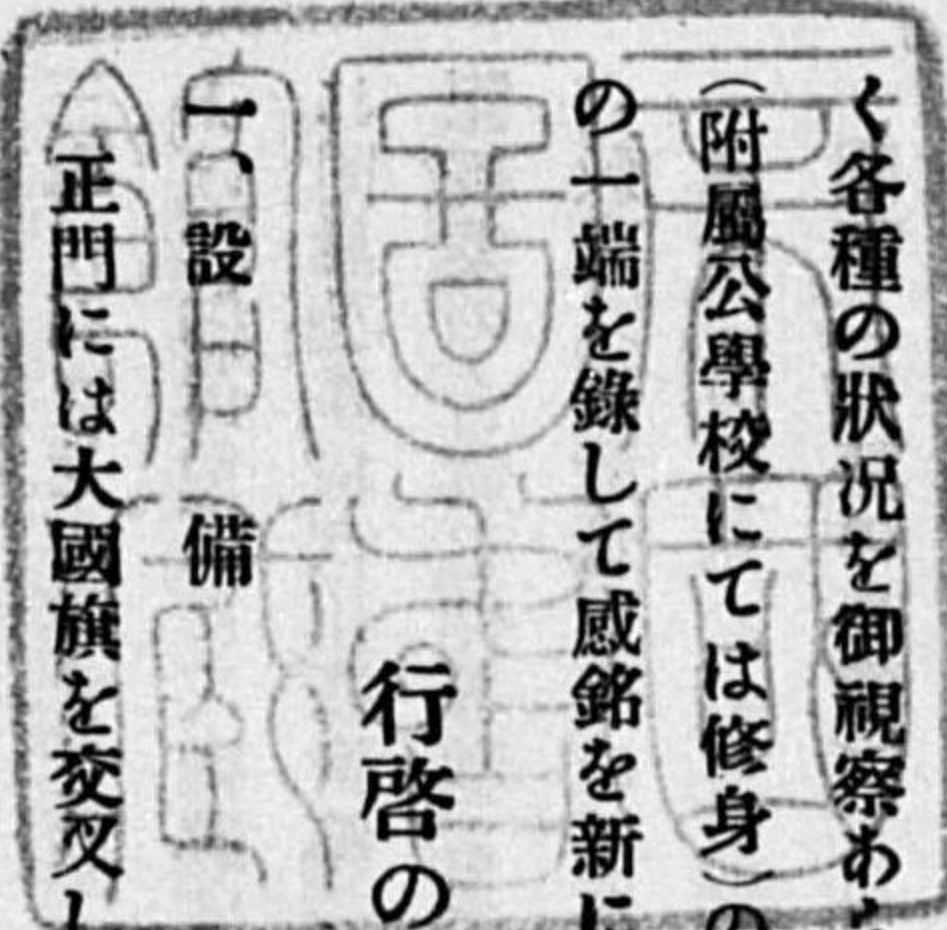
吾々後繼者たる現職員生徒は本校創業者の勤勞を感謝し、其精神を體して校風の發揚に努め、益其内容を充實して實力の向上を圖り、本校の使命たる本島普通教育の振興に貢獻せんことを期し、以て皇恩に報い奉らなければならぬのであります。それにつけても守成者の須らく心得べきことはよく時勢を洞察して其進むべき道を誤らざることでありませう。我が國の現状は恰も思想國難經濟國難なご誠に憂慮すべき聲の起つて居る時であつて、吾々の今日最も力を用ふべき所は實に國民精神の確立と勤勞忠實の氣風の養成でなければならぬと信じます。吾々は特に此點に關し在校者一同の一致協力によつて本校の職責を全くしたいこと切に希ふ次第であります。

本校の光榮

第一章 皇太子殿下行啓

今上陛下皇太子にましましてける時、大正十二年四月、先帝の御意圖をつがせられ本島に行啓あり、親しく各種の状況を御視察あらせらる。その四月廿日、本校亦殿下の行啓を忝くし、教育、博物、國語の三科目（附屬公學校にては修身）の授業を台覽に供し、開校以來空前の光榮を擔ふ。今當時の御模様を追想し、所感の一端を録して感銘を新にするところあらんとす。

行啓の御模様



正門には大國旗を交叉し、玄關前廣場には砂子を敷きて之を掃き清め、玄關及廊下に適當に、盆栽を配置す。御休憩所には本館二階中央會議室を充て、窓には新に白色と綠色の窓掛を掛け、入口には二箇の衝立を置き檳榔樹の盆栽二鉢を配置す。御座所は中央に南面して設けられ、屏風を背にして御卓子御椅子等を置かせらる。

二、行啓の御模様

大正十二年四月廿日午後二時、綠滴らんとして時の風枝を鳴らさず、嘉祥の氣乾坤に充ち満ちたり。職員

生徒一同正門前に堵列して肅として聲なく、臺灣總督府商業專門學校職員生徒亦之に参加す。玄關前には田中本校々長及加藤商業專門學校校長向つて左側に整列して行啓を待ち奉る。

午後二時四十分行啓の時刻は迫りぬ。奉迎の職員生徒一同益々緊張の度を加ふ。時刻は愈々迫りぬ。自働自轉車の音靜寂の天地に響くと見れば先驅の警部なり。一臺二臺自働車は迂るが如く全員最敬禮の裡に殿下は陸軍少佐の御軍服を召させられ、御機嫌殊に麗はしく一々御會釋を賜りて、金色菊花の御紋章燦たる第三車に召させて進ませ給ふ。供奉官關係官等後續車に扈從し奉る。御車玄關に著し給ふや田中校長御先導申上げ、御休憩所に入御遊ばさる。田中校長、師範學校概況書を、吉岡臺南州知事臺南市各公學校の概況書並に附屬公學校代用臺南第一公學校に於ける台覽授業次第書を順次奉呈し、暫く御休憩の後田中校長御先導左記授業の台覽を仰ぎ奉る。

- 教育（臺灣教育令の梗概） 教授者 西 卷 南 平 舊制本科第四學年 卅五名
- 博物（白鷺） 教授者 牧 茂 市 郎 普通科第二學年 四十名
- 國語（國語の學習） 教授者 小 山 朝 丸 舊制本科第二學年 卅五名

右終りて御退出遊ばされ第四教室にて臺灣總督府商業專門學校の授業を台覽あり、以上を御巡覽の際 殿下には教授者及生徒の最敬禮に對し一々御會釋を給ひ各授業を御熱心に御覽遊ばされ、教師の講演生徒の答辯等に對し時々御首肯し給ひし事あり。

授業御台覽後 殿下は本校玄關より清めの眞砂子を踏み給ひて附屬公學校代用臺南第一公學校に進ませ給ひ、臺南市内公學校兒童の奉迎歌並に授業（教諭兼訓導上原宗五郎の修身科―題目國恩―第五學年及び市内

公學校訓導の授業）を台覽遊ばされ御還啓遊ばさる。

殿下台覽の光榮に浴して

學校長 田 中 友 二 郎

皇太子殿下本島行啓の盛儀に際し、我臺南師範學校が親しく 殿下の台臨を仰ぎ奉りたるは學校の光榮は言ふに及ばず、生徒教養上鴻大なる惠澤に浴したるものにして吾人の感激措く能はざる所なり。當校の台覽に供したる授業は、教育、國語及博物の三科目にして、何れも教材を本島特有の事項に採りたるが 殿下は終始最も御熱心に台覽し給へるを拜したるは 殿下の教育御獎勵の思召と本島の事情に留意し給ふ台慮に出づるものと拜察し、關係教官並に生徒の歡喜に堪へざる所なり。

恐れ多き事ながら右授業に係はれるもの、又は 殿下を奉迎送したるもの 殿下に關する主なる印象の一は 殿下の御容儀の極めて端正にましますことと、其の御動作の極めて御活潑にましますことにして、こゝは 殿下を拜したるものの齊しく感佩したる所なり。この 殿下の御英姿に加ふるに鹵簿の盛儀奉迎諸設備の壯觀 殿下を拜せんとして集まれる幾萬の庶民の恭敬にして而かも熱誠なる態度等の崇高なる印象は、何れも 殿下の御盛徳皇室の尊嚴に關し嚴肅なる感想を有せしめたり。

次は 殿下が衆庶に對し極めて御叮嚀にあらせらるる事にして、如何なる微賤なる者の敬禮に對しても一々之に答禮し給ひしが如きは奉迎送者の常に恐懼したる所なるが、其他特赦の恩典、善行者、學者及功勞者

に對する優誼と恩賜社會事業並に教育費として下し給へる恩賜金等 殿下が如何に御仁徳に富ませ給ふかを拜察すべく、今にして始めて我皇室の御仁慈を知るの感を抱けるもの少しとせず、殊に其間民族の差別貴賤の區別なく衆庶を一樣に愛撫し給ふ聖慮の程も窺はれて、所謂本島は帝國を構成する領土の一部にして、内地と等しく皇恩に浴するの地なる事を體得せしめたるは喜ぶべし。

我皇室の尊嚴と御仁徳とは吾人が生徒に對し之を理解せしめんがために常に努力する所、今や彼等は之を體驗したり。此點に於て殿下の行啓は所謂畫龍に點睛を賜はりたるものと謂ふべきか。若し夫れ總督閣下を始め幾多高位高官の人々の扈從せる、鹵簿の事務に當れる人々の恭敬にして而かも熱誠なる奉仕、社會のあらゆる階級の人々を網羅せる謹慎にして而かも歡喜に充ちたる奉迎、此等が何れも 殿下を中心として秩序整然行動する有様に至りては、正しく是れ我國民奉公の縮圖にして直に、我國體我國民精神を提唱せるものと謂ふべし。之を要するに 殿下の行啓によりて島民は我國體の理解皇室に對する至情等に於て、一段の深みを加へたるや明かなれば 殿下の行啓は本島教育上洵に大なる惠澤といはざるべからず。我臺南師範學校は特に 殿下の台臨を辱うし此恩澤に浴する事殊に深し。殿下の臨ませ給ひし教室 殿下の歩ませ給ひし校庭、何れも此光榮を物語るものなり。願はくは永久に記念して忠良なる國民精神の涵養に資せんとす。

台覽授業の感想

教 育

教 諭 西 卷 南 平

教への道は貴くして重し。重くして貴ければこそ全生涯を擧げて斯の道にたづさはらん此の身、生れは賤しくして在るは邊陲なり。思はんや邊陲に在る賤が身の教授が尊き台覽の光榮を擔はんとは。思へば幸ある身なりけるよ、年は経て、身は老い朽ちぬとも、幸あるこの日こそはとはに忘れ果てざらめ。

御國は神の國なり。日嗣の皇子は神の御裔なり。神なればにや、入りませると出でませるとを迎へ送り奉る禮は心のまゝを身に現はしぬ。定められたる形に従ひてよくせるや否や身に覺えず、さながら神に對ひ奉る心地して。

教へ子に教ふるの時、只神々しき境にあるを覺えて、身を忘れ、我、我を忘れぬ。只教ふるといふ事のみ専らなりき。専らなるが故に、心は落着き、氣は定まりて思ふがままの順序もて教へ終はるを得たり。此の尊き境界は今も忘られず。

己が考ふる所之を人に傳ふる嬉しからずとせんや。傳ふる所了解もて聞き取らるゝは樂しき極みなり。事は直接ならず間接なれども、聰明天にまします日嗣の皇子の御前にて、本島教育の基なる初等普通教育の現狀を上聞に達す。賤が身の嬉しき樂しさ、人は想像だも及ばじ。

教への道は我が生命なり。この榮ある日を更に一起點にて専ら斯の道に従ひなん。能も智も遠く人には及ばぬ身なれども、せめては榮あるこの幸に報い奉る己が心盡しのすべてともして。

博 物

教 諭 牧 茂 市 郎

台覽授業の始まる數時間前に私は教室に入る前に於ける生徒の氣分を窺ふ爲めに休養室を覗きました。今

回この光榮に浴した普通科第二學年第一學級の生徒は赤坂樓から通學して居るので、當日は茲を控室に當てたのでした。入口に立つて私は意外の光景に接しました。三十六名の生徒が悉く制服を脱いで叮嚀に疊みシヤツとズボン下丈けで居たので、私は其理由を聞きましたところが、一齊に「汗臭くしたり皺にしては畏多いと思ひます」と答へました。幼い本島生の衷心から發露した敬虔の念の然らしめたものと其まゝにして置きました。

私も生徒も教室に入つてからは自然と心身共に緊張し今暫くすると無上の光榮に浴し得るかと思ふと、心臓の鼓動が激しくなり脚が震うて止まない感がしました。

殿下が愈々教室へ御成り遊ばされた瞬間から、私の心は無我の境に入つて「上手に教授したい」とか「過のない様に」とか云ふ考は少しも起らないで、スラ／＼と極めて自然に教授が出来た様に考へられます。授業中長いことではあるが、殿下におかせられては稍上體を御前に傾けさせられ、時々生徒の方を御覽遊ばされたやうにも御見受け申しましたが、多くは教授者と掛圖の方に御注目遊ばされて御熱心に御自身直接に説明を聴取せられるやうな御態度を取らせられた爲め、私はツイ不知不識の間に本島生に對する平素の緩口調を取らないで、又當然生徒の方へ向かなければならないのに自然に畏多い事ではあるが、殿下に對し奉り直接御説明申上げるかのやうな心持ともなり、態度ともなつた事と追想して恐懼してゐる次第であります。之も、殿下が特に博物に興味深くあらせらるる反映ではあるまいかと想像し奉る次第です。

豫定の時間が経過して學校長が御會釋申上げ、一同起立し最敬禮を終つたときも尙、殿下は御ゆつくりと壇上に御立ち遊ばされて、教室の變つた設備を御覽遊ばされた様に拜し奉りました。

殿下御退出後適當の時間を置いて私が生徒に休めの姿勢を取らせるとき、一同はハァーと一齊に音を立てて肺に溜つてゐた空氣を呼出し、額の汗を拭ひ私の顔を見つめてゐました。數分の間一生懸命に、恐らく生れて始めてであり終りである光榮の刹那に對して、息をこらして居たことを證するものであり、又其の間彼等の精神は敬虔の念其物であつて、何物も他になかつた事を證するものであらうと思ひます。

國語

教諭 小山朝丸

私が台覽教授の内命を受けましたのは去る二月廿六日でした。全校十數名の國語教官の中から不肖な私がこの光榮に浴すると云ふ事は此の上もない名譽ではありますが、一方果してこの大役を間違ひなく仕遂げる事が出来るだらうかと考へて見ますと、何となく心配で堪りません。嬉しさど心配どで胸は異様に躍りました。早速教材の選定をして教案を立てる事になりましたが、成るべくわざとらしくなく自然的で、然もそこに國恩を感謝し、聖代に生れ合つた喜びを表はしたものにしようと思ふ考で取急ぎ色々研究の結果「國語の學習」と云ふ題目にして教材はこちらで考案する事にしました。それも發音と話方と云ふつもりでありましたが、途中からまた都合があつて讀方と云ふ事に變更されました。けれども最初からの豫定であつた話方と發音とを捨てるのは惜しかつたので、讀方と發音と話方の三つを是非御覽に入れたいと云ふ考で案を立てました。案はごうやら出来ましたが教材や方法が色々變りまして練習をする時間が少かつたので果して思ふ様にいくだらうかとたゞそれだけが心配でした。

殿下には御豫定の通り何のお障りもあらせられすいよ／＼四月廿日午後〇時卅三分當臺南へお著になりま

した。午後三時には本校へ台臨遊ばされるので、私共台覽教授に關係のある職員生徒は堵列奉迎には参りませんで、静かに―とは云へ何となく胸を轟かせて―學校でお待ち受け申して居りました。御豫定は廿分程繰り上げられました。午後二時四十分頃には玄關先に自働自轉車の響がきこえました。さすがに胸の高鳴りを覺えました。一生の思出、この晴の場を首尾よく勤め上げねばと、何とも言へない一種異様の感に打たれました。時間は刻々と迫つて参ります。あゝ隣りの博物教室までお出でになりました。一同は起立して窓の方に向つてお待ち受け申して居りました。そのうちに校長先生の御先導で 殿下の御英姿が教室の後の方に見えました。まるで電氣にでも打たれた様な一種の衝動を感ずると共に頭は自然に下りました。殿下が私の教室の入口に御はいりになるとすぐ最敬禮を致しました。そして元の姿勢に戻つて見ますと 殿下には叮嚀に御答禮を賜はりました。しかも脱帽していらせられました。餘りの有りがたさにお顔を十分拜する事も出来ず殆ど夢中で御會釋申して壇に上り校長先生の御披露がすむのを待つて、直ぐ授業にとりかかり、とにかく別に過もなく豫定の三分間を無事に終へまして、壇を下りて最敬禮を致し 殿下のお姿の見えなくなるまで奉送申して再び壇に上りました時は、何とも云へない有難さと嬉しさとで感涙の自然に頬を傳はるのを覺えました。殿下が私共の様なつまらない者の授業を豫定のすむまで御熱心に御覽下さいました事は何とも申し様のない光榮です。其の上 殿下のお立ちになりました壇と私の立ちました教壇とは同じ高さで、しかも殿下の御前を距る事僅かに一間程でした。何とも恐多くて自分ながらよくわの場合大過なく勤める事が出来たものだと不思議で堪りません。嗚呼四月廿日、この日は私に取つては一生忘れる事の出来ない日です。ただに私だけではありません。一家は申すまでもなく、子々孫々の末までも永久に語りつぎ云ひついで、この

光榮を家門の誇りと致したいと存じます。

終りに謹んで 殿下の彌榮をお祈り申し、なほ及ばすながら奮勵努力して、この光榮にお對へ申す覺悟で
たぬさす。

かこしやつたなきわざをひのみこの みそなはすとてあもりしましぬ
迢々鶴駕蒞南瀛 山野齊聞萬歲聲 教授生徒供台覽 微臣榮及一家榮

台覽授業を受けたる生徒の感想

台覽授業練習の際に總務長官閣下始め其他の高官方がお見えになりましたときにも尊い感じがしましたが殿下のおはいり遊ばされたときの感じは格別です。丁度信仰してゐる廟の前を通るとき誘はれなくとも、自然に頭が下る様に、校長先生がお入りになるとすぐ自然に思はず頭が下つて 殿下を仰ぎ奉ることが出来ませんでした。授業中は先生の方に氣を取られてゐた爲めまた拜する事が出来ませんでした。御退出のとき御ゆつくりでしたので、幸に最敬禮後充分にお顔を拜する事が出来ました。殿下はきつと美々しい御装で一日に十餘着も御着替遊ばさるゝでせうと思つてゐましたのに、意外にも質素な御軍服で長多い事と思ひました。九重深き雲井にお育ち遊ばされた貴いお方ですからさぞ弱々しい御體格と想像してゐましたに、軍人のやうな御色をした御活潑な御様子を拜しまして恐入りました。殊に御慈愛深い御目、大きいお耳、廣い御額を拜して自然に備はる皇帝の御相と、心強く有りがたく感じました。私共は教科書で教はりましたので、

一生に一度は伊勢の大廟へお参りしたいと思ひますが、その思ひが達せられた時よりも、今の喜ばしさの方が大きいと思ひます。今日の光榮を何度も何度も夢に見たいと思ひ、又見る事と信じます。そして家の人に語り傳へて行きたいと思ひます。私共は七百の生徒の中で特に何も勝れた所もないのに、特に選ばれて台覽授業を受ける光榮に浴したので一層幸福を感じます。在學中はよく先生のお教へを守り卒業後は臺灣教育の爲めに骨を折つて今日の光榮に酬いたいと思ひます。

奉迎送に列したる生徒の感想

- 一、先驅の自働自轉車の音高く接近すると共に我等奉迎者一同皆緊張して恰も水を打ちたる如く咳一つだにするものなし。御召自働車を迎へて敬禮を爲し恭しく目送し奉れば 殿下は殊に御機嫌麗しく御微笑を堪へさせ給ひて、我等が赤心の奉迎を御満足に思召されし様拜し奉りたり。
- 二、我等生徒一同の敬禮したる時、忝くも 殿下には一々御叮嚀に御答禮あらせられしは無上の光榮にして覺えず感激を催しぬ。其際に於ける車上の御英姿の神々しさは我等の心に終生忘るゝ事能はざるべし。夜の提燈行列の時一同の唱へ奉れる萬歳の聲に應じて 殿下の御手づから持たせ給へる提燈を幾たびも高く揚げさせ給ひしには覺えず歡喜の感に打たれぬ。
- 三、殿下は定めし非常に立派なる御服装なるべしと想像し奉りたるに、意外にも單に陸軍軍人の服を召し給ひたるのみにて、極めて平民的にあらせられしは全く驚き奉りたり。皇族の尊い御方にして斯くも質素に

在らせらるゝ事は全く我皇室の御美風にして誠に恐懼に禁へざる所なり。

四、上下の區別なく如何なる人民に對せらるるも一々正しく御叮嚀に御答禮あらせらる。又其の御歩行の御姿勢を伺ひ奉るに實に驚くばかり御活潑にあらせられたり。

五、臺灣が帝國の領土となりてより二十有餘年にして、今日此の光榮ある日に逢ふを得たるは一に我が臺灣が舊習を捨てて母國に同化し來れるを認められたるに由るものなれば、吾等は將來益々本島の同化を進め發展を計る事に努力すべきなり。

六、此度の行啓により島民の我が皇室に對する敬愛の至情の一層濃厚になりたる次第なれば、我等島民は益々我が國體を辨へ教育勅語の御趣旨を奉體して大に努むる所なかるべからず。

七、我が東宮殿下の本島に行啓遊ばされたる全く一視同仁の御聖旨と、蒼生撫育の御精神とに由る事と恐察し奉りぬ。

八、我が校に行啓遊ばされ、親しく授業を台覽せられたるは一に本島の教育を奨め、母國と同等の文化に進ましめ給はんとの御趣旨に外ならずと拜察し奉れり。

四月廿日 東宮殿下行啓の際修身教授の台覽を辱うして

教諭兼訓導 上 原 宗 五 郎

日の皇子の御前かしくみ教へ子に

此の世の様をときにけるかも

日の皇子の御前かしくみ教へ子は

此の世の幸をきこえ上げけり

第二章 朝香宮殿下御成

曩に畏くも 皇太子殿下の行啓を仰ぎたる本校は、昭和二年十一月十一日重ねて 朝香宮殿下の御成を辱くし、親しく授業台覧の光榮を擔ふ。今當時の御模様並に教授者及び生徒の感想を録して 殿下御高德の一端を偲び奉らんとす。

御成の御模様

一、設 備

正門には大國旗を併立し、玄關前廣場には砂子を敷きて之を掃き清め玄關兩側には檳榔子の盆栽を配置す。御休憩所には本館二階中央會議室を充て、衝立盆栽を配置す。御座所は中央に南面して設け奉る。會議室東隣の教室は供奉員の休憩室とし其東隣、博物實驗室を御茶準備室とす。會議室西隣の二室は歴史及臺灣語の台覧教室とし、上入口に近く御臺、御卓子、御椅子を置き奉る。二階西出張りの室を以て陳列室に充て、圖書、習字、手工の成績品を陳列す。尚運動場には本館にや、近くテントを設け、御臺、御卓子、御椅子を置き奉る。階下校長室は新聞記者室に充つ。

二、御成の御模様

昭和二年十一月十一日朝暾熿々として時つ風枝を鳴らさず、嘉祥の氣乾坤に充ち満ちたり。職員生徒（講

一普一）並に附屬公學校兒童正門前に堵列して肅として聲なく、玄關前には田中學校長内田西卷兩教諭向つて左側に整列して御成を待ち奉る。

午前十時四十分御成の時刻は迫りぬ。奉迎の職員生徒一同益々緊張の度を加ふ。時刻は愈々迫りぬ。自働自轉車の音靜寂の天地に響くと見れば先驅の警部なり。一臺二臺自働車は這るが如く全員最敬禮の裡に殿下は陸軍大佐の御軍服を召させられ、御機嫌殊に麗しく一々御會釋を賜はり第二車に召させて進ませ給ふ。供奉官關係官等後續車に扈從し奉る。午前十時四十五分御車玄關に著し給ふや學校長御先導申上げ、御休憩所に入らせらる。書記近藤章、直に御茶を奉る。次いで學校長師範學校概況書及台覧授業次第書を奉呈し、本校の目的並に編成の概要を言上し奉り、次いで學校長御先導授業の台覧を仰ぎ奉る。

歴 史（臺南城）教授者 梶 原 龍 普通科四學年の一部 卅六名
臺灣語（竹 筏）教授者 胡 丙 申 普通科三學年の一部（内地人）廿七名
同 二學年の一部

に對しいと御興氣深く御台覧あり。特に歴史教授の際に於ては學校長に對し「生徒に質問して答へしめよ」との御言葉あり、臺灣語教授に對しては台覧後學校長に對し、「今の言葉は南部地方に行はる、言葉か」「生徒は總て内地人か」「本校入學前にも知れりや」「將來充分使用し得るに至るか」との御尋ねあり。陳列室にては學校長より種々御説明申し上げたるに對し、一々御熱心に成績品を台覧あり。それより運動場に於ける教諭村上今朝之進の徒手體操並に器械使用轉廻及跳躍運動普通科二學年講習科二學年以上各學年生徒合同を台覧あり。玄關前に於て「ありがたうございます」との御鄭重なる御言葉を學校長に賜ひて自働車に召され午前十一時十五分御發遊ばされたり。

朝香宮殿下台覽の光榮に浴して

學校長 田中友二郎

朝香宮鳩彦王殿下本島御成御決定の御噂を承つてから程なき十月十五日、總督府より我臺南師範學校にも台臨遊ばさるゝ旨の御通知に接し、我校はその光榮と歡喜とに一同いひ知れぬ緊張を覺えたのであります。曩には 皇太子殿下の行啓を仰ぎ、今又 朝香宮殿下の御成を仰ぐ我校は何といふ幸福でありませう。

御豫定の時刻は十一月十一日午前十時五十分御着、三十分間であります。早速台覽に供すべき授業等を選定すると共に奉迎に關する諸計劃を立てたのであります。それ以來職員も生徒も此光榮に對し滿腔の喜を以て協力一致日々その準備を整へ、萬遺憾なきを期したのであります。

十一月十一日午前十時四十五分 殿下は御着になり職員生徒兒童奉迎の裡に御休憩所に入らせられました。夫れから私より奉呈しました當校の概況書本日台覽授業次第書を御納めになり、且簡單に言上しました學校の現況を御聴取の上歴史、臺灣語の各授業、習字、圖畫、手工等の生徒成績品及運動場に於ける合同體操を順次台覽遊ばされましたが、前記殿下御成の御模様中に記されてある通り何れも極めて御熱心に御覽遊ばされ種々御質問を賜はりました。殊に御歸還の際支關に於て御見送り申してゐる私に對して有難い御言葉を賜はりましたのは誠に恐縮の至で我知らず頭が下がつたまま一寸御答への言葉が出なかつたのであります。

殿下の御態度は御活潑であり、御威嚴のあらせらるゝ中に、常に温情を包ませられ、殊に御謙讓の徳を具へさせらるゝ事は夙に承つて居た事ではありますが 殿下に咫尺して一層その感を深くし益々御高德を敬慕す

る次第であります。即ち 殿下の嚴格なる御態度、温容、奉迎者に對する一々の御答禮と御會釋、前述の如き御叮嚀なる御言葉、此等は職員生徒一同尊敬の中にも非常なる御慕はしさを覺え、所謂慈雨に浴したるが如き感を起したのであります。又 殿下は各所の御視察に於てなるべく本島實情の御了解を勉めさせられ、臺南市に御成り中の如き特に思召によつて片田舎の農家をも親しく御視察遊ばされた程であります。本校に於ける種々の御下問並に台覽中の御態度に於ても思召の程がありと伺はれるのであります。私共一同は特にありがたく感じ一層奮勵努力の覺悟を起したのであります。これは畢竟皇室の御仁徳の發露であると信ずるのであります。

本島は近年 皇太子殿下の行啓を始め度々皇族方の御成りを仰いでいよゝ我皇室に接近し、益々宏大無邊の慈光に包まれるゝが如き感ある事は誠に幸福であります。特に公學校教員の養成を任務とする當校に於きましては、重なる光榮に職員生徒の受けましたこの感激は、將來廣く本島の隅々まで傳へらるゝのみならず、又末永く流れゝて盡くる時なかるべきを思つて誠に感激措く能はざる所であります。

台覽教授についての感想

歴史科

教諭 梶原龍

朝香宮殿下當校御成に際し不肖料らずも台覽授業の教授者たるべき光榮に浴し感激措く能はず、全力を盡してこの大任を完うせん事を期せり。

殿下におかせられては平民的にあらせ給ふ趣かねて拜承せるも、禮に習はざる身の 殿下に咫尺し奉りて萬一不敬に亘る事ありてはと一方ならず案せられたるも、今日まのあたりその御威嚴あるうちにも亦自ら御仁慈の徳を具へさせ給ふ御容姿を拜し奉りては、畏きことながら却つて非常なる御慕はしさを感じたる程にて、何のこだはりもなく御前にて教授する事を得たり。誠に畏しども畏き極みなり。

殿下には豫定の教授を終へても尙御退室遊ばされず「何か教師から生徒に質問をするやうに」との御詞さへ賜はりたり。殿下が全島各地の御視察に際し、その御態度の頗る御熱心にあらせらるゝ事はかねて拜承したるも、只今この御詞を賜はり今更ながら有難さと畏きに感泣せり。しかも 殿下には數ならぬ私の教授をいと御満足げに台覽遊ばされたるを拜し嬉しさと御慕はしさの情自ら胸中に湧き出づるを感じたり。この光榮に對し奉り益々奮勵努力奉公の赤誠を捧げ奉らん事を期す。

臺灣語科

教 諭 胡 丙 申

大正十二年四月廿日 皇太子殿下臺南へ行啓の際には不肖は當時臺南州廳に奉職致してゐました故、一草莽の身ながら奉迎事務の一係員として畏くも 皇太子殿下を奉迎し咫尺の裡に親しく拜むことを得ましたことは千載一遇の幸として一生忘れられない光榮でございます。然るに今回 朝香宮殿下當校御成に御内定の際教務主任より圖らずも台覽授業の内命を受けまして不肖は一生に二度も直接金枝玉葉の御方の御前で勤めると云ふ無上の光榮に感激し、同時に如何にして此の重荷を果さんかと種々考慮の末南部特有の竹筏に就いての會話の教授を御覽に入れる事に決定して教材を選択したり教具を準備したりして萬遺憾なき事を期しま

した。十一日の早朝齋戒沐浴して心身を清めて學校へ参りました。時は刻々に迫つて午前の十時に一同教室に入つて静かにお待ち受け申し上げましたが、十時四十五分に校門の外に自働車の響が聞えた時、胸中には一種何とも云へない感じが起りました。やがて隣室の歴史の授業が終つたかと思ふと、御先導の學校長の姿が見えて一同は最も緊張した態度で起立して御待ち受けしました。殿下が玉歩を私共の教室に運ばせられ御英姿を拜するや全身電氣に打たれたやうに自然と頭が垂れて最敬禮をしました。それから私は更に御會釋申し上げて壇に登り學校長の御披露がすむと直ぐ授業を始めました。殿下は約五分間の後御退出になりましたが授業に對しては終始熱心に御覽遊ばされ御退出の際は私共の最敬禮に對しては一步お進みになつて御答禮を賜はり、生徒一同にも御會釋を賜はりましたことは私共の非常に恐縮に感じ涙を流したことであります。後にて私の教授に關して種々學校長に對し御質問を賜はつたといふことを聞いて一層有り難く感じました。この教授を台覽に供した事は不肖一生の光榮のみならず、實に子孫の光榮であります。私は今後益々奮勵努力して皇恩の萬分の一を報い奉る覺悟でございます。

一代荷榮百代照

御前教授仰威儀

扶桑千載葵傾向

碎骨粉身答聖時

體 操 科

教 諭 村 上 今朝之進

本校へ御成の時刻が御豫定よりも二三分御早くなるらしいとの内報に接しましたので急いで生徒を集合させ、愈々最後の注意を與へて一旦引退り、御成をお待ちする事にしました。一同は愈々 殿下を御迎へ致しますので今更乍ら光榮と觀喜とに心の躍るを如何とも致し難いのであります。

稍々時を経て御召自働車の音が微かに耳に入りましたので、直に之を生徒に通じ、其れより時刻を計つて徐かに運動場に進み出で、出来る丈け静肅に敏速に排列整頓を了しました。三百の生徒は恰も水を打ちたるが如く静肅で且つ姿勢態度を端正にし一段の緊張味を見せました。やがて學校長の御先導で、殿下の御英姿が見えましたので、心はいやが上にも緊張して來るのを覺えました。

殿下が壇上に昇られるのを待つて御前に進み生徒一同と共に最敬禮を行ひました。徐々と上體を元の姿勢に復しますと辱なくも、殿下には尙御舉手なされて侵すべからざる御威容の中にも何とも言ひ知れぬ御寛容を以て生徒一人々々に一々御會釋遊ばさるゝかの如き御態度で叮嚀に御答禮を賜はりましたのを見て、餘りの有難さに何とも言へない一種異様の感に打たれました。勇を鼓して御前を引退り殆ど夢中で指揮臺上に駆け上り直ぐ授業に取りかかりました。兎に角格別の過もなく豫定の通り無事に終り壇を下りて再び御前に進み出で最敬禮を致しました。

殿下には如何にも御満足げに御微笑をたゝへられて御答禮を賜はり、殊の外御機嫌麗はしく御還り遊ばされましたのには全く感激に堪へませんでした。

授業中生徒の緊張度は其の極に達したるもの如く、合同體操に於ける眞に肺腑より迸り出る力強き呼唱の響き、活氣旺盛せる動作の齊一等曾て見ざる所であります。これ、殿下の御尊嚴に感激せる滿腔の至誠の發露と深く信するのであります。

今回台覽を辱うしました事は實に無限の大教訓を拜受しましたもので、教育の基礎を確固ならしめ、將來の進展に大なる根柢を築いたものと信じます。

終りに謹んで、殿下の彌榮を御祈り申し、猶及ばず乍ら一層奮勵努力して此の光榮にお對へ申す覺悟であります。

台覽授業を受けたる生徒の感想

- 一、一介の平民しかも皇室と遠く離れて居る南端の孤島に於て、殿下を御迎へし、しかも台覽授業の光榮に浴した事は私共の生涯忘れる事の出来ない事で、又再び得がたい記念であると感激に堪へません。
- 二、御仁徳と御威嚴を御備へ遊ばす上に大層御英明にあらせられ、何事にも御通達遊ばされる事をまのあたり拜して畏れ多く感じました。そしてかゝる皇族方を上に戴く日本の國の赤子たる事を幸福と思ひます。
- 三、殿下には數ならぬ私共の申上げる事柄についても、いと御熱心にお聴き遊ばされ、そして大層御満足げに拜した事は感激に堪へません。
- 四、御詞や御態度が御叮嚀で私共は何となくお慕はしく感じました。
- 五、殿下には非常に平民的の御方の様に拜しました。
- 六、授業後校長先生に對し此の授業につき色々御尋ねになつた事を承つて宮様がいかに學問に御熱心であらせられるかを知りまして、私共は大に修養せねばならぬとの感を深くしました。
- 七、私共は今後益々勉勵して將來立派な教員になり、立派な國民を教養すると云ふ重大責任のある事を痛

切に感じました。

八、校長先生がおすゝめになつても終始お立ち遊ばされたまゝで授業を御覧下さいましたについては御仁慈の程誠に感激に堪へません。

九、如何にも勇壯快活で尊嚴な御態度には自ら頭が下り、知らず／＼心身の緊張を覚えました。

十、運動中は緊張其の極に達し唯一生懸命でありました。

十一、御質素で且つ國民の實情の御研究に御視察に御寸暇もあらせられぬ御精勵、實に畏れ多い事と思ひます。

十二、臺灣が日本の領土となつた事を嬉しく思ひます。

十三、重ね／＼の光榮に一層奮勵努力してお對へ申さなければなりません。

十四、私共の一舉一動は眞に眞心の進りでありました。

奉迎送に列したる生徒の感想

一、數多くの學校中で特に我が校に御成遊ばされた光榮は言葉に盡されませぬ。

二、御質素にあらせられる事は恐多い事であります。

三、御叮嚀に奉迎送の人民に對して一々御答禮を賜はつた事は誠に恐多い事だと思ひます。

四、一分でも長く我が校に御留りを願ふ心が一杯でありました。

五、常にやさしい御微笑をおたゝへ遊ばされていらせられた事はいつ迄も忘れられません。

六、體操台覽の間御起立遊ばされていらせられた事を承つて誠に感激に堪へません。

七、平民的に渡らせられ我々生徒の事に關して親しく校長先生に御下問あらせられた事を承つて誠に有難く思ひました。

八、友人から「君の頭が最敬禮の時最も遅く起きたのを 殿下が特に御覧になつていらせられた様に思はれた。」と話された時は胸の動悸が烈しく打ちました。

九、殿下の御姿を拜した時汚い心を棄て、清い心を持ち、一意専心忠君報國に盡さねばならぬと思ひました。

十、さきには 皇太子殿下を、今また 朝香宮殿下を御迎へする我が校の名譽と我々生徒の光榮とを思ひますれば誠に有り難くて益々修養に努めねばならぬと思ひました。

臺南師範學校沿革ノ大要

第一臺灣總督府國語學校分校時代

- 一、大正七年七月三日總督府ハ臺南市ニ國語學校分校開設ノ豫定ヲ以テ入學志願者募集ニ着手シ同八月五日第一次試験ヲ行ヒ應募者九百六十名中ヨリ選抜シタル百六十名ニ就キ同八月十五日第二次試験ヲ行ヒ合格者八十名ニ入學ヲ許可シ同八月二十四日入學セシメタリ。
- 一、同年七月十九日告示第九十八號ヲ以テ臺灣總督府國語學校分校ヲ臺南市ニ設置セラル、之ガ開校準備ハ臺北本校ニ於テ取扱ヒ臺南高等女學校長志保田銈吉同七月二十日臺灣總督府國語學校教授ニ兼任シ分校主任ヲ命セラレ同八月二日ヨリ臺北本校ニ於テ諸般ノ開校事務ヲ處理シタルカ同八月十五日分校勤務助教授書記等ノ任命アリタルヲ以テ同八月十七日ヨリ臺南市臺町一丁目赤崁樓内ヲ假校舍ト定メ事務ノ取扱ヲ開始セリ。
- 一、同年八月二十六日始業式ヲ舉行ス當日民政長官代理トシテ平野視學官臨場セラレ其ノ他來賓トシテ兩角臺灣第二守備隊司令官枝臺南廳長齊藤阿鞆廳長外臺南廳下官民約百四十名列席セリ。
- 一、同年八月十四日臺灣總督府國語學校分校主任事務分掌規程ヲ定メラル。

第二臺灣總督府臺南師範學校時代

- 一、大正八年一月四日勅令第一號ヲ以テ臺灣教育令發布セラレ同二月一日府令第八號ヲ以テ大正八年四月一日ヨリ施行ノ旨公布セララル。
- 一、同年三月三十一日勅令第六十五號ヲ以テ臺灣總督府師範學校官制ヲ定メラル。同日府令第二十三號ヲ以テ臺灣總督府師範學校規則ヲ定メラル。同日府令第二十四號ヲ以テ内地人教員養成規則ヲ定メラル。同日府令第二十五號ヲ以テ附屬小學校規則ヲ定メラル。同日府令第二十六號ヲ以テ附屬公學校規則ヲ定メラル。同四月二日府令第二十九號ヲ以テ生徒學資給與規則ヲ定メラル。同日府令第三十號ヲ以テ内地人生徒學資給與規則ヲ定メラル。
- 一、同年四月一日分校主任志保田銈吉ハ臺南師範學校長事務取扱ヲ命セラレ同五月三日臺灣總督府師範學校長ニ任シ臺南師範學校長ヲ命セララル。
- 一、同年四月二日告示第四十三號ヲ以テ臺灣總督府師範學校及ビ其ノ附屬公學校ノ名稱位置ヲ定メラレ臺灣總督府臺南師範學校ト改稱ス。
- 一、同年四月十四日本科第一學年生徒七十八名ヲ入學セシム。
- 一、同年五月七日皇太子殿下御成年ニツキ拜賀式ヲ舉行ス。
- 一、同年五月二十日改正師範學校規則ニヨリ始メテ豫科生徒百二十名ヲ入學セシム。
- 一、同年七月一日教育ニ關スル勅語謄本ヲ下賜セラル。
- 一、大正九年四月十四日勅令第九十五號ヲ以テ臺灣總督府師範學校官制改正セラル。
- 一、同年四月二十日豫科生徒百二十名ヲ入學セシム。

- 一、同年四月十九日市内幸町壹丁目八番地元臺南第一小學校校舍ヲ借入レ第二學寮ニ充テ生徒百二十名ヲ收容ス。
- 一、同年五月一日臨時公學校教員講習會（期間十一ヶ月）開設セラレ各廳長ノ選抜シタル講習員五十一名ヲ入學セシメテ授業ヲ始ム。
- 一、同年七月二十八日臺南師範學校細則ヲ定ム。
- 一、大正十年一月十八日臺南師範學校細則ヲ改正ス。
- 一、同年三月二十五日臨時公學校教員講習證書授與式ヲ舉行シ修了者四十五名ニ講習證書ヲ授與ス。
- 一、同年四月十五日臺南市臺町ノ假校舍ヨリ臺南市桶盤淺七番地ノ新築寄宿舎ニ移リ之ヲ教室ニ充テテ授業ス。但シ寄宿舎ハ従前ノ通り。
- 一、同年五月十日第一回公學校准教員養成講習科生徒七十九名ヲ入學セシム（期間十一ヶ月間）。
- 一、同年五月二十五日臺灣總督府臺南師範學校代用附屬公學校トシテ臺南第一公學校ヲ指定セラル。
- 一、同年六月十一日助教授上原宗五郎附屬公學校主事務取扱ヲ命セラル。
- 一、同年八月二十九日助教授上原宗五郎附屬公學校主事務取扱ヲ免セラレ同日教授西卷南平附屬公學校主事ヲ命セラル。
- 一、同年十月一日小公學校教員養成講習會（期間六ヶ月）ヲ開設シ講習員五十名ヲ入學セシム。
- 一、大正十一年二月四日勅令第二十號ヲ以テ臺灣教育令發布セラル。
- 一、同年三月九日府令第十八號ヲ以テ四月一日ヨリ施行セラル旨公布セラル。

- 一、同年三月二十二日第一回卒業生並ニ第一回公學校准教員養成講習科修了者講習會修了者證書授與式ヲ舉行シ第一回卒業生七十四名ニ卒業證書第一回公學校准教員養成講習科修了生七十八名及講習會修了生四十七名ニ修了證書ヲ授與ス。
- 一、同年四月一日改正臺灣教育令實施ニ伴ヒ臺灣總督府師範學校規則改正セラレ修業年限ヲ普通科五年演習科一年トセラル。
- 一、同年四月十七日教室ニ假用セル寄宿舎ノ假教室ヨリ新築校舍ニ移轉シ學寮ノ一部ヲ新寄宿舎ニ移轉ス。
- 一、同年四月二十二日改正師範學校規則ニヨリハシメテ普通科第一學年生徒百九十九名ヲ入學セシム。
- 一、同年五月十日第二回公學校准教員養成講習科生七十九名ヲ入學セシム。
- 一、同年六月七日學校長志保田銚吉臺北師範學校長ニ補セラレ同日臺灣總督府視學官田中友二郎臺灣總督府師範學校長ニ任シ臺南師範學校長ニ補セラル。
- 一、同年十二月十一日公學校教員養成講習會講習生五十名ヲ入學セシム（期間四ヶ月）。
- 一、大正十一年度學力補充講習會第一回（自大正十一年九月十一日至同年十一月三十日）修了生四十七名第二回（自同年十二月一日至大正十二年三月十日）修了生四十九名ニ修了證書ヲ授與ス。
- 一、大正十二年三月二十日公學校教員養成講習會修了式ヲ舉行シ修了生四十七名ニ修了證書ヲ授與ス。
- 一、同年三月二十二日卒業式並ニ修了式ヲ舉行シ第二回本科卒業生四十九名ニ卒業證書ヲ第二回公學校准教員養成講習科修了生四十九名ニ修了證書ヲ授與ス。
- 一、同年四月二十日 皇太子殿下ノ行啓ヲ仰キ奉ル。

- 一、同年四月二十八日ハシメテ修業年限三ケ年ノ公學校乙種本科正教員養成講習科生徒二十八名ヲ入學セシム。
- 一、大正十二年度學力補充講習會第一回(自大正十二年五月十五日至九月二十九日)修了生九十六名第二回(自同年十月一日至十二月二十八日)修了生九十二名第三回(自大正十三年一月七日至三月二十二日)修了生九十三名ニ修了證書ヲ授與ス。
- 一、大正十三年三月二十二日卒業式ヲ舉行シ第三回本科卒業生九十三名ニ卒業證書ヲ授與ス。
- 一、同年七月七日師範學校規則改正ニ伴フ細則改正ノ件認可セララル。
- 一、同年十月八日公學校乙種本科正教員養成講習科細則認可セララル。
- 一、大正十三年度公學校乙種本科正教員養成講習會第一回(自大正十三年四月一日至六月二十九日)修了生七十四名第二回(自同年九月一日至十一月二十九日)修了生六十五名第三回(自同年一月六日至三月二十二日)修了生五十四名ニ修了證書ヲ授與ス。
- 一、大正十四年一月十五日 天皇陛下 皇后陛下 皇太子殿下ノ御眞影ヲ拜戴ス。
- 一、同年三月二十二日卒業式ヲ舉行シ第四回本科卒業生九十五名ニ卒業證書ヲ授與ス。
- 一、大正十五年三月二十二日卒業式並ニ修了式ヲ舉行シ第五回本科卒業生百六十七名ニ卒業證書ヲ第一回講習科修了生二十八名ニ修了證書ヲ授與ス。
- 一、同年三月二十三日赤崁樓内ニ在リシ寄宿舎ノ殘部ヲ新築寄宿舎ニ移轉ス。
- 一、同年三月二十八日府令第三十號ニ依リ臺灣總督府師範學校規則改正セラレ同年四月一日ヨリ公學師範部

ニ對シテ教練ヲ實施セララル。

- 一、同年十月十五日校旗ヲ制定ス。
- 一、昭和二年三月十九日第三回講習科修了式ヲ舉行シ修了生八十名ニ修了證書ヲ授與ス。
- 一、同年八月一日ヨリ七日マデ一週間卒業生指導ノ目的ヲ以テ修身、國語、教育、理科、體操、國史ノ各科目ニツキ講習會ヲ開催ス。
- 一、同年十一月十一日 朝香宮鳩彦王殿下ノ御成ヲ仰キ奉ル。
- 一、昭和三年三月二十二日卒業式並ニ修了式ヲ舉行シ第一回演習科卒業生百二十六名ニ卒業證書ヲ第三回講習科修了生五十名ニ修了證書ヲ授與ス。
- 一、同年七月十八日ヨリ同年七月二十八日マデ十日間卒業生指導ノ目的ヲ以テ理科、修身、算術ノ各科目ニツキ講習會ヲ開催ス。

附屬公學校沿革略史

(上 原)

一、臺南第一公學校時代

明治三十一年十月一日公學校令の實施と共に國語傳習所の後を承けて開校す。校舎には孔子廟を使用し、修業年限六箇年、兒童數百五十餘名なりき。

明治四十四年四月一日八學年程度の公學校となり、大正二年四月一日再び六箇年の公學校となり修業年限

二箇年の實業科を附設す。大正六年八月二十六日新校舍竣工現在の地に移轉せり。大正八年四月一日實業科を廢し、修業年限二箇年の簡易商業學校を併置す。大正十年四月二十四日簡易商業學校を廢止す。

二、代用附屬公學校時代

大正十年四月二十五日臺南第一公學校を臺南師範學校附屬公學校に代用すること、なり學級二十二、職員定員二十四、兒童男一千七十二名女五十名を以て組織す。大正十一年四月十九日修業年限二箇年の高等科を置くこととす。一學級増加。越えて大正十二年更に一學級増加計二十四學級編制となる。

大正十二年四月二十日 皇太子殿下行啓の光榮に浴したり。

三、現況

昭和三年四月二十一日臺南師範學校附屬公學校設置さる。代用附屬公學校たりし臺南第一公學校の學級二十、兒童男七百六十名女二百八十二名を移管さる。

イ、位 置 臺南州臺南市桶盤淺

ロ、敷 地 一萬八百九十六坪

ハ、建 物 五百二十八坪

ニ、經費年額 一萬三千七百八十圓

ホ、編 制 公學校十九學級、高等科一學級計二十學級

ヘ、職員兒童及卒業生

1、職員

		内地人	本島人	計	摘	要
男		一七	五	二二	訓導	二三
女		一	一	二	(教務)	一
計		一八	六	二四		

2、兒童

		一學年	二學年	三學年	四學年	五學年	六學年	計	高一	高二	計
男		五九	一五九	一五七	一四九	一三八	九三	七五五	三二	二二	五三
女		六一	五三	五〇	四一	四一	三四	二八〇	一	一	一
計		一一〇	二一一	二〇七	一九〇	一七九	一二七	一、〇三五	三二	二二	五三

3、卒業生

		公	學	校	高	等	科
		男	女	計	男	女	計
第一公學校時代		八五七	八	八六五	一		
代用附屬公學校時代		九八二	六八	一、〇五一	一一六		
計		一、八四〇	七六	一、九一六	一一六		一一六

臺南師範學校現狀

(昭和三年十月一日現在)

一、位置

臺南市桶盤淺七番地

二、敷地

地 坪

一七、七〇〇坪

三、建物

校舍 煉瓦造 延坪 一、九二五坪
 寄宿舍 木造及煉瓦造 延坪 二、一七七坪

(平面圖ハ口繪参照)

四、經費年額

(昭和三年度)

俸給 一〇〇、三八四・〇〇〇
 事務費 六六、六三八・〇〇〇
 學生費 三五、一一〇・〇〇〇
 總計 二〇二、一三二・〇〇〇

五、編制 (昭和三年度)

他ノ其限年業修科部			
部	公學師範部		部
	普通科	演習科	
修業年限	五年	一年	三年
入 學 資 格	尋常小學校卒業又ハ之ト同等以上	普通科修了又ハ中學校卒業若クハ之ト同等以上	高等小學校二年卒業又ハ之ト同等以上
卒業後ノ資格	公學校甲種本科正教員	公學校乙種本科正教員	公學校乙種本科正教員
學 級 數	各一學級	二 學 級	各一學級

六、學科目及每週教授時數

學科目	公學師範部學科課程				
	普 通		科		
修 身	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
	時數	時數	時數	時數	時數
教育				二心理ノ大要	四教育ノ理論、論 大要教授法
修身	生徒心得、國民道徳ノ要旨、作法	一國民道徳ノ要旨、作法	一同 上	二同 上	二倫理學ノ一斑、 教材研究
					二國民道徳ノ特質、 教員心得、教材 研究、教授法
					五 教授法、保育法、 近世教育史、學 校管理法、學校 衛生
					演習科

手工	圖畫	經濟及	化學及	博物	數學	地理	歷史	英語	臺灣語	國語及 漢文
一 竹紙 工工	一 寫生 臨摹 考案			二 生理衛生	三 算術及代數	二 日本地理	一 國史	四 發音、 書取、 譯解、 會話、 文法、 習字	◎三 會話	△◎九 發音、 讀、 講、 習、 講
一 藤竹 工工	一 同上			二 動物、 植物、 實驗	四 幾何 算術及 代數	一 同上	二 同上	四 讀方、 譯解、 會話、 文法、 習字	◎三 同上	△◎九 讀、 講、 習、 講
一 製同 圖粘 土工 工上	一 幾何 同上		三 物理、 化學、 實驗	二 植物、 礦物、 實驗	四 代數 幾何	一 外國地理	二 外國史	四 讀方、 譯解、 會話、 文法、 書取	△◎二 會話又 講讀、 文法	△◎五 讀、 講、 習、 講
(一)一 木金 工工	一 同上		三 同上	一 礦物 博物學 通論	四 同上	一 同上	一 外國史	(三) 同上	二 同上	五 讀、 講、 習、 講
(一)二 木工 教材 研究	一 教材 研究上		三 教材 研究上		三 算術及 代數 教材 研究	一 地理 學概 論	一 同 教材 研究上	(三) 同上	二 同 教材 研究上	四 國語、 漢文、 講讀、 習、 講
二 同 教授 法上	一 同 教授 法上	三 帝制及 經濟上 事項	二 物理、 化學、 實驗、 教授法	一 同 教授 法	二 同 教授 法	一 同 教授 法	一 同 教授 法		二 同 教授 法上	四 國語、 發音、 讀、 講、 習、 講

計	實業	體操	音樂
三四		五 遊戲、 競技、 體操	一 基本 音樂 普通 樂譜 論
三四		五 同上	一 同上
三四	二 實業 大要	五 同上	一 同上 複音 唱法 樂器 用法
三四	(二) 同上	四 同上	二 同上
三四	(二) 同 教材 研究上	四 同上、 運動 生理	二 同 教材 研究上
三四	二 同 教授 法上	四 同 教授 法上	二 同 教授 法上

備考

一 本表國語及漢文、臺灣語ノ每週教授時數中△ヲシタルハ臺灣語ニ通スル者ニ之ヲ課シ◎ヲ附シタルハ其ノ他ノ者ニ之ヲ課スルモノトス
 一 普通科第四學年、第五學年ニ於テ英語ヲ學修セサル者ニハ手工、實業ノ括弧内ノ時數ヲ增加スルモノトス

普通科ヲ經サル公學師範部演習科學科課程	
學科	程度
修身	二 國民道德ノ要旨、作法、教材研究、教授法
教育	八 心理、論理、教育ノ理論、近世教育史、教授法及保育法、教育制度、學校管理法、學校衛生
國語及漢文	△◎二 講讀、作文、語法、發音大意、教材研究、教授法
臺灣語	△◎六 會話又ハ講讀、作文、教材研究、教授法
歷史	一 臺灣及南支南洋ノ歷史地理
地理	一 臺灣事情、教材研究、教授法

九、生徒出身州郡別

別	種	徒	生		種	族	別	普通科					演習科	講習科					合計
			本島	内地				第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年		計	第一學年	第二學年	第三學年	計	
計	蕃人	一	一	一	一	一	一	三六	四二	三九	三三	四一	一九一	七八	二五	三二	三二	八九	三五八
	本島人	一九	二五	二九	一八	二九	二〇	七〇	一九	二五	二五	六九	二五九						
	内地人	一六	一六	一〇	一四	九	六五	八	五	六	七	一八	九一						

八、生徒種族別

計	業							了							計	
	臺南州	高雄州	臺中州	新竹州	臺北州	臺東廳	花蓮港廳	澎湖廳	臺南州	高雄州	臺中州	新竹州	臺北州	臺東廳		花蓮港廳
一二六	七八	四六	二	二	一	一	一	七四	三	一	一	一	一	一	一	七四
九三	六二	二一	一	一	一	一	一	六九	一	一	一	一	一	一	一	六九
九三	六二	二一	一	一	一	一	一	九三	一	一	一	一	一	一	一	九三
九五	一〇一	二九	一	一	一	一	一	一六七	二	一	一	一	一	一	一	一六七
二八	一三	七	四	一	一	一	一	二八	四	一	一	一	一	一	一	二八
八一	三三	二〇	三	一	一	一	一	八一	三	一	一	一	一	一	一	八一
五〇	二〇	二六	二	一	一	一	一	五〇	二	一	一	一	一	一	一	五〇
七八	四七	二八	三	一	一	一	一	七八	三	一	一	一	一	一	一	七八
四九	二三	二五	一	一	一	一	一	四九	一	一	一	一	一	一	一	四九
九六	三九	二一	三	一	一	一	一	九六	三	一	一	一	一	一	一	九六
七三	一一三	六九	一	一	一	一	一	七三	一	一	一	一	一	一	一	七三
二九三	八五	四六	六	一	一	一	一	二九三	六	一	一	一	一	一	一	二九三
一四七	七五〇	四三一	二六	八	二	一	一	一四七	二六	八	二	一	一	一	一	一四七

卒

地方別	演習科		本科		卒業		公學校乙種本科正教員養成講習科修了		公學校准教員養成講習科修了		三ヶ月講習科修了	
	昭和二年	大正十一年	昭和二年	大正十一年	昭和二年	大正十一年	昭和二年	大正十一年	昭和二年	大正十一年	昭和二年	大正十一年
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

生徒數	學級數	普通科					講習科	講習科	講習科	講習科	講習科	合計
		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年						
三六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
四二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
三九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
四一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
一九一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
七八	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
二五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
三二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
三二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
八九	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
三五八	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇	

計	履	衛生事務囑託	教務囑託	書記	舍監	訓導	教諭(判任)	教諭(委任)	學校長	官職	
										定員	現員
五一	一	一	一	四	一	二四	一九	三	一	一	一
四七	二	二	三	四	八	一八	二四	三	一	一	一
一四	四	一	三	一	一	五	二	一	一	一	一
六一	六	二	六	四	八	二二	一六	三	一	一	一

州別	生徒出身															計	
	高雄					台南					臺南						
	潮州	屏東	旗山	鳳山	岡山	高雄	東石	北港	虎尾	斗六	嘉義	新營	北門	新化	曾文		新豐
第一學年	二	一	一	三	二	一	一	一	二	一	三	二	一	二	三	一	六
第二學年	一	一	二	一	二	一	一	一	四	二	四	一	二	二	二	二	一
第三學年	六	一	一	一	三	一	一	二	一	六	四	一	一	二	一	二	二
第四學年	一	一	一	一	一	一	二	一	一	四	二	一	二	一	一	一	一
第五學年	一	二	二	二	二	一	一	一	一	七	一	三	二	二	二	一	四
演習科	四	二	四	一	五	一	五	一	七	五	三	二	三	五	一	一	七
第一學年	一	一	四	二	三	一	一	一	一	四	一	二	一	一	一	一	二
第二學年	二	一	四	一	一	一	一	二	一	二	二	二	一	一	一	一	七
第三學年	五	三	一	一	三	一	二	一	一	三	一	四	一	一	一	一	二
計	二一	九	一七	一一	二二	七	一四	五	七	一四	三六	二〇	一五	一三	一七	二二	五三

別	郡							計
	臺東	澎湖	臺北	新竹	新竹	臺中	彰化	
	臺東廳	澎湖廳	臺北廳	新竹南	新竹北	豐原	彰化	
第一學年	二	二	一	一	一	一	一	三六
第二學年	一	二	一	一	一	一	一	四二
第三學年	一	二	一	一	一	一	一	三九
第四學年	一	二	一	一	一	一	一	三三
第五學年	三	一	一	一	一	二	四	四一
演習科	二	六	一	一	一	一	二	七八
第一學年	二	一	一	一	一	一	一	二五
第二學年	二	一	一	一	一	一	一	三二
第三學年	一	三	一	一	一	一	一	三二
計	一三	一八	三	二	一	二	二	三五八

備考 本島人ノ原籍地ニ依リ内地人ノ現住地ニ依ル
 一〇、入學志願者及入學累年表

年	願		科		本		科		普		通		科		講		習		科	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
大正七年	九六〇	八〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大正八年	三一六	一一〇	一	一	三五五	七八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大正九年	四三一	一一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大正十年	六四三	一九八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

大正十一年	九七〇	一九九	一四五	三八
大正十二年	九九六	九二	一四五	三八
大正十三年	九四四	四八	四〇五	八二
大正十四年	九八九	三九	二八三	四〇
大正十五年	七八七	四〇	二〇四	三〇
昭和二年	七八	四〇	一七七	三〇
昭和三年	七五六	三五	一八六	二五

一、生徒保證人職業別

職業	學年					計
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	
農業	四	七	一〇	三	一三	一〇八
商業	八	一三	一〇	一〇	一四	八九
工業	五	三	三	二	二	二五
官吏	八	七	八	二	四	四八
銀行會社員	二	五	二	二	三	二〇
貸地貸家業	二	二	一	三	三	二二
醫師	!	!	!	!	!	二
教師	四	二	四	三	三	二四
演習科	三	三	三	三	三	一五
講習科	三	三	三	三	三	一五
計	二四	二二	二二	二二	二二	一〇八

一二、寄宿舎

備人	二	二	一	一	一	一	一	七
自由業	一	二	一	一	一	一	一	一三
計	三六	四二	三九	三三	四一	七八	二五	三五八

全校生徒を收容す、舎監八名書記二名、外に週番其他生徒の役員ありて自治の精神に基き愉快に團體生活をなす。建物は木造二階建三棟(自修室、寢室)同平家一棟(舎監室等)煉瓦造平家一棟(食堂等)を主なるものとす。起床は午前五時四十分(時間短縮中は同五時廿分)、消燈は午後九時半(時間短縮中は同九時)、その間二時間半(時間短縮中は一時間半)の自修を課す。但し土曜日及祝祭日は自修を廢し、日曜は臨時外出等の關係にて一時間乃至二時間の自修を課す。炊事は舎監監督の下に生徒の役員あり、炊夫を備入れてなす。其他概略を擧ぐれば左の如し。

收容人員 三五八名

自修室 共に、一七、一室二〇名乃至二五名、下を自修室とし二階と寢室とす。

寢室 長 一名(演習科生)

副室長 三名乃至四名(同上)

室員の組織……種族にかゝはらず左の二種の組織をとる。

- 1、第二學年以上混合のもの。
- 2、第一學年のみのもの。

特殊の室

- 1、特別自修室二……教生其の他特殊の勉學者に便す。教生には特に消燈後一時間此の室にて勉學する事を許す。
- 2、休養室一……病人を一時收容して治療に便す。
- 3、圖書室一……校友会の圖書を保管す、特別自修室の一部を之に充つ。
- 4、娛樂室一……修養娛樂のため臨時集會等を催す。
- 5、理髮室一……理髮人をも入れ居れど、道具を備付け成るべく生徒相互に理髮せしむ。
- 6、販賣室一……指定商人に學用品其他日用品を始業前及び放課後販賣せしむ。
- 7、醫務室一……隔日校醫の來診あり。
- 8、浴室一……一週に水曜を除き他は午後二時半より六時まで入浴せしむ。

特殊の施設

- 1、蓄音器。 2、反射幻燈。 3、ラヂオ。 4、活動寫眞。共に娛樂室に備付く。

舍費一ヶ月二圓五十錢。

食費一日三十錢。

一三、校友會

校長を會長に戴き職員及び生徒中より選ばれたる役員ありて左記の各部に分れて活動しつつある外、毎年一回陸上大運動會、音樂會、安平往復一萬米競走等をなし會員心身の修養に努めつゝあり。入會金三圓、會費年額十一圓。

- 1、圖書部……圖書室を寄宿舎内におき、辭書參考書一千五百冊餘、其他新聞三種雜誌廿五種を備付け貸出をもなして勉學に便しつゝあり、豫算三百五十圓。
- 2、談話部……主として兒童に聞かしむべき談話の練習をなし、時々名士の講演をさく。豫算百圓。
- 3、音樂部……樂隊の組織もあり、豫算五十圓。
- 4、寫眞部……學校の狀況等を撮影し、繪端書等を調製す。豫算五十圓。
- 5、園藝部……校庭の美化をなす。豫算八十圓。
- 6、庭球部……コート五を有す。南部中等學校爭覇戰に於ても、全島中等學校爭覇戰に於ても、共に昨年及本年連續優勝す。豫算五百圓。
- 7、卓球部……ピンポン臺四あり、豫算百圓。
- 8、競技部……各種競技に於て常に優秀なる成績を示す。豫算四百圓。
- 9、水泳部……先年、十二米半に廿五米突のプール完成、二年以下は正課に準じ毎週二回放課後に練習せしむ。これまた優秀なる技倆を有す。豫算七百圓。
- 10、相撲部……本年度相撲場の設備完成す。普通科一年は正課に準じ毎週一回放課後に練習せしむ。豫算百五十圓。
- 11、柔道部……本年度より新設、劍道部と合せて豫算三百圓。
- 12、劍道部……本年度より新設。
- 13、野球部……目下雌伏中、將來の活躍を期す。

感想

一、創立關係者

臺南師範學校十周年記念

枝 德 二 談

思ひ起す大正四年も押詰つた暮の二十七日である、臺中より臺南に轉任して來たのが。翌日は御用仕舞で其の年は勿々の裡に過ぎ、明けて大正五年一月四日の御用始めが自分の爲には臺南廳治の御用始めといふことになるのである。

當時の臺南は流石本島最古の都市ではあり、西に安平南に打狗の兩港を控へ、南支南洋に直面して重要な位置を占め商業の重鎮たるだけに、産業方面にも又教育方面にも大に觀るべきものがあり、糖業の如きも臺南を中心として此事業は相當の發達を遂げつゝあつて、前任者の努力と民間志士活動の迹が偲ばれたのである。併しながら産業方面に比して教育方面を顧みると此の土地柄にも拘らず上級教育機關としては、一の

中學校を有するに過ぎないといふことは聊か教育界の寂寞を直感せざるを得なかつた。産業素より等閑に附すべきでなく益々發達を畫するの要あり、尙向上の餘地亦大に存するものあることが認められたものではあるが凡そ國民文化の根蒂に働きを爲すものは教育の効果であるといふ信條より、大いに教育機關の發展充實を圖り、産業の臺南たると共に教育の都市たらしむることを心竊に期し、時に隨ひ機に臨んで地方人士の奮起を促し、一面屢々總督府に向ひ卑見を開陳して只管目的の實現に励めた次第であるが、總督府に於てもこれを諒とせられ、大正六年の五月に先づ高等女學校の設立を見るに到り、次で生れたのが此の師範學校の前身で、大正七年臺灣總督府國語學校臺南分校として赤崁樓内に假校舍を設けて授業を開始したのである。其の翌年には現高等商業學校の前身たる商業専門學校が出來たのであるが、之が設立に到る迄にも随分幾多の紆餘曲折を経たものである。其の後大正十年に第二高等女學校と第二中學校の設立となり、現在では二つの中學校と二つの女學校、専門學校としては高等商業學校、それに此の師範學校とが出來た譯で、無論時機到來の然らしむる所でもあらうが、自分としては初一念の半を達し得たといつて宜しいのである。然るに其の思ひ出の一つたる師範學校が、大正八年教育令の實施に依り臺灣總督府臺南師範學校となつてから早くも十年の星霜を閱し、其の間に貢獻せられたる功績の顯著なるは申す迄もなく、現に各地方に在りて子弟の薰陶に従事せる教員の多數が此の校門より送り出されたるのであるといふことに徴しても、之が知られるのであるが、自分は如上の因縁により本校の功績に對しては特に深甚の敬意を表せざるを得ないのである。

凡そ各種の學校皆夫れ々の使命を有することは言ふ迄もないが就中師範學校は國民教育の中心として大なる鍵を握つて居るのである。即ち教育を完成すべき根本條件たる教員其の人の養成が使命なるに於て、其

の權威の及不及は實に國家盛衰の運命をトする鍵であると思ふ。今や本島改隸以來三十餘年の泰平により生活の安定を得て人心漸く弛緩し、加ふるに急激なる物質文明の移入と歐洲大戰に因る世界的思想動搖の餘波を受け、世相に一大變化を來し、青少年の如きは徒に虛榮に驅られ、勤勞を厭ひ、浮華放縱に流れ、其の混沌たる心裡状態は自ら節制なき行動となり、清淨無垢の後進に惡感化を與ふること決して尠少なからざるを思へば、前途洵に寒心に堪へぬ。而して之を救ふの途は、一に國民教育殊に精神教育の徹底に在つて、師範學校の使命に期待する所、彌々切に益々大なるものありと信するに於て國家社會の爲に更に一段の努力を熱望して息まぬ次第である。

聊か所懐を述べて開校十周年の記念を慶賀し益々校運の隆盛を禱る次第である。

一、舊 職 員

祝 辭

隈 本 繁 吉

予の任に臺灣に赴き、乏しきを督府學政の衝に承けたるは明治四十四年の初めにして、當時島民の爲めにする教育機關は、醫育に關するものを除き、師範教育及中等教育としての臺北に於ける唯一つの國語學校と、初等教育として、主なる街庄に限り設置せられたる公學校ありしのみ。臺北市内と雖も、男、女學童の殆ど全部は、辨髮纏足にして、國語の如き僅に學校々舎内に練習使用されたるのみ。是に於て、時の總督佐久間伯爵並に内田民政長官に進言するに、移風易俗、島民の好尚を新にせしめて、一視同仁の治化に霑はしむるには、

師範教育の擴張、女子教育の振興及び公學校の増設の急務なるを以てし、更に、内は街庄到る處に漸次國語の普及と風俗の改良を主とする會合を催し、外は島民と因縁深き對岸支那に、教育機關の増設擴張を策すべきを以てしたり。卑見幸に採納せられたれども、當時蕃界の蕩平其の他に於て多大の財力を費せしのみならず、歐洲大戰後急轉直下の勢を以て勃興せる文化政治の、今日とその情勢の甚しく異なるものあり、爲めに、之が實現に就ては牛歩遅々たるの憾みありしも、一日も敢て之を等閑に附したることなかりき。而して臺灣南部の大都邑たる臺南に、師範教育機關を設置するの件は、臺北に於ける現第三高等女學校の設立問題と共に、實にその一端として、既に大正二年度より、之に關する提案を企てたり。その實現は、年次稍々後れしも、島民有志の希望に原づきたる臺中中學の新設並に國語學校附屬女學校の獨立と相前後して、國語學校臺南分校の設立となり、遂に現今の臺南師範學校を見ることとなれり。而して、臺灣教育に經驗深き志保田、田中兩君が、前後相承けて校務を統べ、今や滿十年を経過し、往年の國語學校の後身たる臺北兩師範學校と、南北相卒ゐて、臺灣普通教育の源泉となり、初等、中等、高等の各教育機關と共に、全島の治化に貢獻する所、愈々多大ならんとす。邦家の爲め、實に同慶に堪へざるなり。若しそれ、文物徒らに進み、世潮の浸す所、民心をして往々輕佻危激に向はしめ、學園の裡、却て、かの人の子を賊ふが如き事例に至つては、田中君の如き、用意周到にしてよく民情を熟知せる諸君子のあり、予は萬々これなきを確保せんと欲す。斯に創設滿十年の佳日に際し、國語學校長たりし因縁をも顧み、聊か設置の由來を述べて祝辭に代ふ。

昭和三年九月十日夜

思ひ出

志保田銚吉

南部教育界の燈明臺たるべく我が臺南師範學校の基礎を置かれてから今年十年。年と共に校運ますます榮えて此度十周年記念の慶典が擧げられる。當時創立の事に當つた自分は無限の喜悅の湧くを禁じ得ない。臺南師範學校は自分には引離し得られない關係のある學校、それが創立以來はや十年もたつて堂々たる學校となつてお祝をする。何といつてこの滿悅を現してよいか自分はその辭を見出し得ない。

大正七年までは師範教育は臺北の國語學校一校だけで行はれたが本島文運の進歩につれて普通教育興隆の機運到來し教員の需要が頓に興り一日も猶豫なりがたき形勢となつて遂に國語學校分校の名を以て我が臺南師範學校が設けられたのであつた。

自分は今日の祝日に遭遇して往日風霜の跡を顧るとき感慨盡きぬものがある。時は大正七年八月下旬陸軍衛戍病院が住み古した赤炭樓に國語學校分校の門札が掛けられ職員四人生徒八十名が丈草と山なす塵に埋められた廢屋の庭に立つたとき「我等の膏と汗とでこの敗殘の家に光あらしめ我が校の健實な校風を築き上げ本島普通教育の荒野を開拓すべき我が校の大任を果すべきである。さあやらう。」といふ我が言下に一同シャツ一枚となつて刈り、掃き、洗ひして翌日の始業式の準備をしたのが我が南師の出發であつた。

今日からは到底想像に絶した陋穢朽敗狹隘不便加ふるに構内の一部には衛戍病院時代の死體室傳染病室等手もつけられぬ様な建物さへある中に必要に迫られて漸くに應急の施設をして随分思ひ切つた程度の辛抱をする有様で職員も生徒も心一つにして學業に勉め勞苦に就き一日に學校らしくしようとする新興の氣分溢るゝばかりであつた。一例を擧げると數十坪の空地に畑を作つたとき掘つても掘つても煉瓦ばかり、どう

どう三尺も掘つてやつと土を得て見事な白菜を作り得た事があつたがその掘り出した煉瓦の山を校外に搬び出すに牛車八十臺を要したのはウソの様な事實であつた。當時の生徒の一人が最近の直話にこんな苦しくてはたまらぬ逃げて家へ歸らうかと思つたがいやくこゝか男の辛抱どころだ折角の志を碎いてはならぬと奮ひ立つた事さへあつたとのこと。こんな事も知らずに餘りに前方のみを直視して計らずも生徒に苦しい思をさせた事はまことに氣の毒であつたが當時の生徒がよく之に堪へ訓練の趣旨に徹して修養の功を積み今や優良な教育者として貢献して居るのを見れば眞に感謝に堪へない。かうしたお蔭で建物が古いのや崩れかかつたりしてゐるのは致方もないが苟も我々の手でやれることは出来るだけやつて次第に設備も規律も清潔も相當に進んで住心地の悪くない學校となつていつた。

大正八年四月に臺南師範學校となつた。現在の校舍敷地が定まつた。今の本館の所は畑地であつたが運動場と寄宿舍食堂の所は全く荒涼たる墓地で今の學校附近の墓地よりもつとひどかつた。これを地均しをして校舍を建てるのは容易な事ではなかつた。新校舍の寄宿舍の一部が出来たのは十年四月で本館はやつと十一年三月に竣工したのだから、それまでは赤炭樓内の假校舍に年々二倍三倍になる生徒をしまひには傳染病室にも隣りの觀音廟にも廊下といふ廊下に床を張り板圍をした所にも入れる、屍體室は手工準備室にする食堂が狭いから二度に分けて食事する、さうして新寄宿舍が出来れば校舍に流用して赤炭樓の寄宿舍から通學させる、職員にも生徒にも同情に堪へない苦勞多難の状態であつた。

さりながら此の間に於ての物の生活こそこんなであつたが精神的な生活は豊かで恵まれたものであつた。年々に増していつた職員も兄弟の如く和合して學校の空氣に共鳴し躬を以て生徒を率ゐる數百に餘る生徒もよく

職員に信頼して校風の建設振興に力めた。固より多数生徒の事だから事故のないことはなかつたが比較的少く前にもいつた様な長い間の不便苦痛もあまり不平なしに自分達の手で一日一日と之を排いて光明に進まうとする様子が見られた。他から見た赤坂樓生活は實に羨しい憐れなくもこんな所に居たものだと思はれる様なものだつたらう、が實際の中に住んでゐた職員生徒の気分はさうでなくて固より新校舎の竣工を待たずびつゝも毎日が不快だといふ様でなく喜んで諦めてさうして將來に希望を抱いた状態であつたといへる。新校舎の運動場の地下に隠れて雨後にはそれと認められる墓を整理した際の手傳を生徒にさせたなど多少無理だと思はれる様な仕事でもよく學校の意志を諒解して進んで働くといふ風に自分達の手でこの學校を築き上げるのだといふ精神が發露することが度々であつた。

自分はかう信ずる教育者は個人として社會人として、國民として教育勅語の御趣旨の體現者たらざるべからざる者、さうして社會民衆を躬を以て率ゐて善良有爲の國民たらしめる先導者たらざるべからざる者である。従つて師範學校の生徒は在學中に他日優良なる教育者となる修養を積んで社會に出た時には師範學校に於ける生活をそのまゝに移して社會に於ける生活とし社會活動の中心となつて本島の生活を改善し本島の文化を向上する模範的資質あるものとなる實際的徹底的訓練を受けしむることが大切だ、この訓練を等閑に附し智識を研くに偏するが如きは最も避けなければならぬ危険甚だしいものと信ずる。

この點からして生徒心得大綱六項を定めて日夜に之を銘記實行することを期せしむる様つとめたが、前にいつた不便な生活の間にも緊張した態度を見たのもこの趣旨が日常行住の間に現れた一端かとも思はれる。當時の臺南第二聯隊長守永大佐は熱心な古神道研究家で敬神尊皇の念篤く臺南の兵營内に神社を建て天照皇

大神を祭られた人であつたが學校の依頼を快諾して時々生徒の爲に皇室國體軍備に関する講演をされた。そのいはれることがうれしい。「自分はこの學校の生徒がすぎだ、それだから喜んで話に来るのだ。」といはれた。厳格な尊皇敬神家の大佐のこの評語はどの點からいはれたのかわからぬが生徒の態度に認められる所があつたのかと思はれる。

大正十一年三月二十二日に第一回卒業生が出た。甘いか澁いか初實の柿が世に出たわけだ。學校教育の眞の評価は卒業生の活動にかゝる。今やその評価をされる時となつた。卒業生よ健在なれ、奮闘せよ、さうして光明を得よと祈るのであつた。當時校舎の建築は僅に本館と寄宿舎の一棟が出来ただけでその他は計畫だけは出来てゐても竣工實現までには前途遼遠であつた。殊に内容の整理に至つては將來に待つ所があると思つてゐるとき六月突然臺北師範學校長に轉任を命ぜられた。幸に自分の最も敬愛する田中校長が來られたので自分はすべての點に於て安心して學校の爲には大に慶賀して思出多い臺南師範に別を告げた。

創業は易く守成は難いといふ。自分は臺南師範の創業の一部をしたばかり、しかも大體の荒をなしたに過ぎない。もし長く居つたら創業に長せず守成に拙な自分は學校の爲に禍となる様な事がないでもなかつたかと惧れる。然るに田中校長が來られて多年學校内外の經營に極力盡瘁され又職員生徒諸君が奮勵されたので今や宏壯完備の學舎は巍然として臺南の一偉觀となり殊にその内容の充實、活動の健實に至つてはただ禮讚の外はない。幾百の卒業生は普通教育界の第一線に立ち國運進展本島向上の勇士として奮闘活躍して居る。實に校運隆々たりであるは大に慶賀すべき事である。

さりながら自分としては臺南師範は永久に忘れられぬ。自分がその歴史の第一頁を汚す事を許されてから

四年の間一意その創業に熱中し得た事は自分の本懐であつた。これは當時の職員生徒諸君の力に待つもの頗る多く諸君に對して自分は深い同情と感激を寄せると同時に自分をして臺南師範の創立に當るを得しめられた事は自分終生の幸福として永く熱い感謝を捧げるのである。たゞ自分の不敏驚鈍よりしてその間に於て思ふて至らず盡して足らざるものがありて重大な責任に對して多々缺點遺憾のあつた事は今尙陳謝せんと欲する所である。

今自分の前には轉任に際して職員諸君から贈られた開校以來の日々生活の各場面を網羅した寫真が置かれて居る。眞に絶好の記念品である。一頁又一頁くり廣げるまゝに當時の光景がさながらに次々目前に浮かんで来る。かうして生れたのが今の様な堂々たる學校になつたのだといふ満悦はやがてその洋々たる前途に對する囑望の決して空しからざるべきを堅く信せしめすには措かぬ。卒業生及び生徒諸君。どうか諸君の母校をして本島教育界の燈明臺として幾百年の後までも其の光輝を赫灼たらしめる様にしていただきたい。今日の佳節に當りて最も深き祝福を捧げる自分の衷情は敢へて職員生徒諸君及び卒業生諸君に譲らぬ事をいふ事を許していただきたい。

三、現在職員

祝開校十周年記念

巍然校舍聳雲端。

回憶當年野草蹊。

赤嶽樓前宣木鐸。

寧南城外煥文壇。

胡 丙 申

八才化育談何易。

經義精微執問難。

刻意琢磨過十載。

士多濟濟肅衣冠。

其 二

菁莪造士過旬年。

畢業生徒已滿千。

北闕春風施降帳。

南臺化雨潤青氈。

一門桃李多奇秀。

羣彥珠璣盡競妍。

愧我無文汚末席。

虔心祝頌九如傳。

同

英才濟濟出西東。

深得皇家造就功。

魁斗山前施化雨。

城南樓上有春風。

一年經始勞明石。

十載栽培說馬融。

師業千餘今已畢。

北中鼎足課成童。

同

赤嶽樓中國校開。

魁山木鐸始移來。

星霜歷十斯文遍。

桃李盈千聖道恢。

大典時逢行北闕。

良賓雲集冠南臺。

羞余欲祝無佳句。

陪席徒銜記念盃。

其 二

聞說師賢際始開。

辛勤多士此中來。

先生執鐸除磚片。

弟子携箕掃葉堆。

十載經營勞力大。

百盤設備布仁恢。

三層學舍摩天立。

文運隆隆亦盛哉。

祝臺南師範學校十周年

咄 莽 陳 堯 皆

國校分費赤嶽樓。募招二級養成修。執鞭教士高人格。蒙訓生徒拔萃球。移築周圍寬廣縱。改名師範寂清幽。

十年記念堪爲祝。有酒同盃似舊不。

其二

同人

人

國學分彙獨立編。臺南師範十週年。栽成桃李聯芳圃。叶夢芝蘭滿秀園。赤崁文風漸縱起。金臺華國廣資緣。例行競技同遊興。開校佳辰記念天。

感想

金成茂生

南部臺灣即ち舊臺南、嘉義、阿緞三廳下に於ける官民の熱烈なる要望に副へる公學校教員養成機關として、我が臺南師範學校の前身である國語學校分校が、臺南に設置せられたのは大正七年七月で、爾來春風秋雨はや己に十星霜を閱しました。私が本校創立當初より御厄介になり茲に十周年記念日を迎へましたことは、誠に夢のやうでその早かつたのに今更驚く次第であります。それに私は元來至つて平凡で唯眞面目にその日その日の事務を執つて來たと云ふに過ぎないのですから、今特にとりたて、感想といふ程のものもないのです。併ながら十年間に於ける變遷の跡を偲べば、また多少の感懐なきを得ないのです。それでその一二を述べて見たいと思ひます。

私は大正七年八月十三日に轉任の命を受け、十五日急遽赴任しました。何分創立の際殊に開校期日切迫の折とて、前任地に於て知人への暇乞もそこゝ匆忙として、第二の故郷とも云ふべき十一年間住馴れし臺中を出發したのでした。それから翌々十七日よりいよいよ假校舍と定められた。臺南否臺灣の歴史に名高き、

かの赤崁樓の構内に於て事務を開始しました。この赤崁樓の建物は、一時陸軍衛戍病院に使用せられたがその移轉後暫時空家となつてゐたもので、見ると建物は半は朽敗し庭は一面草茫茫と荒れ果て、狐狸の住む古寺の觀があり日没時獨りでは到底居れ相もない、實に陰氣な場所なりしには少からず驚かされました。尤もこの構内に校舍寄宿舎としての應急の設備は、臺南廳の斡旋により施行されてゐたのでしたがたゞ孰れも古き建物で、粗雑な設備甚だ不十分な、現在の生徒諸君には到底想像し能はざる状態でした。

當時分校は、臺南高等女學校長の志保田銚吉先生が國語學校教授を兼任し分校主任となつてゐました外に、國語學校助教授大井全平先生と同中野延輔先生とが、分校勤務を命せられて臺北から着任されてゐました。そこへ私が加はつて漸く職員四名となり晝夜兼行の姿で各自擔任の開校準備事務に努めました。之れより先己に生徒を募集し多數の應募志願者に對し、八月上旬頃入學試験を行はれてありました。次で合格者も決定しましたので夫に入學許可の通知を出し、八月二十四日には本校最初の生徒八十名が入學致しました。そして翌々二十六日には始業式を舉行することになりました。當日は總督府よりの臨場官や來賓多數參列の下に、いと嚴肅に式を挙げられ無事に終了しました。式後は赤崁樓にて有志者の催に係る開校祝賀會に招かれて出席しました。前にも一寸申しました通り、臺南に新に教員養成の學校を開設することに就ては（當時本島に於て教員養成機關は臺北の國語學校唯一校あるのみでした）年來南部臺灣に於ける官民多數の熱望せし所で、遂に南部三廳下の有志者相謀り學校新築せらるゝ曉には相當敷地を提供することゝし、切に新設せられんことを請願するに至り、當局に於ても亦該施設の最必要なるを認め、いよゝゝ國語學校分校として實現するに至りしもの如く聞いてゐました。されば當日祝賀會場内の氛圍氣も、自ら歡喜場内に横溢せるが如く覺え

て、眞に愉快なる光景でした。本校は今より十年前かくして誕生致しました。

それから後生徒諸君は授業の外に、荒れ果てゝゐた構内假校舎寄宿舎内外の大掃除をよくするのを見ました。掃除と云つてもたい普通一般の拭き掃除とは事かはり、なか／＼以て骨の折れる労働です。丈なす雑草を取る。地面一體に散在する煉瓦屑を捨ふ。随分澤山なものでこれを除去せねば運動も何も出来ない程で塵捨場は煉瓦屑で山をなしました。地面を掘り起して農業實習地を作る。こゝからも煉瓦屑は續々出で來ました。相當廣い構内ですが特に人手を借りず教官始め生徒一同が、殘暑酷しき炎天下に汗みどろとなつて作業を續け、而も毫も嫌厭の狀なく皆欣々然として如何にも愉快に、實直に、従順に活動せること洵に涙ぐましく感激せずには居られませんでした。かくて幾日かの後には、構内の面目殆んど一新したる感が致しました。

始業數日後、林茂生先生は教務に、今は故人となつた松元茂樹君は事務に着任し、九月には井田博先生衛生事務に、藤谷芳太郎先生教務に、十月には教務に陳堯皆先生、西山清澄先生、十一月には教務に南能衛先生、事務に中村喜熊君等夫々任命せられましたので、漸次學校の陣容整然たるを見ることが出來まして、本校創立の第一年を送りました。

翌八年一月四日臺灣教育令公布せられ、四月一日より施行されました結果、國語學校は臺北師範學校となり、分校は臺南師範學校と改稱せられ、志保田先生が本校校長に任せられました。この年三月三十一日臺灣總督府師範學校規則公布せられ、本校は新學年に於ては、本科二學級豫科三學級の生徒を募集することになりました。而もそれが矢張り假校舎寄宿舎に收容するより外に方法はありませんので、その設備には大に困惑しましたが、兎に角赤崁樓構内に在る建物は假令半は朽敗に屬する様なものをも、利用し得る限り應急の

修繕を施行して、約二百名の生徒を收容しました。しかし自修室の如き随分狹隘にして、一室僅に三名を入るゝに足らざる程狭小なる室までも使用せし始末でした。

この學年には本田先生、小山先生が、四月初に相前後して着任されましたし、その外牧田先生、松岡先生池戸先生等總べて九名程の先生方が着任されました。この年は悲しい出來事がありました。池戸公夫先生が五月に着任しなか／＼元氣よく體操科などを教授して居ましたのに、翌九年一月不幸流行性感冒に罹り臺南醫院に入院療養中藥石も其の效なく、同月十日遂に不歸の客とられましたのは、誠に痛惜の至りに堪へませんでした。

其の後大正九年四月には三學級、同十年四月には五學級と云ふ非常に多數の豫科生徒を入學せしめられる、尙その外小公學校教員養成講習會を開設される等で、假校舎寄宿舎は年々益々狹隘となりし爲め遂に現市役所向側の舊小學校跡の建物を借入れて第二學寮を設備するに至りました。しかし一方校舎並寄宿舎新築のことは己に當局に於て計劃せられ、大正八年度に三十五萬圓三年度繼續費豫算成立しましたが、翌九年度に豫算追加せられ總額七十萬圓四年度繼續事業となりました。それでいよ／＼校地として市の南、臺南第一公學校に隣接したる舊城壁外側の桶盤淺に約二萬坪の地面を選定されました。先づ寄宿舎木造二階建一棟半の建築工事起工、次で校舎煉瓦造三階建の本館一棟の新築をも起工されました。斯くて寄宿舎は十年三月には竣功しましたので、同年四月十五日假校舎を赤崁樓よりこゝに移轉しました。暗い所から明るい所に出た時のやうな心地がして、木の香高き室内で執務することは非常に愉快でした。恐らく當時の職員各位も生徒諸君も亦同様な感ありしことと思ふのであります。

移轉後はまた開校當時の如く、生徒諸君の作業はなかくの骨折でした。大體新校地は一部の畑地を除き他の大部分は、墓地でしたのを高低地均しをしたばかり、取り残された人骨さへ諸所に散見し、少しく地面を掘れば往々にして骨壺や棺桶が頭を出したもので、無論校地内には一樹一草だになく、砂地なる爲め風のままに小砂丘が出来あがる有様はまづ滿目蕭條の感がありました。然るに課外作業として生徒諸君の勞力により、校庭は片端から掘起す、墳墓に當れば取り除く、更に高低は地均しをする、芝草の植付けをする、記念植樹をする、かくて始めて現在見るが如き校庭の運動場の基礎が出来ました。當時植付けた數百の榕樹は鬱蒼として繁茂し、生徒諸君の異常なる努力を物語つてゐます。私は窃に思ふのであります、由來健全着實にして勤勞を尙ふ我が校風は、この時完全にその種子が大地に播かれたのであると。

大正十年四月二十五日から臺南第一公學校が我が附屬公學校に代用されました關係上、同校二十六名の職員各位が新に任命せられ、助教授兼訓導上原宗五郎先生が主事事務取扱となられました。同年七月西卷南平先生が本校に着任されて附屬公學校主事となられました。こゝに於て本校創立當年の入學生徒諸君は教生として教育實習を爲し、翌十一年三月二十二日を以て全く四年間螢雪の功を收めて本校を卒業し、各自歡喜と希望とに満たされて校門を出ました。

新築校舎本館の一棟は十一年三月工事落成しましたので四月十七日假校舎より移轉し、其の跡へ學寮の一部を移しました。この年六月七日志保田校長先生は臺北師範學校に轉任され、同日現學校長田中友二郎先生が總督府視學官より轉任されました。爾後本校は校舎並に寄宿舎の増築新築工事年と共に進捗し、今や總延坪數四千有餘坪の實に堂々たる建築の完成を見ましたことは、誠に慶賀の至りに堪へません。

本校校舎本館の新築落成せし翌年即ち大正十二年四月二十日には長くも 東宮殿下の行啓を仰ぎ得ましたことは、本校の歴史をして更に一段光輝あらしめたもので茲に特筆大書して深く／＼歡喜感謝せねばなりません。この忘るべからざる榮譽は永く後世に傳ふると共に、將來益々校運の隆昌ならんことを希望して止まない次第であります。

願ふに創業十年は、久遠の前途を有する本校としては敢て長しとせず、而も此の間に於て本校が卒業並修了者を社會に送り出したことは實に一千四百餘名に達します。此等の卒業並に修了者諸君が孰れも本島の教育に粉骨碎身の至誠を效さば、夫れ丈でも本島文化の進展に貢獻する所如何に甚大なるかは想察するに難くありません、況んや今後永久に相繼いで盡くることなきに於てをやであります。本校存立の意義深くして洵にその責務の重大なるを思ふのであります。私は本校今日の隆昌と光輝ある歴史とは、創立以來校長先生始め諸先生並に生徒諸君の異常なる努力の賜物で、之れを持續し且つ益々發展振興せしむることは正に將來に於ける職員各位並に生徒諸君の双肩に荷ふべき責務であらうと思ふのであります。私は淺學菲才にして自ら省みて冷汗の流るゝを覺ゆるのですが、微力ながらも驚馬に鞭ちて麒麟に附し、一意奉公の至誠を效したいと思ふ次第であります。

四、卒業生修了生

思ひ出

大正十年度本科 黄木 邑

創立記念日!! 嗚呼何といふなつかしい日だらう。

忘れもせぬ大正七年八月廿四日、あの三百年の臺灣史を獨りで今尙得意さうに物語つてゐる古跡赤崁樓へたつたの八十人が、大に將來を期待し大きな理想を描きながら包み切れぬ喜びを浮べて最初の一步を踏み入れたのはまだ昨日のやうに思はれる。

到る處煉瓦片が轉々とし一尺以上の草が茫々と生えてゐる廢墟の中に、すすけた灰色の屋根や壁を所々新しく白色に塗り立てられた家が不規則に立つてゐるのを見て、「こんな所が學校になるか知らん。」と先生方までが少からず期待を裏切られて漏された歎聲は未だに私の頭から消え失せないものである。

六〇

それから二十五日大掃除に取りかかり、二十六日には民政長官代理殿を始め生徒數よりも遙か多い來賓の來臨を辱くして盛大な開校式が挙げられたその時の有様はまだ目前に見えるのだ。

こゝに於て國語學校分校が始めて産聲を挙げたのであるが當時職員が只四人、草刈と煉瓦掘がそれからの毎日の課業だったので、「こんなことをしなれば先生になれぬのか。」と今更のやうに口惜がるものも少くなかつた。おまけに掘れば掘る程出て來る無盡藏の煉瓦片は忽ち小山のやうに堆積しその賣上げが百數十圓に上つて大に甘汁で舌鼓を打つたのは嘘のやうな事實だつた。

このやうに師弟が一體となつて毎日流した尊い玉の汗の結晶がやがて生々としたみづみづしい蔬菜と變つて食膳に上る頃には寧ろ何とも云へない愉快な面白い生活になつた。

それから學校が年々膨脹して來て大正十年には現

入學當時の母校の思ひ出

大正十一年度本科 葉 昭 彬

在の校舎が建築を開始され學寮二棟だけが先づ出來上つたので假校舎に充てられて毎朝隊伍を整へ、足音高く町家の夢を破つて通學したのは思ひ出すだに痛快でたまらない。

不思議にも廢墟と廢墓地に生活することゝなつた吾々は今まで鍛へられた鐵腕で墓掘りから植樹までなし只今の如き美麗な寮庭、食堂、グラウンドの基を開いたのである。

かやうな所が今日の如く堂々たる校舎が天に聳え立ち、見渡す限り青々と緑滴る程に繁茂して昔の面影は何處へか去つて全く面目を一新したのは夢かと思はれる。又南部教育界へは既に七百餘名の第二國民の指導者を津々浦々まで送り出して臺灣教育の爲めに否帝國の爲めに盡しつゝあるを思ふ時、無上の喜びを感ずると同時に實に感慨無量である。

願くは今後共永遠に益々隆盛になることを記念日に當り衷心祈つてゐる次第である。

六一

師範バスの通知を受けたのは大正八年の春三月であつた。我が同窓八十は遠大な望を抱いて四月十六日校門をくぐつた。來て見れば高い高い赤崁樓が直ぐ前にそば立つてゐる。遠い昔、和蘭人が築いたもので後、明の鄭成功が臺灣開發の根據地である事が記憶の底からぼうつと浮んだ。校内には到る所三尺以上の茅が競つて繁茂し煉瓦屑が小山をなし、建物の窓は破れ煉瓦屏はくづれ一見しておぼけでも出さうな荒れた有様であつた。併し汚い箱の中に寶玉やダイヤモンドが入つて居れば誰でも好むであらう。校内の風紀の良い事はおそらく當時の臺灣中等學校中第一であつたであらう。學寮生活の秩序ある事間くも驚く程であつた。起床前は板張の溝の上を下駄で通行しても音が立たず話し聲一つ耳に入らない程

の静肅さであつた。外出の規則よいこと、食事時の禮儀正しいこと、消燈後の就寝状態、實に見事であつた。教室は一寸暗い本島式の家であつたがその中で活動する師弟は熱情が室外にあふれるばかりであつた。情深くあらせられる先生のお導き、目的に向ひ歩調を揃へる我等同窓の意志及努力は確かに天に響き渡つた。顧みるに我が母校は開校の初から「形よりも中味」といふことを理想として活動して來たのであつた。之を思ふと今更の様に歡喜の情が湧き母校に對する感謝の念を厚くすると同時に將來益々發展されるやうにと默禱祈願する次第である。

母校創立滿十年を祝す

大正十一年度本科 張 守 良

本年は母校創立滿十年に相當してゐるといふのでここに盛大なる祝賀會を舉げられるといふことである。顧みるに、母校は大正七年の秋八月創立されて、

以來南部教育の中心地となつて、本島文化の爲に盡瘁し貢獻せるところ、頗る顯著なるものがあり、校運は年を重ねるに隨ひ、愈々隆盛に赴いてゆくのは、我等出身者の喜びに堪へない所で、實に心強く思ふ次第である。

而も母校の前途は洋々たるもので、人生に譬へれば、正に少年期を過ぎて青年期に入り、これからが大に活動すべき時期に達してゐると言へるだらう。されば、此の度の祝賀は過去の功績を語り、將來の首途を祝する最も意義あるもので、出身者と言はず、在校生と言はず、全校を舉げて大いに祝すべきである。

思へば、大正八年四月、私は第二回の生徒として、今は世に居ない父に見送られて入學したが、校舎は今も尙ほ臺南の空に高く聳え立つ赤崁樓内の一部で、輪奐の美を極める現時のとは趣を異にし、未だ修築されなかつた時代で、柱朽ち、屋根毀れ、草茫

諸君の御健闘を切に祈る。

所 感

大正十二年度本科 孫 媽 諒

科學の急速なる發達に伴ひ、物質的文明の進歩は殆んど底止する處を知らないで、此の世を我が物顔に全盛を極めて居るのであります。従つて世人は其の物質的文明を追ふ事にのみ汲々として、精神上的の修養を閑却に附し、爲に確固たる信念をもつて正確なる判断をなすことがなく、常に時代かぶれの新思想にすつかり我か身を陶醉せしめて、種々なる面白からぬ現象を現出して居るのであります。

此の世態に鑑み初等普通教育に身を委ねて居るもの、又は將來其れに携はらんとするものは、須らく常に自己の修養を怠らず、確固たる信念を本とする人生觀をもつて、黄金の綺羅めきにも眩惑されず、事に當り容易に動せざるの自己を作り、進んで少な

々として全く荒廢そのものであつた。この荒廢し且つ設備不完全なる校舎に三箇年程をすこして、確か三年の終り頃だつたか。待ち兼ねてゐた新校舎漸く竣成し、卒業前一個年嬉しくも壯麗を盡してゐる今の三階建に起居することゝなつたが、又農業の實習地を作る爲に、鋤を振り、玉なす汗を流し、背を赫々たる太陽に曝して、墓地を掘り起さねばならぬ苦しさを嘗めたのである。勞働は神聖とは言へ、その一方ならぬ困難には辟易せざるを得なかつた。併し今日再び母校を訪ねて、自分等の植ゑた記念樹の欣々として榮えて行くのを見れば、胸が自らどろきうたに昔が懐しくなつて來る。

更に當時の恩師を思へば、或は他に榮轉なされ、或は内地に歸還せられて、今日共に昔を語る恩師尙幾人居られるであらうか常なきは世の常である。昔を思ひ今を思へば、實に感慨無量のものがある。

終りに母校の盛運を祝し、恩師の御健勝、同窓生

くともこれからの人間を善導して、沈着にして且つ正しき道に向つて勇往邁進するものたらしむべき覺悟を要すると信ずるのであります。

我等は温情に満ちた諸先生の手を離れ懐しき母校の門を出てから既に五度の春秋を送り迎へました。が、今なほ南臺の野に高く屹立してゐる三層の赤樓を見ては去りし日を偲び、温き恩師の御人格の尊さに打たれて、實に感慨無量であります。そして絶えずひそかに報恩の念を抱いては居るものの未だこれと云ふ微志を果し得ないことは眞に羞恥に堪へない次第であります。

思ふに我が校創立せられて茲に十周年、島内の諸學校に比すれば未だ餘り古いとは云はれません、十年といふ歲月は決して久しいとは申されません。然るに其の間に於ける我が母校の進展は、今更申すまでもなく實に目覺ましいもので、各方面に於て既に社會から認められてゐます。我々も其のお蔭で

人並に今日の地位を有するに至つた譯であります。種々な方面に於て我が母校が常に島内の諸學校の右に出てゐることを見て、卒業生の我々としては思はず歡喜の聲を發するのであります。まして今や我が母校が第十周年に當り盛大なる記念式を舉行せらるゝことを承つては、誰でも至誠を込めて祝し將來を慶賀して止まない次第であります。思ふに我が母校が既往十年間に於て斯くも著しい發達進歩の出來たのは、ひとへに當局の御盡力に依ることは勿論、慈愛深き恩師の日夜の御骨折、其の時々の在學生諸君の屈せず撓まざる御奮闘の賜であると信ずるのであります。茲に更めて厚く敬意を表する次第であります。終に臨み諸先生始め皆様の御健康を祝し、我が母校の發展を祈り上げます。

音樂的期待

大正十三年度本科 洪 江 河

「私はNと申す者で、此の度御校に御厄介になることになりましたから何分宜しく。」

と、一南師卒業生がB校長に赴任挨拶をした。挨拶を受けたB校長は、可なりの老年ながらも、期待と喜びとで顔が一段と輝いて見えた。二日経つて其の學校で學年始めの職員會議が開かれた時、B校長は眞先きに

「N君は臺南師範出身の方だから唱歌科の研究主任としてうんとやつて下さい。」

と、言はれた。之にはN君も閉口したやうだ。N君は師範時代から音樂に左程の趣味もなく、研究もなかつたのだ。さうして

「私は南師を出た者であります、其の道には未熟ですからなることならごなたかに。」と答へた。勿論其の校には北師出、内地師範出及び教員心得等の元からの職員もあり、音樂に堪能な者

もないではあるまいが、期待信頼の餘り、

「まあ、さうおつしやるな。之が適任者は臺南師範出の方を措いては外にないから是非お願いしませう。」

と、更に校長は言つた。

之がN君の社會へ踏み出しての第一の關所であつた。N君の頭には卒業式場での師訓なる克己忍耐の四字が浮んだと見えて、

「さうですか。それでは及ばずながら私が。」と、思ひ切つた一句が元氣よく迸り出た。

併しB校長の其の一句には私も感慨無量だつた。思ふに其の一句は、故意にN君を迷はせたいと思つて發した言ではあるまい。又南師出身者の私共を輕蔑するの暴語でもない。私は、必らずやB校長の「衷心より發した信頼の言葉だ。」と信ずるさうしてそれが結局は、私共南師卒業生中の幾多の好樂諸兄が築いた見事な汗の結晶塔、いな、我が校の音樂諸先生

の大恩を偲ばせる眞句である。言はば我が校の榮譽なるものの標語であらう。世人の我が校に對する音樂的期待だと言はないで何と言はうか。嗚呼!!思ひ此處に到れば、私は唯喜びに堪へないのである。

本校創立十周年ニ當ツテ

大正十三年度本科 熊 財 星

本校開校以來茲二十周年ニ相當スルヲ以テ開校祝賀ノ記念式ガ舉行サレル由我々ノ喜ビハ之ニスギタルモノハアリマセン。開校以來十星霜トイフ長イ年月ノ間卒業生ヲ出スコト實ニ多數ニ上リ中ニハ花々シク教育界ノ爲ニ働イテキル人材モ少クアリマセン。ソシテ校舍ノ増築、諸般ノ設備一トシテ完全ナラザルハナク本島ニ於テモ立派ナ師範學校ノ一ニ數ヘラレテ居ル次第アリマス。然シナガラ開校當時ヲ回顧イタシマスト設備モ極メテ不完全デ校舍トイフ校舍モナク古跡デアアル赤塚樓ノ一部分ヲ假校舍トシ

ノ資トラ吝マズ臺南ニ師範學校設置ノ必要アルヲ認め、着々之ガ實現ニ勉メラレマシタ。本校ガカク立派ニ成立シタノモ決シテ偶然デハアリマセン。我々ハ諸先輩ノ功勞ヲ謝スルト共ニ、又之ニ酬イルダケノ大ナル責任アルコトヲモ亦自覺シタ次第デアリマス。聊カ思フトコロヲ述ベテ十周年祝賀ノ喜ビノ言葉トシマス。

思ひ出

大正十四年度本科 王 焜

私が憶がれの臺南師範學校へ入學したのは大正十年の四月であつた。溢るゝばかりの喜びを抑へて、頭に立派な校舍と寄宿舎を想像しながら、父に附添はれて入舎した時、全く意外な感に打たれた。寄宿舎は、赤塚樓下の平屋の建物が充てがはれてあつた。相當清潔にはされてゐたが、何となくむさくるしく、殊に寢室の陰氣さと云つたらなかつた。それでも開

ワヅカナ生徒ヲ收容シタ次第デ、本校ガ今日ノ完備ヲ得タノハ全ク諸先生並ニ先輩諸氏ノ熱心精勵ノ賜物デアリマス。抑、國家ノ隆運ハ教育ノ力ニ俟タナケレバナラスノハ今更申スマデモアリマセン。國富ハ充實シ兵力ハ整備シ文學美術ガ興ツテモ一般民衆ノ教育ニ缺ケテアルトコロガアツタナラバ富ト兵力ト學術ト文藝ト畢竟何事ヲカナシ得マセウ。教育ハ實ニ國運ノ基礎トナルモノデアリマス。コノ事完備シテ初メテ國モ富マスコトガデキ、兵モ強クスルコトガデキ、世界ニ獨立シテ國家ノ體面ヲ保ツコトガデキルノデアリマス。又教育ノ最モ重ンズルトコロハ、實ニ人格ノ養成デアリマス。國家社會ガ健全ナ發達ヲ遂ゲルニハ、偏ニソノ分子タル個人々々ノ人格ニ由ラナケレバナナリマセン。今ヤ我國ハ世界ニ對スル使命ヲ自覺シ、國民一齊ニ、日本帝國ノ特色ヲ發揚サセルコトニ努力シナケレバナナリマセン。當局ハ夙ニ深く此點ニ意ヲ注ギ、之ガタメニハ多大ノ勞ト巨萬

校當時はそれを教室として使はれたさうだ。翌日始業式に、二三十町も離れた學校へ出た。校舍は未だ新築中で、今の寄宿舎の第一棟と、第二棟の半分が、假校舍として使はれてゐた。敷地は、墓地を開いたばかりのもので、樹木は勿論、草さへ生えてゐない砂地であつた。通學の途中いつも夏の暑熱と冬の埃とに少からず苦しめられた。そこを私共は、庭の片端から二三尺も深く掘つては、棺木や人の骨等を見つけたり、附近の丘から芝を取つて來ては、植ゑつけたりしたものである。

翌年、本校舎が竣工したので教室をそこに移し、假校舍は愈々寄宿舎として使はれた。けれども生徒數が多かつたので、そこを第一寄宿舎とし、赤塚樓を第二寄宿舎として、尙ほ使ひ續けた。僕等は赤塚樓に留められて、その翌年に漸く、第一寄宿舎に移された。それからは樂であつた。今までの狭苦しい建物とは全く違つた廣い建物である。天井は高い、

壁は清い、見るだけで気がすがしくなる。一步自修室を歩み出すと、芝の生えてゐる廣い運動場である。本當に氣が伸びくした。私共は斯う云ふ氣

特のよい寄宿舎に、三箇年幸福を感じながら、起居したのである。五箇年の月日はやがて過ぎて、私共は大正十五年の三月に、あの懐しい學校と別れたのである。爾來二箇年有餘、私は學校の仕事に汲々として、殆んどあの懐しい校舎、寄宿舎を訪れた事はなし。しかし休憩時間によく四邊を展望した三階の廊下、夕食后によく歩いた農園、落付いて勉強の出來た自修時間、消燈後の熟睡の出來た靜肅さ等、今もつて夢に現はれるものは、凡べて母校寄宿舎の事物ばかりである。

兒童と共に歩く

大正十四年度講習科 古木國雄

「皆さんこちらの木の蔭でしばらく休みませう」

校庭の一隅に茂る相思樹の下に私を中心に女生徒數名が集る。

「あ、涼しい、先生こゝでもう一度遊戯させて下さう。」

女生徒一同手をたき乍ら先生踊つてもいいでせうとせがむ、半數は手拍子をとり乍ら「野の小鳥」を唄ふ、半數は歌に合せて踊る、暫く交代交代に遊戯が繰返される。私も一緒になつて踊つたり唄つたりする。

「さあ皆さん、もういい、こちらで汗を拭きませう。」

一同私をとり巻いて汗を拭き乍ら涼を入れる。

「先生何か面白いお話をして下さいませう。」

女生徒一同口々に先生お話しして下さいませう。

「ぢやお話して上げませう、皆さん向ふの八學級の前に咲いて居る赤い花は何んといふ花か知つてゐますか、さう佛桑花ですね、その左の方に咲いてゐる

る黄白い花は。さう孔雀草、よく知つてゐますね、それぢや校門の方に咲いてゐる紅い花は、コスモス、いやその右側にある花ですよ、知らないでせう、あれはマリヤと言ふですよ、何だか元氣がなささうです。今朝先生は學校に來るとき門のところであの元氣のないマリヤを見たのです、私は可哀想な氣がしたので一寸足をどめて、「マリヤさんどうかしたの」とききますと、マリヤは一層首を低く下げて涙をばろりと溢しました。「おや泣いてるの、どうしたつていふの、病氣ぢやない、それとも年をとつたので悲しくなつたの」と優しく尋ねますと、マリヤは首を横に振り乍らさも力のなささうな聲で私にかう言ひました。「先生私は病氣でも年をとつたのでもありません、私はもう三日程水を一滴も飲みませんので聲も出ないので、私の手や足はこのやうに萎れてしまひました。これからいくらでも綺麗な花を咲かせて御覽にいたいのですが今はもうそれとこ

ろではございませぬ。死ぬのを待つばかりです」と云ひ乍らまたマリヤは泣きました。これを聞いてゐたお隣の教材園の木達も一齊に口をそろへて「先生、私も咽が渴いてゐますどうぞ水を下さい」と云ひました。今度は向側の垣根の處から「先生、私は昨日亂暴な男生徒から押し倒されて、獨で立つてゐるこゝとが出来ません、どうぞ杖を一本貸して下さい」と云ふ聲がするので、それはあそこに見える未だ年の若い木瓜なのです、今度は農園の前の花園からは「私達は毎日草達に苛められて思ふやうに大きくなることが出来ませんどうぞ先生助けて下さい」と云ふのです。そこで私は大きな聲で校庭の草や木に向つて言ひました。「皆さん、私の優しい女生徒達が今に皆様のお願ひをきつと充分に叶へてくれるでせうから暫く我慢して居て下さい。」

私は花と生徒の顔を交々視た。一同は花園に向つ

開校滿十周年に當つて

昭和元年度講習科 蔡 天 風

てそれごとく馳出した、或る者はバケツを、或る者は
 鍬を、或る者は棒を持つて丹精に世話をして居る、
 私はこれを見て涙が出た。少女の純愛が植物にまで
 及びつゝある。さうだ來週の修身「博愛」のときに
 はこの氣持から學習を導いてゆかうと思つた。
 私はにこ／＼し乍ら彼女達の作業を見て歩いた。
 「〇〇さん草をとつて戴いて花が大變喜んでゐます
 ね、でも蒲團が固いと言つてゐますよ」と言ふと今
 度は土を耕す、〇〇さん水を澤山いたゞいてメリヤ
 が喜んでゐますね、でも一度に澤山戴くとお腹をこ
 はすつて言つてますよ毎日少しづゝ貴女からいたゞ
 きたいと言ひますね。」
 私は斯くして兒童の純情を育て乍ら彼等と共に歩
 いて居る。兒童と共に楽しい日を持つことの出来る
 私は幸福だと思つてゐる。

母校南師が南臺の天地に呱呱の聲をあげたのも早
 一昔となつた。その間制度の改正、校舎の新築等、
 幾變遷を経て今日の如く、名實共に本島教育界の重
 鎮となり、文化の寄與向上に貢獻する所極めて多く、
 理想的な學びの殿堂として、教育者の無二の修道院
 たるの觀あるは、全く現舊諸先生、諸職員の遠大な
 る計劃と、機宜を得たる經營によれるは勿論、亦こ
 ゝに學ぶ窓友諸彦の自覺と應援に、負ふ所あるは云
 ふまでもない。赤崁古跡の學窓は、轉じて小南門近
 い巍然たる三層樓となり、恰も旭日昇天の概がある。
 こゝに業を終へし者千に近く、正に胸みつゝある者
 亦三百五十餘名、然も内臺の差別は更になく、高砂
 族も机を共にして勉學に勤しみ、美しき學窓は人の
 和によつて、一層その光を放つてゐる。そこに口論

もなければ、争闘もない。唯自を磨き、他を勵まし、
 共に志した彼岸に到達する事に努めつゝある。唯未
 來の天職たる教育者の修行に餘念はなく、總ては聖
 者の祈りその儘である。斯くして短きは三年、長き
 も六年の學窓生活は過ぎて、同じ道を育英事業に辿
 り、吾も人も純眞にして、神に近い幼い子等を導く
 のである。文化の良き傳達者、眞人間への良き先達
 を以て自任せる彼等は、自己の充實に絶えざる努力
 を拂ひ、最善を盡して子等の個性發揮に努め、文化
 事業に參與し得るの素質を築くことに、日も足らな
 い有様である。名譽の慾に狩られる隙もなければ、
 財利の念に心を焦がすひまもない。只自己の生命的
 延長たる子等あるのみである。彼等の物質上に於け
 る生活は極めて貧弱であり、氣の毒にさへ見える。
 然しながら、それを和らげる精神上の甘酒に、陶醉
 することを忘れない。彼等は獨乙の某首相に云はれ
 る迄もなく、充分に自己職責の國家發展に及ばず影

響の眞に重大なるを知悉してゐる。そして忠實にそ
 の使命を果さんと努めてゐる。「最先に天國に入るも
 のは少年少女を導く人なり」との西哲の言は、我に
 於て檢討の要はなく、日夜子等を伴侶として、共に
 より完全な、より圓滿な眞人間に、一步々々進み寄
 ることあるのみである。

教へ子は伸びる

昭和元年度講習科 曾 銅 鍾

私等の教へ子は皆生ひ立つて行く。現に眞珠の光
 なく、寶玉の輝きはなくとも、彼には眞珠や寶玉よ
 りも尊むべく驚くべき生命と神の力が秘められてゐ
 る。我等が日夜常に敬と愛とをもち、根氣よく絶え
 ざる努力で培養し、彼等と人格的交渉を續ければ、將
 來には必ずや燎亂とした花が咲き揃ふに違ひない。
 教へ子が偉大な人物になり、又ならんとしつゝある
 處を視た時に、何人も苦は去つて樂が現はれるであ

らう。そこに於て初めて自己の存在の價値が認められ、慰安を見出し得るであらう。實に尊いかな育英事業、此れあるが故に、益々吾人の活路が開かれ、吾人をしてこれに精勵せしめるのである。然し、かゝる成果を見るには此の間、多大な努力と、堅忍不拔な精神とを要する。世の中の事は大抵困苦がなければ成功は出来ないもので、寧ろ悲劇があるために、益々吾人の人生美を豊富にするのである。艱難は神の命令により我等の上に置かれた峻嚴な教師である事を思ひ、それを甘受し、萬難を排して努力し、堅實な意志を持つて進めば、終には光明な世界に到達し得られるものである。理想の桃源郷に達する迄には神が勤勞と困難との門戸を置いて居る。尊徳翁の言に「天は萬物を生ずれども、人自ら勤勞して之を取り、之を作らざればその用をなさず。それ故に森林に方材なく、麻畑に織布なし。」といふ教訓がある。汗がなければ快はないもので、實に努力は偉大な力

である。吾等は剛健鞏固な意志と精神とをもち、以つて眞の人生の意義に目醒めなければならぬ。強き意志はあらゆる行爲に、命と力とを與へて之をして活躍せしめ、固き精神の力は、何物をも甲を脱してひれ伏せしめるものである。

「努力し、尙努力す、是れ人生なり。」

追 想

昭和二年度講習科 松本 曠

臺南城外綠滴る丘の上、朝には涼氣溢る、南國の微風をそよと受け、夕には燃ゆるが如き眞紅の陽を全身に浴びて澄切つた大氣の中に嚴として赤き體軀を横たへたるもの、これ我等の母校臺南師範學校である。眠れる如き沈黙の中南臺教育の大使命を受けて黙々として大いなる活動を續けて居る大なる希望と、重き責任を有する教師を育くむ事十年偉大なる體軀より生れ出でたる世の教育者實に幾百……

親の膝下を離れねば親の有難さは判らぬと聞いた。母校を離れてこゝに半歳母校懐しの情に蕪々と迫られるのである。赤煉瓦の校舍親しみの學寮を飛び出して今日此頃愉快なりし當時を回顧する時喜憂交々眼前に髣髴として限り無く追想の船に乗せられてゆらり〜と大洋に彷徨ひ出る心地がするのである。

斜陽に映えて鳳凰木の蔭ゆらぐ赤き校舎の三階より見たる淋れ行く鹽の町安平、點々として限り無く續く墓石の群、實に眺はつきぬ。萬物を超越したる心地して思はず快哉を叫ばせられるのである。大厦の階上で暑さを外に人の道を學び静かな自修室にしんみりと古人を友とするも又愉快である。廣々とした運動場にはランニングに巾跳び、圓盤空に飛び交ひ、槍空を馳する、實に若人の血肉は躍るのである。

かくして限り無く母校に有りし日の事を思ひ續く

る時、頭に浮んで来るのは愉快な事ばかりである。「愉快な事ばかりでは無かつた筈だが。」「いや私は努めて愉快な思ひ出に耽らう。愉快は我々に最大能率をあげしむる唯一の力だから臺東の山の中に飛込んだ若き同輩よ。澎湖の洋上に孤獨を憾む若き友よ。淋しさをかこつた。孤獨を憾むな。我々は努めて母校に有りし日の思ひ出を辿る事によつて愉快にならうではないか。」

初等教育界の初旅

昭和二年度講習科 朱 金 塗

去年の今頃は未だ母校で暖い夢を見てゐたが今は悶々としてゐる。實に私は情なくも今年、若葉萌えた頃に母校から巢立つて、到頭初等教育界に入つてしまつたのだ。此から此處を旅しなければならぬ。然し自分としてはまだ脚が弱くてこんな世界には暗い。どうしようかとまごついて仕方がないから思

ひ切つて歩いて見た。後には若々しい子供達が六十人許りついてゐる。どの顔も無邪氣さうではあるが目玉がぎよろ／＼して何となく落着きがない。口も開いてゐて氣がぬけてゐる。然し其の中には目玉のよく輝くものもあるがそれは珍らしい。よく／＼見れば十人十色である。それでも此等のものを一様に導いて野も山も海も越えようとするから困難であつた。それは彼等が二日三日と旅を続けるうちに疲れて来て落伍するからである。此時見兼ねて背負つてやらうと思つたら時間がゆるさない。彼等もそんなことを喜ばない。かへつてその姿を晦すと云ふ風で全く寒心してしまつた。さうかと思ふと或るものは眞面目によくついて来る。道の様子もよく呑み込んでくれるから面白い。こんな生徒許り揃へばと思つては彼の落伍者の身の上が案じられる。何とかして彼等を救ひたいものだ。斯う何時も思つてゐるが仲々よい考へが生まれて來ない。實に神はあまり自分

を小さくつくつたものではないかと考へずにはゐられなかつた。或は我が天分は他に存してゐるのかも知れないと思はれる事も一度や二度ではなかつた。然しこれは氣の迷ひかもしれない。勇を鼓して大に育英の道に精進しよう。

母校を出てから

昭和二年度演習科 莊 俊 元

舊都の郊外に聳ゆる三階の高樓を後にして校門を出たのは本年三月廿二日である。多大な理想と希望を抱いて社會人の一人としてのり出す事となつたのである。四月二日にいよ／＼人生の荒海へ出航した。これからは學校時代の様に安眠を貪る事は出来ないことと信ずる。先づ深刻に腦裏に閃いたのは責任の重大な事と學力の不充分な事とである。三四十名の天真爛漫な小兒を一手に引受けて、之に教育を施し人格の基礎を形づくと云ふことは難事であ

べく務めてゐる。未筆ながら母校のいよ／＼榮えゆくことを祈る。

五、在 校 生

拾周年を迎へて

演 一 鈴木 徹 夫

るとしみて、體驗し思はず襟を正したことが度々ある。殊に一校の指導者進んで社會教化の主腦者となるに於ては、どうして安閑として居られようか。在校中、先生方の講義してゐられる様子を見た時は「あんな事位は何んでもない」と口癖に云つたものだが實際教壇に立つて見てその困難をしみて覺えた。次ぎには實力充實のことであるが實際に體驗して學力の足りないことがしみて、感じられ顧みて在校中六ヶ年間の不勉強を悔いるばかりである。あゝもしたらよかつた、それも體驗しておけばよかつたと思ひ、々に感ずる。在學期限を伸ばしてくれたらと思ひ、只管樂しかつた母校の生活を羨むばかり。それで務めて生徒時代の氣分を保持しつゝ、研究し、實力補充に精を出してゐる。古人の云つた「温故而知新可爲師矣」は自分の座右の銘である。兎に角實社會は机上で想像してゐた通りには出來てゐないことを痛感しこれからだ覺悟を定めて、自分の天職を果す

時！之れは希望に輝いた光明の未來へ一瞬又一瞬と悠久に轉變しつゝ吾人を擴充し成長せしめて居る。十年前双葉であり萌芽であつた本校も、幾春秋を送り迎へて今や南部臺灣教育界に牢乎たる根を下し新生の青葉の下に幾多輝きある前途を持ち帝國の爲に至大な責任を持つ幼い者達に惠の雫を滴らす大本となり切つた。回顧すれば私等が入學したのは早五歳の昔である。當時は學校も未だ整備しては居なかつた。この校舍ですら新築してまだ半歳そこ／＼で三層の赤煉瓦は見るからに新生の意氣そのもの、象徴と示現かの様な感じはしたものの、何所となく

不足の點を感じられた。庭の木にしてもまだ植ゑ直して間がなく葉の無い榕樹や何やらが殺風景に突立つて居るばかりだつた講堂は出来たと云つても名ばかり、學寮さへやつと一棟半しか出来てゐなかつた。こんなわけだから運動場は成つて居らんし、コートも唯一つだけで、プール等は影もなかつた。今日三百米のトラック、一面の青疊の見るからに氣持の好い姿を見るにつけ、入學當時毎日午後鍛で運動場の整理に汗水流した姿がまぎ／＼と眼前に浮んで来る。

「あの時植ゑたのが此の芝生か」と思ふと感慨無量である。今では此の苦しみを共にした者は早私等のみとなつて仕舞つた。まだ一つ忘れ得ぬ大きな追憶がある。それは赤塚樓から未だ夜も明けきらぬ頃、戸の閉つた町を、空腹抱へて長蛇の列を整へて登校した事である。或時は膝頭迄も没する水中、沛然として盆を覆す夕立の中をたよりない外套を唯一の頼みとし、すぶぬれになつて登校し、一日中ふるへ

ながら授業を受けた事もあつた。今日の何不足ない完備した姿と想ひ合せると實に隔世の感がある。十周年を迎へた事を私は心から祝賀すると共に本校の爲に更に一段の光輝を添へるべく努力する事を誓ひたい。

拾周年記念に際しての感想

演 二 陳 崑 山

本校創立以來こゝに拾周年を迎へた。今でこそ設備に申し分はなく本島でも有数の學校とされて居るが、開校當時は貧弱であつたに違ひない。さうだ、確かに貧弱たつた。あの赤塚樓時代を追想して見よ。今はその一部を巡查教習所と女子公學校にあてられて昔と見違へるやうになつて居るが、あの昔自修室として寢室として使はれた室は今では廢れかゝつて居たり、取り拂はれて居たりして往時を思ひ起こさせるには餘りに殺風景であるが、唯あの高く聳えて

創立十周年を迎へて

普 五 謝 敬 忠

居る高樓と古びて居る井戸丈は、何となく昔の面影を映して居るやうに思はれる。唯之あるが故昔の情趣、先輩の生活状態を聊かでも汲み得るやうに感ぜられる。私等の先輩はそこで勉強して來られたのだ。而して今日の盛運の基を作つて下さつたのだ。汗の結晶を残して卒業されたのだ。今では堂々たる三階建の校舎、二階建の寄宿舎、それから講堂、續いて食堂が出来て私共は何不足なく、愉快な楽しい生活をして居るが、これも先輩のお蔭に外ならない。更に引き續いて音楽室、手工室、尙最近には娛樂機關として娛樂室庭園等までが増築されて、身體上の楽しみ精神上の楽しみが自由に得られるやうになつた。かやうに私等は先輩の方々より、遙に多く恵まれて居ることをつくづく感謝せねばならぬ。それにつけても益々修養して我が校の發展を祈らねばならぬ。

南部臺灣の教育界の泰斗たる我が學び舎、生れてこゝに十星霜を數へた。吾等はこれを喜び賀すると同時に反省自覺を促したいものである。顧りみれば孤々の聲を擧げた十年の昔、赤塚樓の假校舎で我等の先輩は學びの道にいそしんだのである。それから一日と生長した。そしてこの旭ヶ岡に燦として輝く三層の本館が建てられた。寄宿舎が整頓され廣潤平坦な運動場が開かれた。それから講堂を生み、音楽室を殖やし、手工教室、テニスコート、プール、角力場等とつぎつぎに増加した。最近は優美な涼氣自から湧く庭園が出来、武士道の精神を涵養する武道場も設備された。校庭の樹木は翠を競ひ、芝生は一面に茂つてゐる。全くよく整つてゐる。形式は全部完備して指一本の指し所もないやうになつた。さ

てその内容はどうかであらうか。

こゝに工場がある。その建築は完備し、その機械は精巧であつてよくそろつてゐるがさてそこに働く職工に熱心が足りなかつたり、或は技術が拙劣であつたり、はた又その使用原料が粗悪なものであつたりしたら決して立派な製品が出来よう筈はない。この中どれか一つが缺けても駄目である。よい職工が眞面目に働き、よい原料が使はれてこそその製品は萬人に使用せられて人類の文化に貢献することが出来るのではないか。

我が學び舎から幾多の教育者が飛び出して南部臺灣の教育界に働いてゐる。又未來永劫に幾多の教育者を出して教育界を振興しようとしてゐる。

我が學び舎は今や全く形を整へた。これは實に我が南部臺灣の爲にも御國の爲にも慶賀すべきことである。この喜びと共に吾等は層一層反省し自覺し、そして一段の努力を致して、この整つた外形に對し

て愧ぢないだけの内容を充實させて、本當に内外共に。南部臺灣教育界の模範たるやうにしたいものである。

創立十周年を迎へて

普 四 王 炳 煌

南國の夏は我等の心を快活にする。だが心あるものは單なる快感に耽らずに必ず前途に輝かしい希望をもつて豊富な收穫のある秋が来ることを期待して向上に全力をそゝるのである。こゝに我が校の創立十周年を祝ふことが出来る我等の喜びは何にたとへたらよいだらう。我等は聲をそろへて心から祝はう。そして靜かに考へてみると我が校十年の歴史は實に美しいものであつた。學校の設備は完全になつた。併し我等は果してそれに比例して大事な時間を有益に費やしてゐるだらうか。この疑ひは常に僕の心の中を去らないのである。果して各自が皆強い精神の

活動によつて生きてゐるか。本當に意義ある生活を

してゐるか。熱烈な意氣がもえてゐないではないか。活氣がないではないか。前途多望な青年としてそれでよいだらうか。安逸すぎるではないか。前途多望な青年はもつと精神的に強く生きなくてはならないか。はつきりと自分を知つて意義ある生活をせねばならないか。自分をはつきり知らんものが、自分に強い信念を持たぬものが將來教壇に立つて兒童の個性を正しく美しく守護し養育しあげる事が出来るだらうか。

自分を強く生かすこと、これは我等の生命に必要な糧であり、完全に豊富なものになる所以である。我等は聲をそろへてこの日を祝ふと共に、大に反省して各自の信じる所に進まなければならぬと思ふのである。

本校創立十周年所感

普 三 羅 溪 圳

光陰矢の如く、本校創立以來早くも十星霜を経て、ここに滿十周年の記念日を迎へる様になつた。本校は設立當時から旭日昇天の勢で進歩し、今や學校の諸機關の設備を始め、諸種の事業は完備し、千數百名の卒業生は南臺教育界の中堅として奮闘し、在校生はよく教育勸語の御趣旨を奉體して勉勵刻苦し、校名は臺灣島に普く響き渡つて居るのである。榮譽ある過去を顧み、將來を祝福するため、この十周年に當つて記念に大祝賀會を開くのは實に意義あることである。このいはれある記念日に當り、所感を少し述べよう。

今や世は二十世紀となり、優勝劣敗の時代となつた。國民は國家を形成する分子であつて、國の内外に對する要素である。若し國民が國民としての健全なる要素を缺き狂躁に陥り、輕卒となれば、國の損失は實に大きなものである。或る人が歐米諸國の民

情を言つた言葉に「英國民は狡であるが毅勇であり、米國民は悪賢いが醇厚であり、露國人は剛強であるが放肆である。其他伊、佛、獨、葡の各國の民情も各々瑜の中に瑕があり、疵の中に純がある有様である」とある。これは要するに國民性の涵養の十分不十分によるのである。新世界を發見した西人コロンブス、舊教の罪惡を掲げ、新教を唱へ、信教の自由を開いた獨人マルチンルーテル、朝鮮征伐を計つた我が西郷隆盛、強大な露國に策戦した伊藤博文等、若し國民性涵養が不足であつたら、どうして時に乗じて事をなし、今日のように盛大にする事が出来ようか。あゝ、國民性は實に涵養すべきである。涵養とは民智を啓發し、民徳を陶冶し、民力を發揚して優秀なる國民を養成する事であつて、我國の武士道は實によく之に適つたものである。

我等は初等教育に従事し、第二の國民を教養する重任に當るのである。國の盛衰興亡を双肩に擔ふわ

て行きたい。それならば如何にしたらそれが出来るか。元來此の臺南師範學校は教育者養成の爲に設けられたものである。あの天真爛漫な子供の教育を掌る者を養成する爲に造られた學校である。故に我々は其の主旨に副ふやう、誠篤、着實なる教育者とならなければならぬ。十周年記念式が舉行せらるる意義ある時に際し、私は一層其の感を深くし更に自分の天職を完うするやう十分に、修徳修學に意を用ひて、今までよりも一層努め、さうして立派な教育者となつて、社會に立ち、教育界に大に貢獻する所があれば、自己の名譽であるのは勿論、學校に對しても社會に對しても其の責を果したことになる、さういふ者が出るによつて我が臺南師範學校は永遠に輝くのである。故に我々は先づ此の榮譽ある十周年記念に際して、缺くる所なき教育者となるべき基礎を固むべく自覺せねばならぬ。

八〇
けであるから、この點に注意し、今から心を國民性の涵養に致し、師範教育の目的に副ふ様にしたいためのである。

創立十周年に際會して

普 二 竹田 一郎

人は風雨の苦難に鍛はれ、社會のわらい浪にもまれて後に、始めて光輝ある偉人傑士と人から仰がれるやうになるのである。數多くの名譽を擔ふ我が臺南師範學校も決して一朝一夕にしてこの名譽を得たのではなく、その過去に於て幾多の苦難を忍んでそれを得たのである。一體此の臺南師範學校は如何なる運命の下に生れたのだらう。そしてそれは如何なる過去を経て今日に及んだのだらう。幾多の困難に耐へあらゆる努力を重ねて、今日の盛運に到つたのである。故に我々はこの榮譽ある師範學校を、先輩に對して、後輩に對して、はづかしくないものにし

創立十周年を迎へて

普 一 宮川 弘

私達は此の學校へ入學して間がありません。しかしおめでたいことばかりに出合ひます。それは本校創立十周年の御祝いとそれから御大典と二つ重なつた事です。大きくなつて此の學校を卒業してから此の普通科第一學年を如何して忘れられませう。十周年祝賀の時には展覽會などもあるさうで手工の先生が私達に何か面白いものを作りなさいとおつしやいました。お祝ひの時はどんなに面白いことせう。かう考へて見ますと萬感胸に満ちてなにもかくことが出来ません。唯私の胸には十周年記念祝賀式の模様ばかりが想像されます。私達の學級では僕は飛行機を作る、いや僕は潜水艇だ、自動車だと大騒ぎです。その人達もやはり私と同じくうれしくてたまらないのだと思ひます。

私も何か作つて十周年の喜びをあらはさうと固く決心して居ます。

十周年記念感想

講 三 綿貫多助

こつちん／＼と石工の響が此の廣々とした旭ヶ岡の岳陵に響き渡つたのももう十年の昔となつた。大南門の東方に師範學校が出来るさうな。こんな噂が人々の口から言ひかはされてから既に十年を過ぎてしまつた。

くつきりと晴れ渡つた青空に七本の避雷針を聳やかした三層の校舎を眺めた時人々はきつと臺灣教育の前途を祝福したに違ひない。

それからもう一昔は去つた。人々はきつと有爲な教育者が毎年々々巢立つて、どう／＼十年の星霜が夢の様に消えて行つたことを思ひ出すであらう。外庭の榕樹も鳳凰木もすく／＼と延びて向上の意氣を

示して居る。

此等も何回も／＼枝を下されては鬱蒼として茂つて居るがきつと當時は小さい、小指大の苗木だつたに違ひない。今ではもう周圍一尺位のは何本もある。丁度學校の向上そのものの様に。まして大正十二年の皇太子殿下の行啓、昭和二年の朝香宮殿下の御成は光榮ある榮譽中の榮譽として忘るゝことのない歴史である。苦づいた校舎も黒ずんだ寮舎も今では、十年の昔を思ひ出させるに充分である。猶完備した諸設備、目ざましい競技の發達は如何にも十年の苦心と向上を物語る様に思はれる。

そよ吹く風も宛然校風の様な清らかさをもつて、創立の昔から今日まで心地よく吹き渡つてゐる。きつと／＼千年の後も變らぬであらう。

創立十周年に當つて

講 二 藤村喜久郎

南都の静かな郊外に高く輝く赤い三層の校舎！此れこそ南臺に覇を唱へる吾が南師校である。そして創立以來爰に十星霜を閲したのである。今や諸施設概ね成り、世に誇るに足る學舎となつたのであるが、過去を顧みれば幾變遷の跡が偲ばれるのである。創立當時の赤坂樓時代の學窓は、雨の漏る實に悲惨なものであつたといふことである。月日は流れ、世は變り、我が校も遂に今日見る堂々たる三層の校舎と替つた。往時の貧弱に比べて時代の趨勢とはいへ餘りの激變に驚かされる。荒れ果てた赤坂樓上に遊ぶとき、當時を偲び、低回顧望眞に涙なしには居られない。過去十年は誠に波瀾多き歴史であつた。今この三層の校舎を仰ぐ時言ひ知れない歡喜が沸いて來るのである。

私達が將來行く處には純眞そのまゝの……それは一點の虚偽も不正もない……天使の如き第二の國民があるのである。これを思ふ時眞に我々の責

任が如何に重大であるかといふ事に戦かざるを得ない。第二の國民の師……初等教育者……何と尊い天職であらうか。この尊い使命を遂行せねば止まないといふ決意が我々には最も必要である。國家發展の基も結局は初等教育にあると思ふ、我等の責務眞に崇高偉大と言はねばならない。

今や教育は津々浦々に至る迄普及はしてゐるものゝ現狀に満足しては居られない。世の進歩につれて研究改善を要する點は益々多くなることであらう。

研鑽多年そして洋々たる教育界に門出する勇士を送ること六度、四百の健兒はこの歴史ある教育の殿堂に在つて、大使命の抱負に向つて智徳の修養に心身の鍛鍊に飽くなき奮闘を續けてゐる。

この大使命に身を捧ぐるこそ眞に我等の名譽であり本懐である。此に創立十周年を迎へると共に我等の意氣は益々旺盛である。是れ正しく大抱負を完成するの第一歩であると信じる。

十周年記念に際して

講 一 豊見山昌泰

南臺灣の碧空に巍然として聳える三層の建物、これこそ我等が愛する母校である。見よ！曉陽に映えるその英姿を、勇躍高跳せずには居られぬ快感の、満々として胸奥に漲るを覚えるであらう。更に見よ！眞紅に燃ゆる落陽に浮ぶその雄姿を、そこに我等は灼熱せる理想への奮進を見出すであらう。花は常春に笑ひ、小鳥は限り無き平和を謳ふ。樹々は緑に萌え、希望に顫ふ。ここに集へる四百の健兒、それはうるはしい友情によつて結ばれたる小社會を成してゐる。地上の樂園！然り、これこそ眞に地上の樂園である。

見よ我等は青春に輝き、平和を高調し、希望に燃えてゐる。そして純にして眞、清淨にして無垢なる健兒である。我等の抱負を問ふ者あらんか、我等は

八四

言下に答へるであらう。曰く「國民教育」曰く「思想善導」と、右手に「國民教育」をかざし左手に「思想善導」を打ち振つて混濁の流れに進まんとする意氣こそ、我等の生命であり、武器である。そしてこの意氣こそ開校當初より綿々として傳はり、滾々として流るべき、我が校の生命であり、誇である。南府城南の地に據つて茲に十年、内容の充實は外觀の美と相俟つて、南部臺灣はおろか、全島中等學校中に於て、郡鷄中に下り立つた白鳥の如き觀ある、又宜なるかなである。

十年の歴史は輝いてゐる。それは先輩の苦心であり、我等の努力である。然しながら我等は徒らに現在の地位に酔ひ、歴史に誇つてゐる場合ではない。我等は我等の歴史の頁に更に一層の色彩を加へねばならぬ。刮目せよ現今の世相を、教育界頹廢の聲を聞かざるか、流れて已まざる悪思想の滔々として侵入せるを知らざるか、然してこの悪思想に酔ひしれ

たる衆愚の如何に多く、且つ多くなりつつあるかを知らざるか、起たざるべからず。起たざるべからず。頹廢せる教育界淨化のために、將又悪思想驅逐のため、そしてそれは我等の誇りであり又當然の責務である。

お、城南健兒の血は紅い。そして柔かい心の底には何物をも焼きつくさねば己まない一途理想への意氣が潜んでゐる。我等は我等の頭上高く輝ける二大標旗をして、眞に意義あらしめねばならない。我等の意氣で、青春の意氣で。斯くして十年の歴史は更に一層の光輝を加へて永遠に燦として輝くであらう。

記念品贈呈諸氏略歴

金成(茂生)書記 福島の人にして大正七年八月本校創立と同時に本校書記を拜命、以來今日に及べり。此の間建築、經營、施設等學校の經始に當り、事大小と無く參畫せざるものなく、特に事務に精通し、圓熟練達せる手腕と不斷の努力とを以て事に當り上司を援け同僚と和し所謂十年一日の如くに勤務されつゝあり。先年勳八等從七位に叙せらる。

陳(堯皆)囑託 當市寶町に生れ少にして習字漢文を修めらる。その揮毫の神妙たること歐趙に比し、常に郷黨に重んぜらる。大正七年十月本校の習字教官として聘せらる。十年一日も缺かさず精勤せられたり。今や齡杖郷に達すれども身神猶矍鑠として壯者と伍し、莘々として教務に盡されつゝあり。

井田(博)囑託 熊本縣の士族、臺南醫院の醫官にし

て徳望手腕夙に著る。大正七年九月以來衛生に關する事務を囑託せられ常に衛生の施設改善に盡力せらる。叮嚀溫顔を以て患病者を診察されその功實に大なるものあり。

蔡(茂己)雇 當市開山町の人、大正七年九月給仕として本校に勤められその後雇に昇進爾來理化科の助手として同科の發達に貢獻する所抄しとせず。

名簿

現在職員
卒業生修了生

記念品贈呈諸氏略歴

金成(茂生)書記 福島の人にして大正七年八月本校創立と同時に本校書記を拜命、以來今日に及べり。此の間建築、經營、施設等學校の經始に當り、事大小と無く参畫せざるものなく、特に事務に精通し、固熟練達せる手腕と不斷の努力とを以て事に當り上司を援け同僚と和し所謂十年一日の如くに勤務されつゝあり。先年勲八等從七位に叙せらる。

陳(堯皆)囑託 當市寶町に生れ少にして習字漢文を修めらる。その揮毫の神妙たること歐趙に比し、常に郷黨に重んぜらる。大正七年十月本校の習字教官として聘せらる。十年一日も缺かさず精勤せられたり。今や齡杖郷に達すれども身神猶矍鑠として壯者と伍し、孳々として教務に盡されつゝあり。

井田(博)囑託 熊本縣の士族、臺南醫院の醫官にし

て徳望手腕夙に著る。大正七年九月以來衛生に關する事務を囑託せられ常に衛生の施設改善に盡力せらる。可憐温顔を以て患病者を診察されその功實に大なるものあり。

蔡(茂仁)雇 當市開山町の人、大正七年九月給仕として本校に勤められその後雇に昇進爾來理化科の助手として同科の發達に貢獻する所尠しとせず。

名簿

現在職員
舊職員
卒業生修了生

教務囑託

同 同 同 同
衛生事務囑託

附屬公學校

主事
訓導兼教諭
訓導
同 同 同 同 同 同 同 同

木村秀男	瀨戸口武俊	李福如	陳堯皆	藤島見了	井田博	西卷南平	上原宗五郎	高山勝治	河野道彦	橋口正	上田四郎	倉田俊男	山口尙隆	永越信治
同	同	同	同	手工助手	農業助手	同	同	同	同	同	同	同	同	同

藤末四郎	蔡戊己	王雨卿	河內山積	陳水坑	李炳南	梁永齡	吳羅傳	王金泉	永岡一馬	轟武	黃木邑	張宗岳	成富德治	佐々木秋造
------	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	------	----	-----	-----	------	-------

同 同 同 同

高田巖二	白石岩太	入村ヨシエ	荒井信雄
------	------	-------	------

同
教務囑託
衛生事務囑託

後藤春治	張氏淑媛	吳森玉
------	------	-----

舊職員

一、數字ハ在職年月ヲ示ス
×印ハ死亡ヲ示ス

大阪高等學校長	限本繁吉	警視廳巡查	花房良雄
福岡縣鞍手郡宮田員	中野延輔	臺中高女教諭	廣川守一
島嶼業會社附小	池戸公夫	佐賀師範教諭	松本武男
本校教諭	胡丙申	新竹州四湖公校長	重永佐市
長崎縣平戸高女	中山米藏	山口縣郡津郡米川	穎川定介
臺北二師教諭	藤谷芳太郎	村役場收入役	山本宗一
臺北一師教諭	西山清澄	臺北一師校長	志保田銈吉
臺北二師教諭	伊原末吉	東京府下立川町府立	島崎清作
臺北一師書記	佐田逸馬	第二中教諭	牧田貞雄
	松本慈恩	兵庫縣姫路高女	林茂生
		臺南高商教授	大岩榮吾
		臺中師範校長	

七七一八四	九三二二四	九三二二四	九三二二四
七七一八六	八四二二四	八四二二四	八四二二四
八五一九一	〇五二二四	〇五二二四	〇五二二四
七八一七	〇五二二四	〇五二二四	〇五二二四
八四一九二	二〇三二二	二〇三二二	二〇三二二
八五一〇三	七八一二五	七八一二五	七八一二五
七九一九五	七七一二六	七七一二六	七七一二六
七〇二〇九	二〇四二八	二〇四二八	二〇四二八
九三二〇〇	八五一二〇	八五一二〇	八五一二〇
八五一〇一	七八一三三	七八一三三	七八一三三
八五一二四	九六一三四	九六一三四	九六一三四

臺北二中教諭	10,913,14	教務囑託	小田 賴二
宮崎師範教諭	9,211,13	教諭	川村 伊作
臺中師範教諭	10,413,14	同	河野作之丞
臺南市醫業開業	3,313,15	衛生事務囑託	千葉才治
愛媛縣松山中學教諭	9,413,17	教諭	花田 勘七
福井縣大野中學教諭	2,513,19	教諭	虎尾文平
嘉義女子公訓導	10,613,11	訓導兼教務	小谷 繁造
臺北二中教諭	3,313,13	教諭	藤本 淨利
嘉義中學教諭	3,813,15	教務囑託	岡田 正夫
基隆高女校長	10,713,15	教諭	岡田 正夫
同 校教諭	10,413,18	訓導兼教諭	陳 棟
千葉女子師範	7,714,13	教諭	那須亮一郎
香川縣三豐郡二宮村羽方八六	1,314,13	同	西村 忠雄
			江 副 清
			近藤 廉三
			別府 重登
			大井 全平
			渡邊壽喜治

臺南私立長老教中學	8,514,13	教諭	松岡 鋼一郎
高雄州萬巒公訓導	10,413,19	教諭	謝 才 郎
靜岡縣濱松市	10,514,14	教諭	中村鹿之助
大分縣大分郡明治村	7,314,14	同	安部 勝美
京大講師	9,414,14	教務囑託	吳 鏡 秋
橫濱市西戶部町	10,915,13	同	洪 和
九大法文學部學生	2,415,13	同	牧 茂市 郎
宮城縣加美農業學校	10,515,13	同	半田 精一
基隆高女教諭	9,415,13	同	三 戶 雄一
和歌山市私立修德高女	1,315,14	同	角 田 音吉
大分縣宇佐郡津房村	10,515,14	同	三 屋 秋 策
和歌山第三十二旅團司令部	5,415,13	配屬將校	吉 田 濱 吉
專賣局安平分室	2,615,13	書記	白 杵 信 念
臺南二中校長	11,015,14	教諭	谷 田 實
臺南州關仔嶺利用組	9,415,18	同	高 山 賴 母
合書記			小 形 留 吉
			沈 成

臺北地方法院判官	2,417,17	教務囑託	古賀 岩藏
臺南二中教諭	10,411,10	教諭	深井米次郎
東京市白金三光町三二八	7,215,13	教諭	南 能 衛
臺南州斗南公校長	1,413,13	教諭	伊與部仙松
臺中師範教諭	3,313,13	同	藤 井 義 種
嘉義中學教諭	1,413,13	同	池 田 文 一

附屬公學校

臺北州羅東公訓	10,410,15	教諭	齋 田 悟
福清縣浮葉郡山椿小學校長	10,410,19	同	山 口 正 治
臺南州柳營庄助役	10,411,13	同	陳 庚 金
大阪朝日記者	10,411,14	訓導	藤 田 長 一
東洋大學在學	11,311,10	同	坂 中 茂 次
高雄高女教諭	3,311,13	同	野 中 松 平
靜岡縣	3,414,18	同	大 井 悅
東洋大學在學	2,315,13	同	川 邊 榮 藏
臺中師範教諭	10,415,16	同	水 野 周 藏

佐賀市神野小	10,913,14	同	井 手 庫 夫
臺南地方法院判官	2,913,18	教務囑託	高 橋 服 膺
臺南二中	3,101,18	教諭	中 戶 和 一
高雄高女	3,313,18	同	島 田 清 安
新竹高女教諭	1,313,19	同	高 九 靈 教

長野市盲啞學校	10,415,10	同	西 原 正 則
曾文郡視學	10,613,13	同	鹽 田 政 夫
東洋大學在學	3,313,13	同	長 澤 英 逸
同	2,313,13	同	早 川 益 道
臺北市老松公訓	1,412,10	同	辻 武 夫
臺南市大宮町二ノ四	4,313,12	同	黃 氏 月
新竹街第一公訓	1,413,12	同	田 村 德 一 郎
東京高等音樂院在學	2,413,13	同	李 志 傳
屏東郡視學	10,413,13	同	山 崎 敏 二

臺南市清水町二ノ五 〇四一三四 同 張媽成
臺中師範附屬公訓 〇五二二三 同 岩田嘉一

臺南市開山町二ノ七三三 〇一六八 同 梶原むつ
1071110 同 X野澤混

卒業及修了者

本科大正十一年三月卒業(七四名)

澎湖廳赤崁吉貝分
臺南市賢公
澎湖廳湖西第二公
內地留學
臺中州石岡公
臺中州軍功公
本校附屬公
臺南市高砂町商業
新竹州死裡公
臺中州東山公
同 好修公
同 霧峯公

新竹州溪隆公
東京留學(東洋大學)
臺南市大正町運送業
臺中州梧棲公
臺南州古坑庄長
高雄州萬巒公
臺南州茄拔公
同 六脚公
臺南市末廣公
臺南州新化公
同 新巷公
同 羅山信用組合
臺中州內埔公

張伯信 標
黃火炎 性
王忍春 善
吳桂春 池
黃魁善 樹
林清池 揚
林陽樹 本
郭孟揚 山
林秋楓 達
張東山 魏
林東本

高雄州五溝水公
同 里港公
新竹州中歷
臺南市水樂町
臺南州安順鹽田分
高等音樂學院
高雄州恒春
臺南州義竹公
同 嘉義第二公
同 崁頭厝公
新竹州
臺中州岸裡公
同 皮子寮公
臺中州大城公
東京留學
高雄州美濃公

劉安生 X陳文掌
楊增春 劉繩武
黃紅毛 吳木榮
李志傳 林二郎
林溪浚 林乾德
吳乾德 張清河
張清河 林錦龍
呂春生 張七章
劉崧七 魏崧七
鍾喜江

臺南州麻豆寮公
同 南安公
臺中州鹿港第一公
臺南州林內公
新竹街東門
臺南州佳里公
高雄州鳳山郡大寮
同 岡山公
臺南州番社公
同 大灣公
本校附屬公
臺中州和美公
臺南州官田公
臺中州社頭公
臺南州南安公
臺中州彰化女子公

王寶宗 X賴黃苑
吳瑞乾 丁家盛
邱家水 林金水
甘紅水 甘簡朝
張簡朝 高知法
洪知法 林春海
張宗岳 謝其彬
郭進燦 郭進燦
陳振英 游振英
陳燾森 陳燾森
火燾森

東京留學
高雄州新園公
新竹州
臺南州新市公
臺中州鹿港第二公
高雄州佳冬公
澎湖廳後寮公
臺南州太子廟公
臺中州
同 馬興公
臺南州新巷公
同 市末廣公
臺中州管嶼厝公
臺南州斗六女子公
花蓮港廳馬太鞍公

本科大正十二年三月卒業(六九名)

辜炳衡 潘澎湖 陳子章 黃碧玉 朱維仁 張其德 陳雙錫 謝錫地 賴崑濤 關炳輝 鄭炭盛 柯炭烈 許崑山 周抄山 石再興

臺南州朴子篤真業
同 安定公
臺南州海豐厝公
同 小梅大坪分
高雄州東港公
臺南州柳營庄會計役
同 關廟龜桐分
同 仁德庄商業
高雄州車城五一
臺南州四湖公
同 安樂公
同 青寮米商
高雄州東港公
同 內門第一公
臺南州西螺
臺南市實公
高雄州恒春第二公

林瑞棟 王清通 吳新民 蔡金水 許敏樹 方道樹 林凱道 林萬祥 陳鏞聲 李石寬 黃三卯 陳清周 詹耀垣 曾耀三 劉貴郎

臺南州鹿草公
高雄州湖內第三公
臺南州永康三峽店分
同 斗六公
臺南市清水町家事
臺南州崁頭厝公
同 媽祖公
同 西螺街會計役
高雄州屏東公
臺南州嘉義第一公
同 新化農補助教

陳金鐘 葉昭彬 楊德機 曾伯重 陳壬癸 李維俊 李清瑟 廖東義 蕭大鼻 張守良 郭良恩 郭良恩 X王金昆 X陸伯倫 張永彰 蔡永順 吳元參 蕭贈禮

臺南州六脚公
同 安溪寮公
高雄州高雄第三公
同 岡山商業
臺南州後壁庄會計役
高雄州彌陀第一公
臺南州茅港尾公
高雄州枋寮
高雄州內埔第一公
臺南州善化公
東京留學
臺南市白金町葉子蘭
臺南州朴子公
澎湖廳馬公第二風櫃尾分
高雄州旗山第一公
同 美濃
高雄州佳冬公

呂直揆 林善直 顏善通 劉明通 徐清現 黃清味 陳奇階 陳慶春 黃阿坤 鄭金宗 洪調水 李永鐘 蔡柏松 莊柏東 陳章保 鍾兆福 賴整宥

臺南州樹子脚公

同 果毅後公

同 斗南公

臺南市實公

臺南州茅港屋公

同 朴子公

同 斗六

臺南州六甲公

同 斗六公

同 斗六

臺南州西螺女子公

臺南市鹽務支館

東京留學

臺南州恒梧公

臺南州明治公

臺灣製糖橋子頭工場

臺南州學甲宅子港分

臺南州安定公

同 學甲公

同 番社庄大客家事

臺中州埔里公

臺南州斗六公

同 學甲公

同 小梅公

臺中州土城公

臺南州媽祖廟公

同 嘉義

高雄州恒春第一公

臺南州塏子內公

同 歸仁公

同 炭頭厝公

莊海川

× 盧林

林煥文

陳炎在

邵阿山

謝阿當

魏五福

倪旭洪

顏慶鐘

黃生財

曾進勇

廖學而

許天壽

范洪甲

廖承堯

陳源泉

王山猪

莊海川

鄭淵

莊阿漢

關東慶

陳阿慶

張東慶

李添根

江德根

曾汝根

吳松根

蕭振根

陳有根

蘇光根

張光根

劉德煌

高雄州屏東女子公
臺南州新化公
同 番社公
高雄州林邊公
臺南州安順公
同 歸仁公
同 溝子堤公
臺中州東埔納公
臺南州南安公
高雄州高雄第二公
臺南市實公
高雄州溪州公
臺南州水寧公
同 中埔公
同 龍崎中坑子分
同 安業公
高雄州里港公

蘇加泰 林榮波 邱龍波 陳阿己 曾才德 吳順成 陳見通 吳文發 吳春發 陳媽諒 孫媽諒 張福原 王茂發 蔡登木 高登木 李萬壽 王萬發 丁銀壽

澎湖廳湖西第二公
臺南州番社庄家事
高雄州屏東海豐分
臺東廳成廣灣
臺南州水上公
高雄州
臺中州霧峰公
臺南州玉井公
臺南市安平公
高雄州六龜公
臺中州竹山
臺南州漚汪公
同 關廟公
東京留學
高雄州炭頂公
東京留學

× 柯林 洪生金 林泉景 溫宴清 陳再貴 陳銓生 吳啓泉 陳春增 陳朝慶 黃添成 陳朝選 楊景紅 吳文祥 羅唯中 吳大松

臺南市大宮町商業
 臺南州月眉公
 高雄州仁武公
 同 枋寮農業
 臺南州後營公
 高雄州鹽埔公
 東京留學
 臺南市港町家事
 臺南州北港商會
 同 青寮米商
 臺南州大內頭社分
 同 牛挑灣東溪寮分
 同 白河庄海豐厝家事
 高雄州美濃公
 高雄市第二前鎮分
 臺南州斗六
 同 仁德公

施明端
 郭東川
 郭登貴
 陳再生
 郭漢榮
 謝國模
 王國成
 陳壯品
 蔡端成
 黃水池
 楊榮志
 翁建忠
 張玉雲
 王炎
 陳火
 林柏
 曾清溪

高雄州大寮公
 同 高樹公
 同 萬丹公
 臺南州虎尾惠來厝分
 同 新營公
 同 麻豆公
 同 義竹公
 同 菜公店公
 同 官田公
 同 官田番子渡頭分
 同 白河公
 高雄州高樹公
 臺南州大內公
 同 小脚腿公
 臺南州新庄公
 臺南州官田庄拔子林農業

張簡德瑞
 ×何大
 曾義興
 李寬看
 陳奇旺
 林振欽
 王天養
 張泗水
 黃茂興
 郭榮陣
 郭書清
 劉家聲
 陳進通
 黃金獅
 陳蒼經
 簡蒼祥
 賴成全

同 鹽水公
 同 崙背公
 臺中州龍眼林公
 同 竹山
 臺南州麻豆公
 同 頂溪洲公
 高雄州美濃公
 臺南州二崙公
 同 玉井公
 同 鹿麻產公
 臺南市臺灣輕鐵書記

康甘樹
 吳慶秋
 蕭啓東
 陳炳信
 鄭炳三
 陳益善
 宋彩清
 陳祥山
 張春貴
 周春泉
 黃森源

同 水虞厝公
 同 太保家事
 同 茄拔公
 同 龍崎中坑子分
 高雄州內門第一公
 臺南州柳營公
 同 斗六公
 同 大灣公
 同 西港公
 同 斗六公
 高雄州屏東公
 臺南州水虞厝公
 同 山上公
 牛挑灣公
 臺中州南投公
 臺南州溪口公
 同 太保公

本科大正十四年四月卒業(九三名)

呂水田
 吳萬鐘
 陳連鴻
 ポラギヤン

洪炎騰
 王長烈
 李知己
 黃丁元
 潘萬蕃
 陳大溪
 沈健章
 林錦雲
 劉銀騫
 劉新合
 劉添丁
 張添丁
 蔡文殷
 林文里
 黃慶里
 洪錦源
 陳崑福
 傅仙木

同 溪邊厝公
 同 虎尾惠來厝分
 高雄州九塊公
 臺中州埔里公
 高雄州楠梓第一公
 東京留學
 高雄州岡山商業
 東京留學
 臺南州嘉義
 同 柳營公
 同 鹿寮公
 同 六甲庄中社商業
 臺中州埔里社
 同 鹿谷公
 臺中州草屯公
 臺南州三崁店公
 同 嘉義第二公

區石麟 同 大山脚公
 陳同慶 同 六甲王爺宮分
 柳來傳 同 頂溪洲公
 陳長章 同 小梅公
 陸雲皆 高雄州新埤公
 洪炳融 同
 許清心 同 美濃公
 方振章 臺中州南投公
 黃啓明 臺南州仁德公
 吳慶寅 臺南市寶公
 朱牛港 高雄州美濃公
 黃水五 臺南州油車公
 陳文質 同 漚汪山子脚公
 張錫悌 高雄州新埤公
 洪江龍 同 潮州公
 陳江龍 臺南州海豐厝公
 吳文財 同 土庫

柯文海 胡文塗
 郭文質 黃清寬
 張啓水 余庚祥
 黃同來 張錫顯
 張錫顯 林錦桃
 陳亦爵 吳玉均
 劉煥山 林金榮
 吳煥山 吳金榮
 林煥山 吳金榮

高雄州美濃公
 臺南州善化公
 臺中州集集
 臺南市寶公
 高雄州湖內第二公
 臺南州朴子公
 同 左鎮公
 同 麻豆公
 同 內角公
 澎湖廳湖西第一隘門分
 臺南州六甲林鳳營分
 同 新市公
 同 大林公
 同 安順公
 高雄州湖內
 高雄州佳佐公
 同 路竹公

許江龍 同 長興公
 林枝全 同 枋寮公
 陳萬全 同 東港公
 楊藏德 同 潮州公
 史臨福 臺南州背背貓兒子分
 施金城 同 安順公
 王水池 臺南州鐵線橋公
 林昆池 高雄州第二公
 楊國治 同 社皮公
 洪文周 同 潮州公
 郭恩漳 臺南州安順媽祖宮分
 李瑞琳 同 西螺
 柯石頭 高雄州岡山公
 蘇連益 臺南州調停課
 林明舜 高雄州岡山公
 熊財星 同 忠心崙
 陳中連 臺中州南投公

邱壬生 江金泉
 蘇貴春 曾振芳
 吳振芳 陳底底
 姚伯麟 姚伯麟
 孫登貴 孫登貴
 林鐘如 林鐘如
 張老彬 張老彬
 楊老水 楊老水
 廖大貴 廖大貴
 王福荳 王福荳
 孫象甫 孫象甫
 蕭海浦 蕭海浦
 利煥水 利煥水
 簡坤水 簡坤水

高雄州湖內第一公
臺南州斗六
同 大屯子公
同 新巷家事

本科大正十四年五月卒業(二名)

高雄州屏東公
臺南州義竹公

楊財貴
葉叔瑀
洪茂茹
周肇璋

同 斗南公
同 永寧公
同 大林公
同 西螺公
臺南市明治公
高雄州鹽埔公
臺南州牛挑灣東後寮分
同 嘉義第一公
同 馬公厝

本科大正十五年三月卒業(一六七名)

臺南州大埤公
同 虎尾公
同 東勢厝公
同 北港公
臺南州二重溪公
同 水上公
同 嘉義第二公

郭田
關文居
黃江水和
賴瑞和
張局難
陳耀祺
林朝宗

高雄州林園公(休職中)
臺南州嘉義第一公
同 南北公
同 飛沙公
同 崙背公
高雄州楠梓第二公
臺南州六脚
臺南州虎尾公

陳適其
包海源
紀連富
陳徐泉
郭明堂
張進添
丁振發
王漢焜
龔石笋
洪石笋
鄭竹茂
江清風
莊朝基
郭松壽
謝先居
陳楚錫
廖錫

同 義竹公
臺中州鹿谷公
高雄州路竹公
同 車城公
臺南州元長公
高雄州萬丹公
同 溪州公
同 枋寮公
臺南州樹子脚公
同 安溪寮公
高雄州林邊公
臺南州青寮
高雄州彌陀第二公
臺南州埔姜崙公
臺南市寶公
同 學甲公
高雄州左營第二公

顏登高
黃仲圖
王媽福
董清財
陳倉松
李允武
曹德勝
董館樹
陳新友
洪新福
林戊己
莊清標
謝金生
林友註
石友益
劉銓鐘
曾夢蘭

臺南州玉井公
同 義竹公
高雄州潮州公
臺南州斗六公
高雄州左營第一公
臺南州朴子公
同 溪口公
同 番社公
高雄州楠梓第二公
臺南州六甲公
同 鹿麻產內埔子分
臺南州土庫公
同 下營公
同 鹽水公
同 牛挑公
同 虎尾公

楊振山
丁春田
王登科
張崑山
王海淙
洪添丁
王參國
江德國
陳永聯
林瑞成
洪瑞慶
黃三喜
張同木
陳大坤
吳慶壬
陳昂銘

同 番子寮公
同 口湖公
同 安溪寮公
同 崙背貓兒千分
同 永寧庄大甲
高雄州社皮公(休職中)
臺南州西港公
同 大埤舊庄分
高雄州屏東公
臺南州中洲公
同 太子廟公
同 新市公
同 嘉義第二公
同 番子厝公
高雄州田寮公
臺南州鹿草公

高 明 德
王 盡 賴
林 松 陳
黃 添 成
郭 紹 彬
朱 順 瓦
曾 澎 湖
林 老 福
謝 祿
戴 大 澤
林 書 勝
張 旭 昇
楊 德 勝
陳 安 亨
蔡 律 襟
周 長 清
蔡 長 清

澎湖廟小池角
臺南州水林公
同 嘉義第一公
高雄州仁武公
同 鳳山公
同 楠梓第二公
臺南州大林公
同 朴子公
同 麻豆公
同 大山脚公
高雄州枋寮北旗尾分
臺南州中埔公
同 海豐厝公
同 下鯤鯓公
同 安定公
高雄州恒春第一公
臺南州南化北寮分

黃 清 水
紀 毓 章
李 水 章
江 萬 盛
周 萬 歷
凌 朝 匹
黃 朝 海
方 水 茂
李 文 波
陳 大 水
林 延 順
張 清 涼
張 四 教
鄭 順 發
黃 江 木
吳 豐 讚
許 秋 風

同 鹿草後堀分
同 鹿麻產公
同 朴子公
同 楠栖公
同 鹿麻產公
同 中埔頂六分
高雄州高雄第一公
臺南州西螺女子公
同 朴子公
同 九股公
同 內寮公
高雄州大樹公
臺南州中洲公(新豐郡)
高雄州鳳山公
臺南州竹崎公
同 崙背公
高雄州屏東公

陳 萬 撰
薛 秋 炎
吳 秋 煌
莊 振 恒
楊 連 南
張 連 居
鍾 泉 源
廖 裕 潛
侯 啓 順
王 丁 福
吳 仁 義
陳 戊 川
陳 萬 萬
黃 萬 福
廖 金 獅
林 龍 輝

同 大林埔公
臺南州山上公
高雄州里港公
臺南州大埤
臺南州荊桐
臺南州溪邊厝公
同 義竹公
同 新化公
同 西螺公
高雄州屏東公
同
臺南州溪口公
高雄州高雄第二公
臺南州民雄公
高雄州鳳山公
臺南州月眉潭公

蔡 清 發
林 開 蒼
黃 雨 蒼
黃 新 益
林 萬 物
蔡 萬 物
呂 兩 實
梁 其 揚
吳 飄 香
黃 皮 化
林 仙 化
郭 茂 己
陳 瑞 森
劉 新 祿
周 泰 山
郭 朝 瑞

澎湖廳馬公第一公
高雄州車城公
臺南州元長公
高雄州路竹公
臺南州西螺公
臺南市港公
臺南州石龜溪公
同 東石公
同 佳里公
高雄州路竹公
臺南州月眉潭公
同 大山脚公
同 海口公
高雄州大寮公
臺南州楠西公
同 後壁公
同 太保公

曾振家聲
林榮祥
蔡然捷
蘇振明
蕭繼明
陳玉淇
沈慶章
康啓盛
黃長源
吳顯源
林但顯
林呼聖
張德呼
胡清浪
陳清簡
黃上闖

同 鹽水公
同 斗南新街分
同 七十二分公
同 牛挑灣後寮分
同 東勢厝公
同 青寮公
高雄州左營第二公
澎湖廳馬公第一公
高雄州杉林公
臺南州過溝公
同 大埤公
高雄州枋寮公
同 車城公
臺南州玉井公
高雄州楓港公
臺南州新市公
高雄州崁頂公

陳添才
沈順安
李廷燕
黃水龍
許村柒
莊俊元
林大春
郭景容
周全和
黃李玉麟
張生財
李朝隆
李福水
蔡麗朝
王明朝
許添壽
李南國

同 枋寮公
臺南州嘉義女子公
高雄州楠梓第二公
臺南州土庫公
同 麥寮公
同 中埔公
同 崙背公
同 水林公
同 新營公
同 埔姜崙公
臺南市末廣公
臺南州六脚公
高雄市高雄第三公
高雄州阿蓮公
臺中州鹿谷公
高雄州旗山第一公
臺南州土庫公

梁丁枝
許水永
許清輝
鄭耀坤
高餘振
洪恭乾
王瑞長
高金江
詹火田
羅有常
周廷壽
黃廷看
王月耀
陳月豹
蘇汝讀
董清發
周永瑞

澎湖廳湖西第二公
臺南州學甲公
同 嘉義女子公
澎湖廳馬公第一石泉分
臺東廳臺東公
臺南州安順媽祖宮分
同 歸仁公
同 麻豆公
臺南市安平公
臺南州植梧公
同 六甲公
高雄州屏東海豐分
臺南州車路墘公
同 布袋公
同 北門公
高雄州楠梓第二公
臺南州嘉義第一北社尾分

許再旺
沈文章喜
羅文輝
高明文喜
蘇明輝
蘇讚福
吳晚得
陳福龍
王福岳
龔百川
郭阿璘
許有財
徐金山
康水能
謝謙文
劉添喜
蕭海南

臺南市港公
澎湖廳湖西第一公
臺南州樹子脚公
同 飛沙公
同 西螺公
同 嘉義第一公
同 朴子公
同 斗六公
臺南市安平公
臺中州竹山公
臺南州灣子填公
同 荊桐公
高雄州林園公
同 新埤公
高雄州五甲公
同 鳳山公
同 竹田公

洪 程 張 郭 廖 林 李 張 陳 黃 劉 劉 廖 張 宋 劉 劉 章
海 壽 成 江 德 風 星 虎 武 式 叔 萬 榮 啓 鳳 端 錦
壽 松 傳 金 添 春 壽 武 禎 鄒 欽 筆 棟 奎 紅 章

同 長興公
同 新埤公
同 長興公
同 萬壽公
臺東廳新開園公
高雄州美濃公
同 龍肚公
同 仁武公
同 旗山第一公
同 內埔第一公
同 大樹公
同 新北勢公
澎湖廳望安公
高雄州內門第一公
臺南州內寮公

演習科昭和三年五月卒業(二名)

賴 曾 邱 林 李 宋 林 林 林 林 鍾 楊 鍾 黃 宋 簡
元 招 秀 神 文 鎔 廣 鏘 麟 錦 關 安 松 永 溪
發 財 昌 登 彬 經 生 生 生 富 生 仁 善 義 泉

講習科大正十一年三月修了(七八名)

高雄州田寮公
臺南州斗六街
同 北門庄
同 關廟
高雄州鳳山
同 竹田庄
臺南州七十二分公
同 官田番子渡頭分
臺南市入船町二ノ一八二
同 本町二ノ一九
臺南州山上公
同 江厝店公
同 吳殺後公
同 新營公
同 嘉義第二公

邱 春 發
黃 梧 桐
柯 南 猷
盧 振 枝
簡 吉
李 添 傳
黃 大 賓
鄭 文 祥
曾 再 興
會 欽 河
田 萬 枝
何 天 註
黃 聰 英
蔡 仲 金
黃 江 河

同 新化公
同 漚汪公
高雄州新北勢公
臺南州大埤庄
高雄州美濃
同 內埔第二公
臺南州麻豆街役場
高雄州六鏡公
臺南州大林林子前分
同 芽港尾公
高雄州內門
同 車城
澎湖廳赤崁公
同 小池角公
臺南州善化庄
同 白河公
高雄州內埔庄

林 大 鍾 永 張 宗 張 阿 賴 菊 郭 明 郭 新 黃 炎 周 海 東 安 張 金 吳 啓 彭 金 林 平 鄭 鳳 劉 超

澎湖廳小池角竹篙灣分

臺南州麻豆街商業

臺南市末廣町

同 民雄庄

臺南州麻豆街保正

同 安樂公

同 大內庄

高雄州鳳山

同 美濃

臺南市鹽埕公

高雄市高雄第一公

臺南州斗六

臺南州佳里

同 水上湖子內分

高雄州湖內第二公

同 楠梓庄

薛 春 湖 眷

李 雪 宛 湖

許 金 田 宛

郭 明 六 田

李 萬 定 六

楊 闢 上 定

周 輝 採 上

陳 安 元 採

王 敦 厚 元

林 守 盤 厚

曾 五 八 達

× 會 五 八

周 榮 恭 縛

蔡 榮 恭 縛

楊 肇 鼻 恭

凌 肇 鼻 恭

同 斗南庄

同 田寮庄

臺南州嘉義女子公

高雄州潮州公

同 彌陀第二舊港口分

同 美濃公

同 潮州公

臺南州永康公

同 歸仁

同 關廟公

高雄州美濃公

臺南州炭頂厝大湖底分

高雄州佳佐公

臺南州後營公

同 石龜溪公

臺南市明治公

高雄州內埔庄

一一二

劉 清 振 良

潘 振 振 良

林 順 智 架

李 順 智 架

郭 東 松 智

劉 慶 堯 松

賴 安 壽 堯

戴 安 壽 堯

蔡 亨 銘 管

林 錦 電 銘

林 同 昌 電

劉 阿 華 識

鍾 阿 華 識

謝 天 武 華

塗 玉 成 武

林 師 成 武

周 萬 才 臨

同 屏東公館分

臺南州炭頭厝公

同 永康庄大灣一〇〇三

高雄州楠梓

同 九塊庄

臺南州小梅公

同 善化公

高雄州車城公

臺南州斗六

臺南市南門町一ノ二一

高雄州燕巢面前埔分

臺南州新巷

同 嘉義街

講習科大正十二年三月修了(四九名)

高雄州高樹庄

同 湖內庄頂茄苳

蔣 朝 同

黃 丁 貴

謝 金 龍

許 慶 恭

林 紹 昌

吳 紹 昌

盧 竹 林

王 進 添

李 伯 培

黃 吉 光

柳 吉 光

洪 來 其

陳 來 其

陳 順 成

孫 乾 隆

臺南州溫子內公

臺南州麻豆街源隆商店

同 佳里庄

臺南市東門町三ノ四九

高雄州旗山第一公

澎湖廳小池角內安分

高雄州內埔第一老埤分

臺南州龍崎中坑子分

高雄州大樹溪埔分

同 杉林庄

臺南州太子廟公

臺南市港公

臺南州新化新拔林分

高雄州萬丹庄社皮

同 美濃公

臺南州楠西公

蘇 文 裕 舜

陳 春 祐 裕

陳 長 發 祐

林 章 達 發

林 章 達 發

薛 永 福 發

曾 阿 玉 福

侯 圖 壽 玉

顏 水 生 壽

曾 金 華 生

黃 雞 母 華

陳 岡 陵 母

蕭 其 來 陵

林 進 禮 來

劉 得 昌 禮

陳 輝 原 昌

一一三

高雄州大樹公
同 社皮公
同 烏松田草埔分
同 崁頂公
臺南州麻豆公
同 學甲公
高雄州湖內庄頂茄荳
臺南州西港庄役場
高雄州佳冬公
同 燕巢公
同 仁武庄
高雄市高雄第三公
澎湖廳湖西第一公
高雄州路竹庄
同 新北勢公
臺南州歸仁公
高雄州湖內第二公

陳文忠 吳天化 劉復明 陳火炎 胡奕垣 陳來法 鄭文相 蔡長宗 陳阿粟 趙道粟 林朝枝 蔡丙丁 許福枝 洪條福 李讓祥 陳開 薛開臣

臺南州關廟埤子頭分
同 新市公
同 明糖佳里工場
同 市本町三ノ五二
臺南州安順公
同 二重溪公
同 佳里庄
同 善化公
高雄州里港公
臺南州左鎮庄岡子林
高雄州仁武保舍甲分
同 恒春第一公
臺南州大內公
臺中州沙鹿公
臺南州南化公

吳水勇 林文得 林仕君 蔡清塗 王欽明 陳進士 邱學鏞 陳安全 穆德昌 蔡萬青 呂紅毛 楊樞

古木國姓 蘇文柱

公學校乙種本科 大正十五年三月修了(二八名)
正教員養成講習科

同 七股公
高雄州麟洛公
臺南州關廟公
同 七十二分公
高雄市高雄第一公
高雄州旗山第二公
臺中州草屯公
臺南州媽祖廟公
同 新營小
臺南州末廣公
同 大潭公
高雄市高雄第三公(休職中)
臺南州二崙公
臺中州竹山公
高雄州枋寮公
同 車城公
臺南州海豐厝公

林植福 鍾金癸 盧先智 郭益發 洪清藝 徐運來 陳新色 余石陵 大橋克己 陳南己 林福來 林溪河 大關德明 羅林結 陳春田 王慶瀛 李啓義

高雄州彌陀第一公
臺南州大內頭社分
高雄州鳳山公
同 旗山第一公
同 楠梓第一公
臺南州西港公
臺北州宜蘭公
臺中州田中公
高雄州林園公
公學校乙種本科 大正十五年十月修了(一名)
正教員養成講習科
高雄州內埔第二公
公學校乙種校科 昭和二年三月修了(八〇名)
正教員養成講習科
臺南州布袋新塢分
同 崙背貓兒千分
臺中州臺中公
高雄州田寮公

歐寶樹 楊溪水 蘇泰山 李耀堂 謝基全 平間亮一 田中好子 中原忠地 潮平寬一郎 邱書霖 張來喜 廖武立 山本正朝 李甲巳

臺中州竹山公
澎湖廳赤崁公
高雄市高雄第三公
臺南州元長公
同 油車公
同 北門河寮分
高雄州新園公
臺中州南屯公
臺南州布袋公
臺中州大楊公
臺南州民雄公
臺中州大雅公
同 臺中公
高雄州內門第二公
臺南州番子厝公
臺中州埔里公
臺南州溪口公

陳旺連
吳雙獅
蔡天鳳
鄭啓明
廖學輝
王青宮
李文讀
林垂章
相馬龍一
蔡生旺
謝萬添
溫水金
李新發
蕭順臨
莊金泉
渡邊八郎
青木讓

同 好收公
同 中洲公
高雄州屏東公
臺南州官田公
花蓮港廳薄公
臺南州鹽水公
同 土庫公
臺中州南投女子公
高雄州旗山第二公
同 鳳山(休職中)公
臺南州竹崎公
臺南州東石公
臺中州神岡公
高雄州大樹公
臺南州牛挑灣公
同 麥寮公

林文漢
謝欲卿
山田朝良
李長江
池永鍾一
有矢鍾一
本田康人
張時顯
山脇馨
大貫俊夫
高橋信雄
王允棟
張以臣
山崎定雄
小田切等
陳新慶
許龍炳

高雄州枋寮公
臺中州烏牛欄公
同 名間公
臺南州西螺女子公
臺中州碧峰公
臺南市明治公
澎湖廳後寮公
臺南州左鎮公
高雄州大寮公
同 新北勢公
臺中州外中公
臺南州埤頭公
高雄州湖內第三公
同 車城公
同 甲仙公
臺中州和美公
臺南州埤頭公

陳讓華
黃存榮
吳文如
張儒仁
白知母
許丙丁
洪朝明
李燕璋
楊福賜
黃金祥
林端久
楊媽得
黃鳳麟
林貴香
沈貴香
林武通

高雄州滿洲公
臺南州(休職中)
同 左鎮公
臺中州草屯公
高雄州九曲堂公
臺南州大潭公
臺中州追分公
同 皮子寬公
臺南州六甲公
高雄州新埤公
臺中州溪湖公
臺南州布袋公
高雄州內埔第二公
臺南州港城公
同 水溪公
澎湖廳港尾公
臺南市末廣公

楊萬枝
黃裕七
陳文裕
林有忠
羅安心
李廷華
陳金標
黃金清
陳將立
邱虎魁
賴瑞發
蔡清安
鍾德壽
楊成裕
曾淵霖
張明月
曾銅鐘

臺中市臺中女子公
 高雄州內埔第一公
 臺南州四湖公
 高雄州內埔第二公
 臺中州東山公
 高雄市高雄第三公
 臺南州東勢厝公
 同 青寮公

廖繼賢
 鍾錦麟
 汪乃文
 邱發霖
 蔡秋仁
 李宜勤
 陳紹裘
 吳全財

臺南州虎尾惠來厝公
 澎湖廳小池角內按分
 臺南州六斗尾公
 臺東廳臺東公
 高雄州旗山第二公
 澎湖廳馬公第一石泉分
 臺南州安定公
 高雄州屏東公館分
 澎湖廳馬公第一公
 高雄州佳冬公
 同 內埔第二公
 同 小港刺葱脚分
 澎湖廳馬公第一石泉分
 臺南州果毅校公
 同 頂溪洲公
 高雄州旗山第一公
 同 高樹公

黃綜漢
 洪含芙
 侯茂松
 黃炭松
 呂清發
 楊朝和
 洪順聯
 張進祥
 王明發
 蕭秀玕
 黃文良
 蔡丁發
 陳清連
 劉慶斌
 呂萬發
 傅慶盈
 余寅祥

公學校乙種本科昭和三年三月修了(五〇名)
 正教員養成講習科

臺東廳新聞園公
 臺南州山上公
 澎湖廳大嶼公
 臺南市末廣公
 同 安順公
 臺南州嘉義第二公
 同 內寮公

張雙春
 方文道
 陳文塗
 朱金塗
 林壽山
 沈石馬
 施石尾

同 鳳山公
 同 大樹溪埔分
 同 美濃公
 臺南州麥寮公
 高雄州旗山第一公
 同 佳佐公
 臺南州義竹過路子分
 高雄州社皮公
 澎湖廳馬公第二公
 公學校乙種本科正教員養成講習科聽講生
 高雄州德文公
 普通科及演習科聽講生
 高雄州高士佛公

落晃雄
 劉石開
 劉永讚
 王立志
 李振揚
 王世歷
 吳深池
 鄭玉麟
 洪進丁

高雄市高雄第一公
 同
 臺南州內角公
 臺南州新巷公
 臺南州大內公
 高雄州竹田公
 臺中州永靖公
 澎湖廳馬公第二公
 高雄州麟洛公
 高雄州林園公
 同 萬丹新庄子公
 臺南州七十二分土城子分
 臺南州水林公
 高雄州美濃公
 臺南州西螺公
 同 北門蚵寮公
 高雄州龍肚公

張煥德
 松本曠
 蘇祈財
 吳金木
 峯田慶一
 吳阿順
 邱創忠
 陳朝海
 梁鼎玉
 古堅宗德
 李耀芳
 黃全
 松川實則
 林坤生
 梅尾勳
 莊新忠
 北野樂輔

同 鳳山公
 同 大樹溪埔分
 同 美濃公
 臺南州麥寮公
 高雄州旗山第一公
 同 佳佐公
 臺南州義竹過路子分
 高雄州社皮公
 澎湖廳馬公第二公
 公學校乙種本科正教員養成講習科聽講生
 高雄州德文公
 普通科及演習科聽講生
 高雄州高士佛公

內藤八郎
 楠一郎

學力補充講習科修了者

(大正十一年度第一回)(四七名)

張春	張自北	葉水枝	陳鐘英	蕭金池	黃有實	李承佑	陳源沂	鄭芳龍	劉春華	張海尙	高金泉	周清松	李清道
林傳旺	謝裁	林毛	劉阿和	莊文杞	莊麥	張玉	楊致志	邱傳錦	陳心意	方金全	吳樹	王煬波	潘阿力
陳向陽	黃紅毛	林廷文	楊緒銘	陳良仁	黃清江	陳文達	王戊子	吳靜	楊明祥	黃路	林泉	施水	蔡森泰

梁克明

陳金龍

林玉水

學力補充講習科修了者

(大正十一年度第二回)(四九名)

陳德嘉	吳節	李石定	薛瑞麟	李金炒	羅福壽	陳澄波	章萬春	傅有德	簡燼	侯双全	簡慶瑞	莊再智	黃結尾
陳金龍	吳節	盧滿	洪能	會繼志	會國恩	盧明	楊立成	陳芹芳	楊北辰	關炳輝	蘇粗皮	吳啓成	陳挫
林清池	徐守益	徐守益	林清池	陳竹園	何克煌	王三春	陳龍泉	謝宗賢	謝耀西	施樹	楊杏林	陳招烈	劉阿盛

學力補充講習科修了者

(大正十二年度第一回)(九六名)

陳振興	林阿美	吳冬家	羅桂圓	盧艇	李崎	陳啓三	張清柳	施滾	詹德讓	劉榮德	黃朝森	王足恩	翁明			
洪存波	劉阿桂	鍾森全	張福龍	蔡帕	黃清波	楊朝梁	江遜擯	賴傳	陳以波	蔡志明	白青柏	陳木水	松本英熊			
張漢文	林元麟	傅壽榮	蔡帕	張卷四	吳乃蒼	蕭福根	孫萬鐘	謝水居	洪啓明	洪深坑	黃南山	曾朝英				
郭明盤	梁長江	郭孟揚	陳華	許舜敬	王炳烜	陳金元	吳義合	許水錦	王來成	林平	洪金海	蔡南清	李特蘭	姬道榮	楊讓麟	李玉琳
張海樹	王桂塘	王枝	陳庚潭	高新塗	何添富	張添富	蕭有成	洪天賜	蔡懋松	陳衍慶	陳桐	陳松興	戴文章	林文漳	林德玉	劉煥章
鄭清雲	林心	林國斌	蘇登	黃天敏	林金定	楊立鏗	張旺根	李本	陳崑聯	丁炎森	辜坤	朱萬成	林元象	蕭富郎	鍾兆興	邱立春

鍾德尙
蔡達
李同益
李明哲
顏榮華
吳根火

陳慶瑞
林相如
林天成
呂天榮
林廠
張信標

戴如南
鄭如南
林且哲
林名
蔡錦聯
陳恒祿

柯天送
謝蔭
何加生
陳帶
吳何
謝捷三

吳俊傳
李雨俊
陳潮水
陳渠
張松
簡興

柯炭烈
盧丙丁
陳慶輝
周白皮
吳老
何捷三

學力補充講習科修了者

(大正十二年度第二回)(九二名)

趙瓜
黃棟林
李紅
陳宗奇
陳阿日
江海樹
蔡老吉

張淵泉
黃連陸
高煥德
王由九
張錫喜
莊木夏
蔡培庭

王樂得
顏玉海
許有福
謝彪
梁誠意
黃鄧
楊致祥

蔡穠生
陳格
潘圭屎
汪阿滿
黃添順
洪石柱
林金園

薛謝良時
洪成宗
吳自遠
鍾自遠
宋仲貞
古阿清
李聯開

侯焜
蔡圖南
陳嘉興
郭正位
曾仁興
黃丁興
張長發

李才郎
蔡長輝
宋阿發
葉高峯
顏其碩
石再興

李聯翰
雷啓清
陳全財
呂哲
王長順
高榮華

何只經
郭增添
郭如竹
高雲南
林進生

郭進燦
莊傳沛
陳安平
嚴成富
張至寶
劉富

蔡河清
周永昌
蔡永藏
孫樹枝
林達
林牛港

陳金池
黃朝取
徐榮宗
高來成
張清河
黃清漢

學力補充講習科修了者

(大正十二年度第三回)(八五名)

丁瑞乾
劉世練
黃維熊
陳守仁
范洪甲
楊德抱
林應卿
盧瀛潛

蕭興生
謝遵信
劉榮華
張七章
周淵泉
張東山
林秋楓
劉瑞卿

蕭煥文
陳慶華
劉崧袖
張進乾
邵金條
商贊生
石天生
鄭榜生

吳振福
吳元參
程修昌
劉富
張至寶
嚴成富
莊傳沛

林溪浚
林陽樹
吳新民
林新樹
葉阿綿
劉永珍
劉龍傳

卓阿愨
吳清順
溫華玉
蕭樹裕
謝樹瑛
鍾錦全
蔡登鳳
許順吉
董天送

吳泉 洪如老 吳東南
 陳潭海 劉清榮 阮東枝
 高野熊吉 曾捷榮
 パントル

乙種本科 正教員養成講習科修了者

(大正十三年度第一回)(七四名)

黃況 盧文欽 黃木淋
 呂春生 林上 楊坤龍
 李戊 陳淇祥 許煌輝
 楊克勸 陳源 張清機
 甘秋榮 曾茂榮 江興結
 陳鴻德 蕭樹只 劉與堅
 江文欽 沈統 曾拔萃
 賴江和 郭松根 蔡金水
 林春海 謝錫濤 蔡火炎
 顏窓林 陳媽壽 黃顯

林火爐 蔡德地 洪江黨 鄭桂桐
 黃天云 陳石壽 吳順德 柯連祥
 陳維俊 倪旭淇 簡登洋 黃龍飛
 李金昆 王金鐘 張林勝昌 顏慶鐘
 陳奇階 李永鐘 趙清木 林建論
 謝發貴 鄭書箱 林景元 林景論
 李永木 高振坤 宋三清 劉添郎
 楊阿順 陳兆茂 鍾梅貴 王錫桂
 黃魁善 許安生 王水欽 王錫桂
 陳慶春 張其仁 陳耀宗 張其仁
 洪水龍 陳耀宗 黃文藻 陳耀宗
 黃文藻

乙種本科 正教員養成講習科修了者

(大正十三年度第二回)(六五名)

林蕃薯 張景鈴 張淡
 廖允寬 張頂 王阿業
 蔡垂裕 王梅枝 潘添進
 張春音 黃濯 陳進慶
 魏萬松 張杜 朱火生
 趙雅祐 吳木榮 楊德樣
 李清鑾 游鳳森 黃碧玉
 王清通 王寶宗 楊江河
 林開同 黃五湖 莊海川
 蘇慶元 黃三卯 張守良
 賴淵平 許子文 鄭盛
 蔡海濤 曾伯重 黃生財
 劉英賢 廖學而 廖東義
 邵炎山 陳瑞生 呂東摻

乙種本科 正教員養成講習科修了者

(大正十三年度第三回)(五四名)

蔡德來 馬燕 顏善
 黃清味 王山猪 高知法
 蔡家齊 郭福壽 張簡朝闖
 鍾兆福 陳章保 孫春麗
 黃茂 蔡玉杯 劉紹昌
 蔡榮合 林二郎
 張喜祥 黃榮合 林二郎
 張主仔 林萬祥 陳雙合
 潘澎湖 江金郎 陳雙合
 賴彪 楊春癡 江挺生
 劉其修 楊基立
 陳雲潭 吳繩武
 郭柏川 陳源泉
 林凱 洪調水
 郭龍宜 吳

陳和順	張登立	魏五福	謝森江	莊炳堂	郭江讚
劉敏樹	林子禎	賴炳坤	朱天憐	陳科	×黃金龍
陳在	林振芳	許天壽	陳管仲	吳勻	郭火木
陳壬癸	詹承堯	徐現	許芳云	張英	朱銅貢
陳鏞聲	廖承堯	林瑞棟	楊江海	林福	闕清童
陳金鍾	蔡栢松	李石寬	曾德潤	侯宗亨	王主玉
陸伯倫	黎廷古	葉昭彬	陳財	李銀濤	蔡振成
王伯權	鍾肇會	吳欽旺	林德福	高棟	孫炳煌
林耀垣	劉明通	蕭大鼻	林垂昌	周伋	李承章
董阿坤	李清周	賴整宥	曾珠坤	李新松	林盛彬
楊金傳	黃栢奇	莊東	曾天賜	盧竹武	黃見享
鄭獲義	廖生泰	劉繩武	杜守國	洪塗鍛	石明和

臨時公學校教員講習修了者

(大正十年三月)(四五名)

林送	尤成	許本	江藤三郎
鄭水國	卓榮錦	陳金然	齋藤兵吉

小公學校教員養成講習會修了者

(大正十一年三月)(四七名)

鳥丸爲清

竹下每雄	升友靜香	黑川伊三郎
粉川文男	船岡哲雄	和田義光
松島佐莊一	賀來義男	有村信
加藤不可止	島崎作郎	松下喜代次
鈴木篤三郎	三代整	迫田直文
堀之内恒二	奧村利穎	中山常雄
坂口清香	中尾守雄	城菊雄
中村國司	光石正史	岩見金與
内野久二	八幡タケ	前田モツ
中町ミチコ	橋口ハエル	大島とし
小山奈美子	飛田コト	道藤トミエ
佐々キヨシ	吉森ウタコ	有馬阿靜
梶田セキ	河野歌子	松本梅
吉池喜代子	兒島久二	荒木みのる
中田カツ子	富元清	

公學校教員養成講習會修了者

藤下蓮誠	今村幾三郎	佐久間巖二
茶山甚藏	和田義廣	古堅厚永
植松二郎	浦崎康一	安藤定泰
白瀉要	永江仟吾	阿部三郎右衛門
山田秀實	菊地札右衛門	藤木廣治
島袋庄太郎	本田郁郎	松川浩
梶原春芳	山本三郎	香川時雄
喜友名朝教	黒木台次	高木芳雄
吉富松惠	野村秀	平井憲正
日向丈夫	田口範雄	眞榮城朝助
石田俊彦	中島孝一	吉松胤房
田中英雄	篠原榮	伊藤雄太郎
佐藤恒行	渡部正雄	勢理客宗房
須藤茂左工門	豐永盛實	高沼順二
平松繁雄	伴祐治	岩男正人
古堅宗光	富川眞直	

現在職員勤續年數表

(昭和三年十月現在)

本校

官職名	氏名	任官年月	勤續年月
校長	田中友二郎	大正十一年六月	六年五ヶ月
教諭	内田琢磨	同 十年六月	七年五ヶ月
同	西卷南平	同 年七月	七年四ヶ月
同	本田乙之進	同 八年四月	九年七ヶ月
配屬將校	木下昌次	昭和二年三月	一年八ヶ月
教諭	杉山新作	大正十二年五月	五年六ヶ月
同	村上今朝之進	同 九年四月	八年七ヶ月
同	小山朝丸	同 八年四月	九年七ヶ月
同	梶原龍	同 十年四月	七年七ヶ月
同	伊師淳一	昭和二年九月	一年二ヶ月
同	山本磯一	大正十二年四月	五年七ヶ月
同	池満靜次	同 年五月	五年六ヶ月

官職名	氏名	任官年月	勤續年月
同(休職)	水町清	大正十四年四月	三年七ヶ月
教諭	岡田守治	昭和三年四月	七ヶ月
同	小倉房二	大正十二年九月	五年二ヶ月
同	木場操	昭和二年四月	一年七ヶ月
同	井坂司農夫	大正十二年六月	五年五ヶ月
同	伊藤喜内	同 十年四月	七年七ヶ月
同	野々村鹿之助	大正十五年三月	二年八ヶ月
同	胡丙申	同 十四年四月	三年七ヶ月
同	山口好見	昭和二年四月	一年七ヶ月
同	陳保宗	大正十四年九月	三年二ヶ月
同	金成茂生	同 七年八月	十年三ヶ月
同	中村喜熊	同 年十二月	九年七ヶ月

附屬公學校

同	佐藤城雲	同 十年四月	七年七ヶ月
同	近藤章	同 十一年五月	六年六ヶ月
教務囑託	木村秀男	昭和三年九月	二ヶ月
同	瀬戸口武俊	同 年八月	三ヶ月
同	李福如	大正十四年三月	三年八ヶ月
同	陳堯皆	同 七年十月	十年一ヶ月
同	藤島見了	昭和三年四月	七ヶ月十年

官職名	氏名	任官年月	勤續年月
衛生事務囑託	井田博	大正七年九月	十年二ヶ月
同	藤末四郎	同 八年十一月	九年
同	蔡戊巳	同 七年八月	十年三ヶ月
同	王雨卿	同 九年五月	八年六ヶ月
同	河内山績	昭和二年一月	一年十ヶ月
手工助手	陳水坑	大正九年五月	八年六ヶ月
農業助手	李炳南	大正十五年九月	二年二ヶ月

官職名	氏名	任官年月	勤續年月
主事	西卷南平	大正十年七月	七年四ヶ月
訓導兼教諭	上原宗五郎	同 十年四月	七年七ヶ月
訓導	高山勝治	同 年同月	七年七ヶ月
同	河野道彦	同 十一年五月	六年六ヶ月
同	橋口正	同 十年四月	七年七ヶ月
同	上田四郎	同 年同月	七年七ヶ月
同	倉田俊男	同 年同月	七年七ヶ月

官職名	氏名	任官年月	勤續年月
訓導	山口尙隆	大正十年四月	七年七ヶ月
同	永越信治	昭和三年四月	七ヶ月
同	梁永齡	大正十年四月	七年七ヶ月
同	吳羅傳	同 年同月	七年七ヶ月
同	王金泉	同 年九月	七年二ヶ月
同	永岡一馬	昭和三年四月	七ヶ月
同	轟武	大正十五年三月	二年八ヶ月

274
26

日 出 山

終

